

園芸学部研究業績紹介

1. この研究業績紹介には、本学部の在任教官、大学院生、研究生が2005年7月～2006年6月までに発表した資料（研究論文、短報、総説、報告書、著書、訳書、計画、設計作品、特許、口頭発表、解説文、実用記事）を学科、講座、研究室別にまとめたものである。

2. 資料の配列は教育研究分野・研究室ごとに行い、教育研究分野・研究室内は以下に示す資料分類番号1～9により、さらに筆者ABC順、発表年順に資料番号をつけて配列してある。

資料分類および番号

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| 1—研究論文、短報 | 6—口頭発表（学会・研究会・講演会・シンポジウム・セミナー等における） |
| 2—著書、訳書 | 7—計画、設計 |
| 3—報告書 | 8—特許 |
| 4—総説、研究（調査）資料 | 9—その他 |
| 5—普及・実用記事 | |

目 次

生物生産科学科	庭園デザイン学 (18)
園芸植物科学講座	都市環境デザイン学 (18)
果樹園芸学 (1)	地域計画学 (19)
蔬菜園芸学 (1)	風景計画学 (19)
花卉園芸学 (2)	環境文化史学 (20)
作物学 (2)	環境植物学講座
生物生産基礎科学講座	緑地植物学 (20)
土壌学 (3)	環境植栽学 (21)
植物栄養学 (6)	緑地環境管理学 (22)
植物病学 (6)	緑地環境システム学講座
応用動物昆虫学 (7)	緑地生態学 (23)
生態制御化学 (8)	緑地気象学 (23)
植物構造学 (8)	緑地環境工学 (24)
園芸植物工学講座	緑地環境情報学 (24)
遺伝・育種学 (8)	園芸経済学科
環境調節工学 (10)	園芸経営情報学講座
植物生産工学 (11)	園芸経営技術学 (26)
植物細胞工学 (12)	園芸情報処理学 (27)
生物資源化学講座	国際地域情報学 (29)
生物化学 (13)	生物資源経済学講座
食品栄養学 (14)	園芸経営経済学 (29)
生物資源利用学 (15)	園芸流通経済学 (29)
微生物工学 (15)	留学生・国際交流担当 (31)
分子生体機能学 (16)	園芸別科 (32)
緑地・環境学科	フィールド科学センター (33)
環境デザイン学講座	

生物生産学科

園芸植物科学講座

果樹園芸学

- 1-1 小原 均・阪本大輔・大川克哉・中山真義・松井弘之 (2005): ジベレリン, ホルクロルフエニユロン, ストレプトマイシンおよび内生ジベレリン様物質処理がブドウ '甲州' の無種子果形成に及ぼす影響. J. ASEV Jpn. 16: 68-79.
- 1-2 小原 均・岩楯麻由・棟方千夏・山下裕之・大川克哉・三輪正幸・松井弘之 (2006): ブドウ '甲州', 'コンコード' および 'ナイアガラ' の無種子果形成について. J. ASEV Jpn. 17: 14-20.
- 1-3 Ohkawa, K., H. Ohara, Y. Kurita, T. Fukuda, Z.U. Khan and H. Matsui (2006): Thinning effect of jasmonic acid derivative, *n*-propyl dehydrojasmonate on Japanese pear 'Hosui'. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 75: 129-134.
- 1-4 大川克哉・白石奈穂・小原 均・松井弘之 (2006): 数品種のニホンナシに対するエセフォンの摘花効果. 園学研. 5: 69-73.
- 1-5 大川克哉・白石奈穂・小原 均・松井弘之 (2006): ニホンナシに対するエセフォンの摘花作用. 園学研. 5: 171-177.
- 1-6 八幡茂木・佐藤三郎・小原 均・松井弘之 (2005): ピワの倍数性による形態および結実特性の差異と二倍体と四倍体の交雑による三倍体の獲得. 園学研. 4: 379-384.
- 1-7 八幡茂木・三輪正幸・佐藤三郎・小原 均・松井弘之 (2006): 三倍体ピワに対するGA₃とCPPU処理が無種子果の生長と品質に及ぼす影響. 園学研. 5: 157-164.
- 3-1 松井弘之 (2006): ピワ果実の無種子化に関する内生植物ホルモン学的研究. 平成15年度~平成17年度科学研究費補助金 (基盤研究(B2)) 研究成果報告書. p 1-72.
- 6-1 小原 均・棟方千夏・岩楯麻由・山下裕之・大川克哉・松井弘之 (2005): ブドウ '甲州', 'コンコード' および 'ナイアガラ' の無種子化について. J. ASEV Jpn. 16: 132-133.

蔬菜園芸学

- 1-1 Suguru Sato, Sachi Sakaguchi, Hajime Furukawa, Hideo Ikeda (2006), Effects of NaCl application to hydroponic nutrient solution on fruit characteristics of tomato (*Lycopersicon esculentum* Mill.), *Scientia Horticulturae* 109, 248-253
- 1-2 Suguru Sato, Maya Kamiyama, Tomoko Iwata, Noriko Iwata, Hajime Furukawa, Hideo Ikeda (2006), Moderate increase of mean daily temperature adversely affects fruit set of *Lycopersicon esculentum* by disrupting specific physiological processes in male reproductive develop-

ment, *Annals of Botany* 97, 731-738

- 2-1 篠原 温・北条雅章・丸尾 達 (2006), 野菜のつくり方, 総ページ数:144, (株)誠文堂新光社
- 2-2 丸尾 達 (2006), 最新施設園芸学, 古在豊樹・後藤英司・富士原和宏編著 分担執筆: 第4章 施設園芸作物の栽培管理, pp 125-143, 150-168, 総ページ数:210, (株)朝倉書店
- 3-1 丸尾 達 (2005), 養液栽培と育種を組み合わせた多収トマトの可能性, 平成17年度 課題別研究会資料—トマト生産の今後の方向と育種—養液栽培をめぐる諸問題— 資料57-65, (株)農業・生物系特定産業技術研究機構 野菜茶業研究所・(株)日本種苗協会編
- 3-2 篠原 温 (2005), 消費者の心をつかみ, 外国産にも対抗するための衛生管理技術 (GAP) の実践, 27回施設園芸総合セミナー 資料32-38 (株)日本施設園芸協会編
- 4-1 丸尾 達 (2005), ベビーリーフの生産技術—自動収穫機を使用したベビーリーフの刈り取り再生栽培に関する研究—, 農耕と園芸 60-11: 177-181
- 4-2 丸尾 達 (2006), 施設園芸における共通プラットフォーム構築の重要性—欧州並み多収トマト生産システムは可能か—, 施設と園芸, 133 (2006春): 4-9
- 4-3 篠原 温 (2006), 野菜施設栽培に求められるもの, 野菜情報, 22: 6-10
- 4-4 篠原 温 (2006), スーパーホルト・プロジェクトへの期待, 施設と園芸, 134 (2006夏): 6-11
- 6-1 岡野武士・丸尾 達・高垣美智子・篠原 温 (2005), 富栄養化淡水の給水量がエンサイの生育に及ぼす影響, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, pp 680
- 6-2 笠原健作・高垣美智子・丸尾 達・篠原 温 (2005), 富栄養化淡水の浮遊性物質 (SS) を利用した野菜栽培システムの構築, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, pp 679
- 6-3 石川正美・桑田主税・伊藤善一・上曾山大・丸尾 達 (2005), 種子繁殖型イチゴ品種の育成 (第一報) 自殖系統における採種量と出芽特性, 園学雑74別2: 428
- 6-4 西森裕夫・東 卓弥・川西孝秀・神藤 宏・佐藤 卓 (2006), 実エンドウのハウス栽培における夜温および遮光が莢の品質の及ぼす影響, 園学雑74別2: 461
- 6-5 川西孝秀・神藤 宏・西森裕夫・東卓弥・佐藤 卓 (2005), 実エンドウのハウス栽培における遮光時期が莢及び子実肥大に及ぼす影響, 園学雑74別2: 462
- 6-6 小粥理絵・篠原 温・丸尾 達・雨宮良幹・山口秀幸 (2005), ヨウ素吸着樹脂を用いた培養液殺菌技術の開発に関する研究, FIU Report, No.8: 95-96, ヨウ素利用研究会
- 6-7 権田かおり・山口秀幸・篠原 温・丸尾 達 (2005), 培養液へのヨウ素添加がトマト, ホウレンソウの生育およびヨウ素蓄積に及ぼす影響, FIU Report, No.8:

- 97-98, ヨウ素利用研究会
- 6—8 Toru Maruo, M. Hohjo and Y. Shinohara (2005), High density-low truss NFT tomato production system with quantitative nutrient management using light dependent control, Abst. Int. Symposium on Growing Media 2005, Angers (France), pp 98
- 6—9 伊藤善一・丸尾 達・石川正美・桑田主税・篠原 温 (2006), イチゴ種子の発芽能向上のための種子精選および種子処理法の開発 (第2報) 濃硫酸処理が発芽に及ぼす影響, 園学雑75別1:352
- 6—10 村岡修一・丸尾 達・篠原 温 (2006), トマトのNFT栽培における循環液量と排液の少量化に関する研究, 園学雑75別1:377
- 6—11 一色正美・佐藤 卓・丸尾 達・篠原 温 (2006), トマト低段密植栽培における子葉直上摘心2本仕立て法に適した品種特性の検討, 園学雑75別1:355
- 6—12 中里優美・松本二郎・宮本浩邦・丸尾 達 (2006), ガスコージェネレーションによる省エネ小規模施設栽培技術の開発, 園学雑75別1:383
- 6—13 馬島伸郷・丸尾 達・高垣美智子・篠原 温 (2006), 養液栽培を用いたベビーリーフの刈り取り再生栽培に関する基礎的研究, 園学雑75別1:381
- 6—14 小粥理絵・山口秀幸・丸尾 達・雨宮良幹・篠原 温 (2006), 循環式養液栽培におけるヨウ素吸着樹脂を用いた培養液の殺菌技術の開発, 園学雑75別1:376
- 6—15 権田かおり・山口秀幸・丸尾 達・篠原 温 (2006), 培養液へのヨウ化物イオン添加がトマトならびにホウレンソウの生育とヨウ素蓄積に及ぼす影響, 園学雑75別1:126
- 6—16 PUERTA Alejandro Raul・佐藤 卓・丸尾 達・篠原 温 (2006), NFTレタス栽培における培養液の日射比例型量的管理法, 園学雑75別1:127
- 6—17 丸尾 達 (2006), 極地における植物工場の設営, 第3回南極設営シンポジウム—③南極で利用できる新しい技術—国立極地研究所 2006. 06. 02
- ### 花卉園芸学
- 1—1 Ando, T., N. Ishikawa, H. Watanabe, H. Kokubun, Y. Yanagisawa, G. Hashimoto, E. Marchesi and E. Suárez (2005): A morphological study of the *Petunia integrifolia* complex (Solanaceae), *Annals of Botany*, 96, 887-900.
- 1—2 Ando, T., S. Soto and E. Suárez (2005): New records of *Petunia* (Solanaceae) for the Argentinean flora, *Darwiniana*, 43, 64-68.
- 1—3 Matsubara, K., H. Kodama, H. Kokubun, H. Watanabe and T. Ando (2005): Two novel transposable elements in a cytochrome P 450 gene govern anthocyanin biosynthesis of commercial petunias, *Gene*, 358, 121-126.
- 1—4 Nakamura, K., K. Matsubara, H. Watanabe, H. Kokubun, Y. Ueda, N. Oyama-Okubo, M. Nakayama and T. Ando (2006): Identification of *Petunia hybrida* cultivars that diurnally emit floral fragrance, *Scientia Horticulturae*, 108 (1), 61-65.
- 1—5 Tatsuzawa, F. and T. Ando (2005): Determination of minor floral anthocyanins in a red-flowered petunia, *Journal of the Japanese Society for Horticultural Science*, 74 (6), 482-484.
- 2—1 Ando, T. (2006): The Japanese personality and the use of horticultural products, *Horticulture in Japan 2006*, The Japanese Society for Horticultural Science ed., 4-8.
- 6—1 陳素梅・松原紀嘉・國分 尚・児玉浩明・渡辺 均・安藤敏夫 (2006): ペチュニアと近縁属の遺伝資源解析—市販品種のHf1遺伝子の起源—, 園学雑, 75別1, 177.
- 6—2 Kokubun, H., T. Ando, M. Mii, H. Watanabe and E. Suárez (2005): Molecular phylogeny of Solanaceous plants native to Argentina and justification of Sclerophylacaceae, *The 7th World Petunia Days*.
- 6—3 國分 尚・中野 信・安藤敏夫・渡辺 均・Goro Hashimoto・Eduardo Marchesi・Enrique Suárez (2005): ペチュニアと近縁属の遺伝資源解析—アルゼンチン・ブラジル産 *Petunia axillaris* の自家 (不) 和合性, 園学雑, 74別2, 494.
- 6—4 國分 尚・渡辺 均・安藤敏夫 (2006): オタネニンジン栽培の効率化に関する研究 —オタネニンジンの光合成特性—, 園学雑, 75別1, 169.
- 6—5 近藤雅俊・大久保直美・西村繁夫・安藤敏夫・中山真義 (2005): *Petunia axillaris* 系統間における香気成分の変異, 園学雑, 74別2, 511.
- 6—6 Matsubara, K., S-m. Chen, Y. Hirayama, H. Kodama, H. Watanabe, H. Kokubun, T. Ando (2005): Origin of mutations for genes encoding F3'5'H of commercial petunias, *The 7th World Petunia Days*.
- 6—7 松原紀嘉・中島 拓・児玉浩明・渡辺 均・國分 尚・安藤敏夫 (2005): 市販ペチュニア品種のアントシアニン合成系の解析 —花冠色素判別DNAマーカーの開発—, 園学雑, 74別2, 598.
- 6—8 両川公治・渡辺 均・安藤敏夫・Goro Hashimoto・Eduardo Marchesi・Enrique Suárez (2005): ペチュニアと近縁属の遺伝資源解析—ペチュニア野生種の繁殖様式, 園学雑, 74別2, 495.
- 6—9 渡辺 均・安藤敏夫・町田 誠・Goro Hashimoto・Eduardo Marchesi・Enrique Suárez (2006): ペチュニアと近縁属の遺伝資源解析 —ペチュニア野生種の種子休眠と休眠打破法—, 園学雑, 75別1, 176.
- ### 作物学
- 1—1 Inamullah and A. Isoda (2005): Adaptive changes in soybean and cotton under water stress II. Changes in CO₂ assimilation rate, chlorophyll fluorescence and photochemical reflectance index in relation to leaf temperature. *Plant Prod. Sci.*, 8, 131-138.
- 1—2 Tashiro T., Y. Yamamoto, A. Tanaka, and Y. Hase (2005): Effects of ion beam irradiation on the shoots regeneration from callus and shoot apex of garlic (*Allium sativum* L.). *TIARA Annual Report 2004*, 66-68.
- 2—1 野島 博 (2005): 有機農業と環境保全型農業. 食品

- 認証ビジネス講座, 松田友義編, 東京, 幸書房, pp. 57-67
- 2—2 田代 亨 (2006): 医食農同源のサイエンス, 2章2 赤米・紫黒米・緑米 —日本人と米—. 安藤敏夫編, 東京, 株式会社サイエンスハウス, pp. 79-90
- 3—1 野島 博 (2005): ナミビア大学農学部強化支援計画報告書集. 独立行政法人国際協力機構アフリカ部 分担, 南部アフリカチーム
- 3—2 田代 亨・山崎克巳 (2006): ゴマの有用変異体の創出に関する基礎的研究 —緩照射M₁世代の出芽と初期成育への影響—. 平成17年度放射線育種場共同利用研究報告集録, 6-8.
- 6—1 磯田昭弘・曹鉄華 (2005): 水分ストレス条件下におけるラッカセイの光合成関連形質の反応. 日本作物学会関東支部会報, 20, 50-51.
- 6—2 磯田昭弘・高橋秀一・王培武・李治遠 (2005): 中国乾燥地域における有機質肥料及び土壌改良剤がダイズの生育に及ぼす影響. 日本作物学会関東支部会報, 20, 80-81.
- 6—3 磯田昭弘・海保ひとみ・大岩拓也 (2005): 発酵鶏糞肥料がラッカセイの生育および収量に及ぼす影響. 日本作物学会関東支部会報, 20, 82-83.
- 6—4 磯田昭弘・大岩拓也 (2005): 緩効性窒素施肥栽培がラッカセイの生育, 収量および根粒形成に及ぼす影響. 日本作物学会関東支部会報, 20, 84-85.
- 6—5 Nojima, H., Ninh Thi Phip, Tashiro, T. (2005): Effects of seed weight on germination and seedling growth of Touki seed (*Angelica acutiloba* Kitagawa). 日本作物学会関東支部会報, 20, 62-63
- 6—6 片山健至・小堀里恵・鈴木利貞・並木満夫・田代 亨 (2005): ゴマ種子の抗酸化性リグナンであるセサミノールの生合成. 日本農芸化学会2005年度関西・中四国・西日本支部合同大会 講演要旨集, 66.
- 6—7 片山健至・小堀里恵・鈴木利貞・並木満夫・田代 亨 (2005): ゴマの機能性リグナン, 特にセサミノールの生合成について. 第50回 リグニン討論会講演集, 82-85.
- 6—8 田代 亨 (2005): ゴマの化学成分の変動要因 —遺伝資源と栽培環境—. Sesame Newsletter 19, 7-8.
- 6—9 磯田昭弘・成谷 哲・李治遠・王培武 (2006): 中国乾燥地でのダイズ栽培における根粒菌の働き. 日本作物学会紀事, 75 (別号1), 446-447.
- 6—10 野島 博, 宮崎耕平 (2006): 尿素の葉面散布がラッカセイの子実重に与える影響. 日本作物学会紀事, 75 (別号1) 92-93.
- 6—11 江原 宏・谷 明子・橋本 篤・山村拓司・安井翔・林 尚子・田代 亨・内藤 整 (2006): 登熟期に高温・乾燥ストレスを受けた稲体のセンシング情報の品種間比較. 日作紀75 (別号1): 324-325.
- 6—12 田代 亨・福田靖子・並木満夫 (2006): ゴマ種子の成長にともなうリグナン関連物質の変化. 日作紀75 (別号1), 256-257.
- 6—13 田代 亨・山本陽子・田中 淳・長谷純宏 (2006): イオンビーム照射によるニンニクの突然変異誘発. 第1回高崎量子応用研究シンポジウム要旨集, 129
- ## 生物生産基礎科学講座
- ### 土壌学
- 1—1 Murakami, M., Furukawa, Y., and Inubushi, K. (2005): Methane production after liming to tropical acid peat soil, *Soil Sci. Plant Nutr.*, 51 (5) (PSILPH Special Issue), 697-699.
- 1—2 Ogiyama, S., Sakamoto, K., Suzuki, H., Ushio, S., Anzai, T. and Inubushi, K. (2005): Accumulation of zinc and copper in an arable field after animal manure applications, *Soil Sci. Plant Nutr.*, 51 (6), 801-808.
- 1—3 Ogiyama, S., Sakamoto, K., Suzuki, H., Ushio, S., Anzai, T. and Inubushi, K. (2006): Measurement of concentrations of trace metals in arable soils with animal manure application using instrumental neutron activation analysis and the concentrated acid digestion method, *Soil Sci. Plant Nutr.*, 52 (1), 114-121.
- 1—4 Jumadi, O., Hala, Y., and Inubushi, K. (2005): Production and emission of nitrous oxide and responsible microorganisms in upland acid soil in Indonesia, *Soil Sci. Plant Nutr.*, 51 (5) (PSILPH Special Issue), 693-696.
- 1—5 Priyadi, K., Hadi, A., Siagian, T.H., Nisa, C., Azizah, A., Raihani, N., and Inubushi, K. (2005): Effect of chicken manure and microbial inoculation on microbial properties of two acidic wetland soils and sweet corn performance in Indonesia, *Soil Sci. Plant Nutr.*, 51 (5) (PSILPH Special Issue), 689-691.
- 1—6 Simandi, P., Takayanagi, M., and Inubushi, K. (2005): Changes in the pH of two different composts are dependent on the production of organic acids, *Soil Sci. Plant Nutr.*, 51 (5) (PSILPH Special Issue), 771-774.
- 1—7 Suzuki, H., Suzuki, Y., Kumagai, H., Nogawa, N., Kawate, M., Sawahata, H., Sakamoto, K. and Inubushi, K. (2006): Influence of sewage sludge compost applications on uptake of element by cultivated crops in a brown forest soil—Measurement by neutron activation analysis—, *RADIO-ISOTOPES*, 55 (3), 135-145.
- 1—8 手嶋さぎり・坂本一憲 (2006): エンバク根とユーカリ根より分離した根部定着糸状菌がキャベツ苗に示す発芽および生育促進効果, 土肥誌, 77(3), 265-272.
- 1—9 Tirol-Padre, A., Tsuchiya, K., Inubushi, K., and Ladha, J. K. (2005): Enhancing soil quality through residue management in a rice-wheat system in Fukuoka, Japan. *Soil Sci. Plant Nutr.*, 51 (6) 849-860.
- 1—10 Ushiwata, S.Y. and Inubushi, K. (2005): Influence of plant residues after steam-treatment with high temperature and pressure on soil microbial biomass C and N, water-soluble C and N, and pH, *Soil Sci. Plant Nutr.*, 51 (5) (PSILPH Special Issue), 775-777.
- 1—11 Watanabe, M., Takamatsu, T., Koshikawa, K.M., Sakamoto, K. and Inubushi, K. (2006): Simultaneous determination of atmospheric sulfur and nitrogen oxides us-

- ing a battery-operated portable filter pack sampler, *J. Environ. Monit.*, 8, 167-173.
- 1—12 Xu, X., Boeckx, P., Van Cleemput, O., and Inubushi, K. (2005): Mineral nitrogen in a rhizosphere soil and in standing water during rice (*Oryza sativa* L.) growth: effect of hydroquinone and dicyandiamide, *Agriculture, Ecosystems and Environment*, 109 (1-2), 107-117.
- 1—13 Xu, X., and Inubushi, K. (2005): Mineralization of nitrogen and N₂O production potentials in acid forest soils under controlled aerobic conditions, *Soil Sci. Plant Nutr.*, 51 (5) (PSILPH Special Issue), 683-688.
- 2—1 犬伏和之 (2005): 土壤生物による有機物の分解と各種元素の循環, 土壤サイエンス入門, 三枝正彦・木村真人編, 文永堂出版, 東京, 158-167.
- 2—2 犬伏和之 (2005): インドネシア水田におけるメタン発生制御とその評価, 続・環境負荷を予測する—モニタリングとモデリングの発展, 波多野隆介・犬伏和之編, 博友社, 東京, 289-306.
- 3—1 犬伏和之 (2006): 超強酸性土壌における微生物の生態と共生機構, 平成17年度科学研究費(A)1成果報告会資料
- 3—2 Inubushi, K., and Mitomi, T. (2006): Development and regional evaluation of mitigation technologies for CH₄ and N₂O emissions from cultivated lands in Indonesia—Interim report, CU and NIAES
- 3—3 犬伏和之・村上未央・オスランジュマディ・水野崇行・下西翼 (2006): わが国とアジア諸国の農耕地におけるCH₄, N₂Oソース制御技術の開発と広域評価, 環境省地球環境総合推進費成果報告書, p. 242-257.
- 3—4 Lou, Y., Mizuno, T., Inubushi, K., Kobayashi, K., and Hasegawa, T. (2006): Methane flux and dissolved methane in a rice soil exposed to CO₂ elevation, 平成17年度科学研究費(B)1成果報告会資料
- 3—5 坂本一憲 (2006): ダイズの過剰菌根変異体を用いたアーバスキュラー菌根共生系の成立と元素供給能の解明 (課題番号16380046), 平成16~17年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究(B)) 研究成果報告書, p. 1-147 (分担執筆).
- 3—6 坂本一憲・山本大輔 (2006): 平成17年度木質バイオマス利活用実用化促進事業, 木炭新用途開発研究成果 (中間) 報告書, p. 1-125 (分担執筆).
- 3—7 宍戸雅宏・篠山浩文・坂本一憲 (2006): 里山における生態系の機能再生・向上技術の開発, 平成17年度森林総合研究所受託研究報告書.
- 3—8 鈴木弘行・村松雅子・鈴木悠一・萩山慎一・熊谷宏・坂本一憲・野川憲夫 (2006): アーバスキュラー菌根を形成した植物の微量元素分析と植物保護技術としてのアーバスキュラー菌根菌の利用可能性の検討, 原研施設利用共同研究成果報告書—通巻44号.
- 4—1 犬伏和之 (2006): 土壤科学の最前線: アジアからの土壤科学のメッセージ—国際土壤科学会議中間会議と日本学術会議公開シンポジウム—, 学術の動向, 2005. 12, 68-70.
- 4—2 Inubushi, K., Sakamoto, K. and Sawamoto, T. (2005): Properties of microbial biomass in acid soils and their turnover, *Soil Sci. Plant Nutr.*, 51 (5) (PSILPH Special Issue), 605-608.
- 4—3 篠山浩文・西野文智・塚越 覚・坂本一憲・百原新・沖津 進 (2006): 千葉県木質バイオマス新用途開発プロジェクトから山武町バイオマスタウン構想の展開へ, 食と緑の科学, 60, 91-97.
- 5—1 犬伏和之 (2006): 書評, タイ国東北部イーサンに光を (八田貞夫ほか著), 土と微生物, 60(1), 81.
- 5—2 南澤 究・犬伏和之 (2006): 農耕地土壌からの地球温暖化ガスN₂O発生とその制御, 水環境学会誌, 29 (2), 67-71.
- 5—3 鈴木創三・田村憲司・坂本一憲 (2006): シンポジウム「土壌生成における微生物の役割」への期待, ペドロジスト, 49(2), 89.
- 6—1 Amkha, S., and Inubushi, K. (2006): Effects of nitrogen fertilizer on plant growth and N₂O flux, Annual Meeting of Jpn. Soc. Soil Sci. Plant Nutr., Abstract, p. 26.
- 6—2 Amkha, S., and Inubushi, K. (2006): N₂O emission and growth of a leafy vegetable (*Brassica campestris* L.) as affected by urea forms, 14th World Fertilizer Congress, Chaing Mai, Thailand, Abstract, p. 25.
- 6—3 Hadi, A., Inubushi, K., and Yagi, K. (2005): Greenhouse gas emissions and microbial properties of paddy soils in Japan and Indonesia as influenced by water management, International Rice Conference, Bali, Indonesia, Abstract.
- 6—4 Inubushi, K., Muramatsu, Y., Murakami, M., Hadi, A., and Yagi, K. (2006): Potential and applicability of mitigation options for methane emissions from paddy fields in South Kalimantan, Indonesia—A case study, International Workshop for Management of Agroecosystem and Greenhouse Gas Emissions, Tsukuba, Abstract, p. 53.
- 6—5 Inubushi, K., Mizuno, T., Funabiki, T., and Yagi, K. (2005): Monitoring of methanotrophs in paddy soil and plant, In Plant Nutrition for Food Security, Human Health and Environmental Protection (Proceedings of 15th IPNC), Ed. C.J. Li et al., p. 1120-1121, Tsinghua University Press, Beijing.
- 6—6 Inubushi, K. and Sakamoto, K. (2005): Current progress in soil science research in Chiba University, Japan, Academic Report in Laboratory of Atmospheric Physical Chemistry, Chinese Academy of Science, Beijing.
- 6—7 Inubushi, K. (2005): Interactions between soil microbial biomass and dynamics of C and N in soil ecosystem, International Symposium 2005, Application of the emerging soil research to the conservation of agricultural ecosystems, Extended Abstract, p. 268-269.
- 6—8 Inubushi, K. (2006): Effect of elevated atmospheric CO₂ on microbial metabolisms in paddy field, 5th Asia-Pacific Biotechnology Congress and 35th Annual Convention of Philippine Society for Microbiology, Abstract.
- 6—9 犬伏和之 (2006): 土壌圏を作った微生物たち, 農芸化学会シンポジウム, 京都.
- 6—10 Inubushi, K., Furukawa, Y., Itang, A.M., Tsuruta, H., and

- Yagi, K. (2006): Greenhouse gas exchange in rice paddies in tropical peatlands, International Workshop on Vulnerability of Carbon Pools of Tropical Peatlands in Asia, Pekanbaru, Indonesia.
- 6—11 北原克也・坂本一憲・手嶋さぎり (2005): 根部定着性糸状菌 *Penicillium* sp. EU0013が花卉植物種子に示す発芽促進効果, 日本土壤肥料学会講演要旨集, 51, p. 49.
- 6—12 小林和彦・八木一行・程為国・犬伏和之 (2005): 大気CO₂濃度上昇が植物—土壤系に及ぼす影響, FACE (開放系大気CO₂増加) 実験で分かってきたこと, C Cycle Symposium, 東京
- 6—13 Khalil, M.I., Schmidhalter, U., Gutser, R., and Inubushi, K. (2006): Comparative study of urea granule sizes and placements with or without urease/nitrification inhibitors on N₂O emissions from a loess silt loam, International Workshop for Management of Agroecosystem and Greenhouse Gas Emissions, Tsukuba, Abstract, p. 58.
- 6—14 見富健志・宇田川弘勝・犬伏和之・渡邊未来・高村典子 (2005): 水生植物群落の脱窒活性を野外で測定する試み (その2) 季節変化と脱窒部位, 日本土壤肥料学会講演要旨集, 51, p. 168.
- 6—15 Murakami, M., Hadi, A., Ali, A., Iswandi, A., Shimonishi, T., Yagi, K., and Inubushi, K. (2005): Greenhouse gas production from paddy fields in Indonesia, International Symposium in Ibaragi University, Abstract, p. 72.
- 6—16 Murakami, M., Jumadi, O., Ali, A., Yagi, K., and Inubushi, K. (2006): Emission and mitigation of the various greenhouse gases from paddy fields in the Southeast Asia (Field and Laboratory experiment), International Workshop for Management of Agroecosystem and Greenhouse Gas Emissions, Tsukuba, Abstract, p. 56.
- 6—17 野原慈久・坂本一憲 (2005): ダイズのアーバスキュラー菌根形成に及ぼす植物体茎葉部の影響, 日本土壤肥料学会講演要旨集, 51, p. 52.
- 6—18 Ogiyama, S., Sakamoto, K., Suzuki, H., and Inubushi, K. (2005): Effect of pig farmyard manure application on zinc and copper accumulation in soil and their uptakes by plants, Abstracts of the Joint International Symposia for Subsurface Microbiology (ISSM 2005) and Environmental Biogeochemistry (ISEB XVII), p. 85.
- 6—19 荻山慎一・坂本一憲・鈴木弘行・犬伏和之 (2005): 家畜ふん堆肥を連用した畑土壌における各種元素の作物移行性—中性子放射化分析法による多元素同時解析, 日本土壤肥料学会講演要旨集, 51, p. 176.
- 6—20 Ogiyama, S., Sakamoto, K., Suzuki, H., Ushio, S., Anzai, T. and Inubushi, K. (2005): Accumulation and plant uptake of zinc and copper in arable fields after animal manure applications, *In Plant Nutrition for Food Security, Human Health and Environmental Protection (Proceedings of 15th IPNC)*, Ed. C.J. Li et al., p. 682-683, Tsinghua University Press, Beijing.
- 6—21 Jumadi, O., Muis, A., Ali, A., Hadi, A., Inubushi, K. and Yagi, K. (2005): Effect of fertilizer types on greenhouse gases emission from corn crop in Indonesia, Annual Meeting of Jpn Soc Soil Sci. Plant Nutr., Abstract, p. 190.
- 6—22 Jumadi, O., Hadi, A., Ali, A., Iswandi, A., Yagi, K., Amkha, S., and Inubushi, K. (2005): Emission of N₂O from upland soil of Indonesia affected by fertilizer management, International Symposium in Ibaragi University, Abstract, p. 69-70.
- 6—23 坂本一憲・濱脇康介・岡部晃久 (2005): スギ樹皮を利用した園芸培土における花卉植物の生育, 日本土壤肥料学会関東支部大会講演要旨集, p. 20.
- 6—24 坂本一憲・北原克也・手嶋さぎり (2006): 糸状菌 *Penicillium* sp. EU0013株は花卉植物種子の発芽を促進する, 日本菌学会50周年記念大会 (千葉大会) 講演要旨集, p. 123.
- 6—25 坂本一憲・野原慈久 (2005): ダイズの茎葉部はアーバスキュラー菌根の樹枝状体形成を制御する, 第15回植物微生物研究会講演要旨集, p. 6-7.
- 6—26 Sakamoto, K. and Tsukui, M. (2005): Autoregulation system of soybean controls both rhizobial nodulation and arbuscular mycorrhizal colonization, *In Plant Nutrition for Food Security, Human Health and Environmental Protection (Proceedings of 15th IPNC)*, Ed. C.J. Li et al., p. 824-825, Tsinghua University Press, Beijing.
- 6—27 坂本一憲・津久井真紀 (2006): ダイズの根粒超着生変異体に共生するアーバスキュラー菌根菌のフロラ解析, 日本土壤微生物学会2006年度仙台大会講演要旨集, p. 12.
- 6—28 柴原藤善・犬伏和之 (2006): 土壌類型の相異が水田土壌中の微生物バイオマス窒素の動態に及ぼす影響, 日本土壤微生物学会2006年度仙台大会講演要旨集, p. 39.
- 6—29 宍戸雅宏・横山秀美・門馬法明・坂本一憲・宮下俊一郎 (2006): 紫紋羽病発生リンゴ園と隣接林地の土壌微生物群, 日本土壤微生物学会2006年度仙台大会講演要旨集, p. 35.
- 6—30 Shiratori, Y., Watanabe, H., Shiga, T., Furukawa, Y., and Inubushi, K. (2006), Mitigation effects of drainage on methane emission from poorly-drained paddy field, International Workshop for Management of Agroecosystem and Greenhouse Gas Emissions, Tsukuba, Abstract, p. 61.
- 6—31 Suprihati, Iswandi, A., Sabiham, S., Murdiyarso, D., Djajakirana, G., and Inubushi, K. (2005): Effect of water managements on methane flux and population of soil microbes at rice field in West Jawa, Indonesia, International Symposium in Ibaragi University, Abstract, p. 71.
- 6—32 Suprihati, Iswandi, A., Murdiyarso, D., Sabiham, S., Djajakirana, G., Inubushi, K., and Murakami, M. (2006): Methane and nitrous oxide emission from rice field in Bogor, Indonesia and related microbial aspects, International Workshop for Management of Agroecosystem and Greenhouse Gas Emissions, Tsukuba, Abstract, p. 23.
- 6—33 鈴木弘行・村松雅子・熊谷 宏・野川憲夫・坂本一憲・犬伏和之 (2005): アーバスキュラー菌根の共生

- 強度とダイズの各種元素吸収との関連性, 第20回根研究集会講演要旨集, p. 20.
- 6—34 手嶋さざり・坂本一憲 (2005): 根部定着糸状菌 *Penicillium* sp. EU0013株は培土から宿主植物へ窒素を供給する, 日本土壤肥料学会講演要旨集, 51, p. 49.
- 6—35 津久井真紀・坂本一憲・宍戸雅宏・岩本育子 (2005): MIDIシステムを用いた脂肪酸組成分析による畑作物根に定着したアーバスキュラー菌根菌の検出, 日本土壤肥料学会講演要旨集, 51, p. 53.
- 6—36 Teshima, S. and Sakamoto, K. (2005): Diversity and plant-growth promoting ability of fungal endophytes isolated from oats and eucalyptus roots, Plant Nutrition for Food Security, Human Health and Environmental Protection (Proceedings of 15th IPNC), ed C.J. Li et al., p. 854–855, Tsinghua University Press, Beijing.
- 6—37 Hadi, A., Jumadi, O., Inubushi, K. and Yagi, K. (2006): Mitigation Option for N Lost from Corn Field in the Tropics, International Workshop on Monsoon Asia Agricultural Greenhouse Gas Emissions, Tsukuba, Abstract, p. 30.
- 6—38 Hala, Y., Ali, A., Muis, A., Jumadi, O., Inubushi, K. and Yagi, K. (2006): Dynamics of Nitrous Oxide from a Corn Field Applied with Fertilizers in South Sulawesi, Indonesia, International Workshop on Monsoon Asia Agricultural Greenhouse Gas Emissions, Tsukuba, Abstract, p. 31.
- 6—39 Jumadi, O., Muis, A., Hadi, A., Ali, A., Inubushi, K. and Yagi, K. (2006): A Feasible Option to Reduce N₂O Emission from Corn Field in Tropical Indonesia, International Workshop on Monsoon Asia Agricultural Greenhouse Gas Emissions, Tsukuba, Abstract, p. 55.
- 6—40 Lou, Y., Ren, L., Mizuno, T. And Inubushi, K.: Effects of Water Management and N supply on CH₄ and N₂O emissions in a Japanese Paddy Soil, International Workshop on Monsoon Asia Agricultural Greenhouse Gas Emissions, Tsukuba, Abstract, p. 57.
- 6—41 Acquaye, S., Inubushi, K., Sakamoto, K., Kobayashi, K., Kim, H., and Okada, M. (2006): Effects of ambient and elevated atmospheric CO₂ concentration on Phospholipid fatty acid composition in surface soils of paddy fields, International Society for Microbial Ecology, Vienna, Abstracts, p. 343.
- 6—42 Ogiyama, S., Sakamoto, K., Suzuki, H., Ushio, S., Anzai, T. and Inubushi, K. (2005): Accumulation and plant uptake of zinc and copper in arable soils after animal manure applications, Plant Nutrition for Food Security, Human Health and Environmental Protection, Tsinghua University Press, Beijing, p. 682.
- 6—43 Mitomi, T., Utagawa, H., Takamura, N., Watanabe, M. and Inubushi, K. (2005): Contribution of aquatic plants to denitrification in lakes and marshes, Plant Nutrition for Food Security, Human Health and Environmental Protection, Tsinghua University Press, Beijing, p. 1132.
- 6—44 Inubushi, K. (2005): Interactions between soil microbial biomass and dynamics of C and N in soil ecosystem, Application of the Emerging Soil Researches to the Conservation of Agricultural Ecosystems, Seoul, Abstracts, p. 268.
- 6—45 Padre, A., Ladha, J.K. And Inubushi, K. (2006): Interrelationships among soil quality indices under varying organic fertilizer management in rice-wheat systems, Sendai, Abstracts, p. 69.
- 6—46 伊藤浩平・西野徹哉・立石貴浩 (2006): 寒冷荒地の黒ボク土に含まれるリンの可給化に対するアーバスキュラー菌根菌の寄与について, 日本土壤微生物学会, 仙台, 講演要旨集, p. 59.
- 6—47 犬伏和之・村上未央・八木一行 (2006): 熱帯水田におけるメタン生成活性と基質添加の影響, 日本土壤微生物学会, 仙台, 講演要旨集, p. 18.
- 6—48 前田征之・関口博之・浅野英明・白鳥豊・峯村晃・森川千春・吉田清志・橋本好弘・横山和成 (2006): 土壤還元消毒によるトマト青枯病に対する防除効果と微生物群集構造の変化, 日本土壤微生物学会, 仙台, 講演要旨集, p. 36.
- 6—49 白鳥豊・志賀智和・犬伏和之 (2006): 排水改良による水田土壌の物理的・化学的変化がメタン発生と水稻生育に及ぼす影響, 日本土壤肥料学会, 鳥根, 講演要旨集, p. 190.
- 6—50 加藤茂・原川達雄・岩石真嗣 (2005): 易分解性有機物の表面施用による水田雑草抑制と有機酸および無機態窒素の動態, 日本土壤肥料学会, 鳥根, 講演要旨集, p. 190.

植物栄養学

- 1—1 高畑良雄・渡辺正巳・渡邊幸雄 (2006): アブラナ科野菜のグルコシノレート組成及び含有率. 食と緑の科学, 60, 63–66
- 6—1 椛澤貴之・渡辺正巳・渡邊幸雄 (2005): コカブのグルコシノレート含量に及ぼす窒素, 硫黄施肥の影響. 日本土壤肥料学会関東支部大会講演要旨集, 8
- 6—2 K. Yasuda, T. Kano, D. Watanabe, Y. Watanabe, M. Watanabe (2006): Induction and expression of apoptotic cell death in *Brassica napus* leaf protoplasts. Plant Cell Physiol. 47, Supplement, s 183.
- 6—3 渡辺正巳 (2006): ストレス応答におけるグルタミン酸脱水素酵素アイソザイム多型の発現に関する研究 第23回千葉県土壤肥料研究会要旨集, 13–15

植物病学

- 1—1 小長井健・坂本一憲・宇佐見俊行・雨宮良幹・宍戸雅宏 (2005): エンバク野生種の栽培・すき込みが土着微生物相とトマト土壌病害発生に及ぼす影響. 日本植物病理学会報, 71: 101–110.
- 1—2 門馬法明・宇佐見俊行・雨宮良幹・宍戸雅宏 (2005) 土壌の還元化によるトマト萎凋病菌の生存抑制効果とその要因. 土と微生物, 59: 27–33.
- 1—3 Morita, K., Kimura, S., Saito, M., Shinoyama, H., Usami, T., Amemiya, Y., Shishido, M. (2005): Generation and

- characterization of reduced virulence *Fusarium oxysporum* f. sp. *lycopersici* mutants through plasmid-vector insertion. *Mycopathologia*, 160: 67-73.
- 1-4 坂本一憲・宍戸雅宏・津久井真紀・岩本育子(2005): MIDIシステムを用いた脂肪酸組成分析による作物根に定着したアーバスキュラー菌根菌の検出. 日本土壤肥料学会誌, 76: 317-320. (ノート)
- 1-5 Shishido, M., Miwa, C., Usami, T., Amemiya, Y., Johnson, K.B. (2005): Biological control efficiency of *Fusarium* wilt of tomato by nonpathogenic *Fusarium* Fo-B2 in different environments. *Phytopathology*, 95: 1072-1080.
- 1-6 Sjahri, R., Chin, D.P., Khan, R.S., Yamamura, S., Nakamura, I., Amemiya, Y., Mii M. (2006): Transgenic *Phalaenopsis* plants with resistance to *Erwinia carotovora* produced by inducing wasabi defensin gene using *Agrobacterium* method. *Plant Biotechnology*, 23: 191-194.
- 1-7 宇佐見俊行・雨宮良幹 (2005): *Verticillium dahliae* の病原性系統間において遺伝的交雑が生じる可能性. 日本植物病理学会報, 71: 319-325.
- 2-1 雨宮良幹 (2005): 植物の病気と食品の安全性. 食品認証ビジネス講座 (松田友義編, 幸書房, pp 15-31
- 2-2 雨宮良幹 (2006): 植物育種学事典 (日本育種学会編), 培風館, pp 116, pp 139, pp 139, pp 189, 189-190, pp 209, pp 273, pp 301-302, pp 361, pp 439, pp 476, pp 561, pp 562, pp 570.
- 6-1 樋口裕子・上林千裕・雨宮良幹 (2006): 有機質資材添加土壌のハウレンソウ萎凋病に対する発病抑止性と土着微生物の役割. 日本植物病理学会報, 72: 47.
- 6-2 門馬法明・Peter Simandi・宍戸雅宏 (2005): 土壌還元消毒における殺菌作用と有機酸, 揮発性成分の関係, 土と微生物, 59: 146.
- 6-3 宍戸雅宏 (2006): 土壌病害の適応防除にむけて Towards the adaptive control of soilborne diseases. 日本植物病理学会 第9回植物病害生態研究会講演 (招待)
- 6-4 宍戸雅宏・横山秀美・門馬法明・坂本一憲・宮下俊一郎 (2006): 紫紋羽病発生リンゴ園と隣接林地の土壌微生物群, 2006年度日本土壌微生物学会大会講演要旨集, P-10
- 6-5 宍戸雅宏・吉田菜々子・宇佐見俊行 (2006): PCRによるウリ類ホモブシス根腐病菌の簡易検出法, 平成18年度日植病大会講演要旨集, p. 101
- 6-6 津久井真紀・坂本一憲・宍戸雅宏・岩本育子(2005): MIDIシステムを用いた脂肪酸組成分析による作物根に定着したアーバスキュラー菌根菌の検出, 日本土壤肥料学会誌
- 6-7 宇佐見俊行・石垣 周・深谷美穂・雨宮良幹(2006): パルスフィールドゲル電気泳動を用いた *Verticillium dahliae* および *V. longisporum* の核型解析, 平成18年度日植病大会講演要旨集, p. 93
- 6-8 吉田菜々子・宍戸雅宏・宇佐見俊行・雨宮良幹・小林正伸 (2005): 日本産ウリ類ホモブシス根腐病菌の系統解析, 日本植物病理学会報, 71: 219.
- 8-1 宍戸雅宏, 吉田菜々子, 宇佐見俊行. 特願2006-028513「ウリ類ホモブシス根腐病菌を同定または検出のためのプライマーセットならびに該プライマーセットを用いた菌体または作物あるいは土壌から, ウリ類ホモブシス根腐病菌を同定または検出する方法」(2006/2/6 出願)

応用動物昆虫学

- 1-1 Junko Morimoto, Tomoko Kamichi, Ibuki Mizumoto, Shuzo Hasegawa, Masashi Nomura, Tatsuaki Kobayashi (2005): Natural hybridization of Japanese *Rhododendron* section *Brachycaryx* in Mount Kintoki in eastern Japan and concerns for genetic diversity in restoring their habitat. *Landscape and Ecological Engineering* 1, 149-156
- 1-2 Kasuga, S. and H. Amano (2005): Spatial distribution of *Tyrophagus similis* (Acari: Acaridae) in agricultural soils under greenhouse conditions. *Applied Entomology and Zoology*, 40 (3): 507-511.
- 1-3 Kasuga, S. and H. Amano (2006): Infestation of *Tyrophagus similis* Volgin (Acari: Acaridae) on spinach during the seed germination period. *Journal of Acarological Society of Japan*, 15 (1): 69-73.
- 1-4 Kawashima, M. and H. Amano (2006): Overwintering phenology of a predacious mite, *Typhlodromus vulgaris* (Acari: Phytoseiidae) on Japanese pear trees, observed with Phyto traps. *Experimental and Applied Acarology*, 39 (2): 105-114.
- 1-5 Kawashima, M., F. Kadono, A. Shiota and H. Amano (2006): Can the population size of *Neoseiulus californicus* (McGregor) (Acari: Phytoseiidae) on Japanese pear trees be estimated by Phyto traps attached to the twigs? *Applied Entomology and Zoology*, 41 (1): 145-150.
- 1-6 森島正二・田淵 研・伊藤健二・水谷信夫・守屋成一 (2005): 摂食の有無がホソヘリカメムシ雄成虫の同種他個体に対する誘引性に及ぼす影響. 日本応用動物昆虫学会誌 49: 262-265.
- 1-7 Narita, S., M. Nomura, Y. Kato and T. Fukatsu (2006): Genetic structure of sibling butterfly species affected by *Wolbachia* infection sweep: evolutionary and biogeographical implications *Molecular Ecology* 15: 1095-1108.
- 1-8 齊藤奈都子・下田武志・後藤千枝・野村昌史・矢野栄二 (2005): オオメカメムシとヒメオオメカメムシの採餌場所選択ならびに採餌活動におよぼす植物の影響 日本応用動物昆虫学会誌 49, 231-236
- 1-9 Shin-Ichi Inomata, Atsushi Watanabe, Masashi Nomura, Tetsu Ando (2005): Mating Communication Systems of Four Plusiinae Species Distributed in Japan: Identification of the Sex Pheromones and Field Evaluation *Journal of Chemical Ecology*, 31, 1429-1442
- 1-10 田淵 研・守屋成一・水谷信夫 (2005): ホソヘリカメムシ合成誘引物質を用いたトラップによる誘殺消長. 日本応用動物昆虫学会誌 49: 99-104.
- 1-11 田淵 研・守屋成一・水谷信夫・伊藤健二 (2006): 自動計数機能付き昆虫誘殺装置を用いたホソヘリカメムシの誘殺消長. 日本応用動物昆虫学会誌 50: 123-

- 129.
- 1—12 Tanaka, H. and H. Amano (2005): *Newsteadia yanbaruensis*, a new species from Okinawa Is., Japan (Hemiptera, Orthoptera). Japanese Journal of systematic Entomology, 11 (2): 283-286.
- 1—13 Toyoshima, S. and H. Amano (2006): Diversity and abundance of phytoseiid mites on *Magnolia hypoleuca* Siebold et Zuccarini, a candidate source of natural enemies in natural vegetation. Applied Entomology and Zoology, 41 (2): 349-355.
- 2—1 Tabuchi, K. and H. Amano (2006): Different oviposition strategies in two closely related gall midges (Diptera: Cecidomyiidae): aggregation versus risk spreading. In: *Ecology and Evolution of Galling Arthropods and Their Associates* (K. Ozaki, J. Yukawa, P. W. Price and T. Ohgushi eds.). Springer-Verlag, Tokyo, pp. 161-168.
- 6—1 Amano, H. and M. Kawashima (2005): Watching your orchards with an ecological tool: a case study in Japanese pear orchard. 5th Asia-Pacific Congress of Entomology (Oct. 18-21, 2005, Jeju, Korea) Proceedings p. 26.
- 6—2 春山直人・野村昌史・望月 淳・中 秀司 (2006): 分子情報を用いたクサカゲロウ科Chrysopini族の系統解析 日本応用動物昆虫学会第50回大会講演要旨集 183.
- 6—3 伊藤健二・水谷信夫・田淵 研・守屋成一 (2005): カメムシ低密度地域における殺虫剤散布回数削減の可能性. 関東東山病害虫研究会報 52: 124.
- 6—4 川島充博・天野 洋 (2006): ナシ樹上に設置した Phyto trapによるカブリダニ類の越冬生態調査 (第14回日本ダニ学会大会講演要旨) 日本ダニ学会誌 15 (1): 86.
- 6—5 水谷信夫・田淵 研 (2005): ホソヘリカメムシ誘引物質と疑似寄生卵の併用がカメムシタマゴトビコバチの寄生活動に及ぼす影響. 関東東山病害虫研究会報 52: 124-125.
- 6—6 成田聡子・野村昌史・加藤義臣・深津武馬 (2005): Wolbachia感染が関与するミトコンドリアの選択的 sweep: 分子系統解析による日本産キチヨウ 2 型の進化的, 生物地理学的考察 第 7 回 日本進化学会大会講演要旨集 p. 41
- 6—7 野村昌史 (2005): 音響交信からみたヤマトクサカゲロウChrysoperla nipponensisの種内変異解析, 日本音響学会 2005年秋期研究発表会講演論文集 p. 27
- 6—8 刑部正博・五箇公一・土田 聡・天野 洋 (2005): ダニ類のメタ個体群構造と遺伝的変異—薬剤抵抗性発達機構の観点から—日本遺伝学会第77回大会プログラム予稿集, p. 110.
- 6—9 大坂 龍・野村昌史 (2006): 核DNAを用いたキンウワバ亜科Argyrogrammatini族の分子系統解析 日本応用動物昆虫学会第50回大会講演要旨集 42.
- 6—10 鈴木丈詞・天野 洋 (2006): 光の波長がナミハダニ黄緑型の個体群成長に及ぼす影響 (第14回日本ダニ学会大会講演要旨) 日本ダニ学会誌 15(1): 90.
- 6—11 Tabuchi, K. & H. Amano (2005): Different oviposition

strategies in two closely related gall midges (Diptera: Cecidomyiidae): aggregation vs. risk spreading Biodiversity of Galling Arthropods and their Associates: Program and Abstracts, p. 68

- 6—12 高橋侑美佳・小堀陽一・大井田 寛・野村昌史・田中栄嗣・手塚俊行 (2006): 広食性天敵昆虫オオメカメムシに対する各種農薬の影響評価 日本応用動物昆虫学会第50回大会講演要旨集 136.

生態制御化学

植物構造学

- 1—1 Nagata Y., Yamashita M., Honda H., Akabane J., Uehara K., Saito A., Sumisa F., Nishihori K., Oodaira Y. (2005) Characterization, occurrence and cloning of a lectin from *Grifola frondosa*: jacalin-related lectin of fungal origin. Bioscience, Biotechnology and Biochemistry 69 (12): 351-358
- 2—1 西野栄正他22名 (2006) 植物の世界, 新編 新しい科学 2分野 上 教師用指導書 研究編 (代表 三浦 登, 岡村定矩), 東京書籍, pp. 39-100
- 2—2 西野栄正他22名 (2006) 生物の細胞とふえ方, 新編 新しい科学 2分野 下 教師用指導書 研究編 (代表 三浦 登, 岡村定矩), 東京書籍, pp. 63-110
- 6—1 Hosokawa K., Imafuku M., Tanabe Y., Aoki S., Uehara K., Hasebe M., Ito M. (2005) Heterotopic expression of petal identity gene homologs in petaloid-bracts of *Houttuynia cordata*. XVII International Botanical Congress Abstract p. 427
- 6—2 Ito Y., Tanaka N., Momohara A., Uehara K. (2005) Conservation study of endangered *Potamogeton* species in Japan: DNA sequence data allow the differentiation of hybrid. XVII International Botanical Congress Abstract p. 607
- 9—1 日本植物学会論文賞受賞 受賞論文 (Best Paper Award) Aoki S., Uehara K., Imafuku M., Hasebe M., Ito M. (2004) Phylogeny and divergence of basal angiosperms inferred from *APETALA3*- and *PISTILLATA*-like MADS-box genes. Journal of Plant Research 117 (3): 229-248

園芸植物工学講座

遺伝・育種学

- 1—1 Azhaguvelu, P., D. Vidya-Saraswathi and T. Komatsuda (2006) High-resolution linkage mapping for the non-brittle rachis locus *bt1* in cultivated/wild barley (*Hordeum vulgare*). Plant Sci. 170: 1087-1094
- 1—2 Ferdous, S.A., S. Watanabe, C. Suzuki-Orihara, Y. Tanaka, M. Kamiya, Z. Xia, N. Yamanaka, K. Harada (2006) Conversion of AFLP markers surrounding a QTL, *rhg-t1*, for soybean cyst nematode resistance into PCR-based markers. Breed. Sci. 56: 195-199

- 1—3 Kawaguchi, M., A. Pedrosa-Harand, K. Yano, M. Hayashi, Y. Murooka, K. Saito, K. Namai, H. Nishida, D. Shibata, S. Sato, S. Tabata, M. Hayashi, K. Harada, N. Sandal, J. Stougaard, A. Bachmair and W. Grant (2005) *Lotus burtii* takes a position of the third corner in the lotus molecular genetics triangle. DNA Res. 12: 69-77
- 1—4 Kubo, A., S. Rahman, Y. Utsumi, Z. Li, Y. Mukai, M. Yamamoto, M. Ugaki, K. Harada, H. Satoh, C. Konik-Rose, M. Morell (2005) Complementation of *sugary-1* phenotype in rice endosperm with wheat *isoamylase1* gene supports a direct role for *isoamylase1* in amylopectin biosynthesis. Plant Physiol. 137: 43-56
- 1—5 Matsumura, H., S. Watanabe, K. Harada, M. Senda, S. Akada, S. Kawasaki, E.G., Dubouzet, N. Minaka, R. Takahashi (2005) Molecular linkage mapping and phylogeny of the chalcone synthase multigene family in soybean. Theor. Appl. Genet. 110: 1203-1209
- 1—6 Oka-Kira, E., K. Tateno, K. Miura, T. Haga, M. Hayashi, K. Harada, S. Sato, S. Tabata, N. Shikazono, A. Tanaka, Y. Watanabe, I. Fukuhara, T. Nagata, M. Kawaguchi (2005) *klavier (klv)*, a novel hypernodulation mutant of *Lotus japonicus* affected in vascular tissue organization and floral induction. Plant J. 44: 505-515
- 1—7 Sandal, N., T.R. Peterson, K. Harada, J. Stougaard (2006) Genetics of symbiosis in *Lotus japonicus*: Recombinant inbred lines, comparative genetic maps, and map position of 35 symbiotic loci. Mol. Plant-Microbe Interact. 19: 80-91
- 1—8 Sassa, H. and Hirano, H. (2006) Identification of a new class of pistil-specific proteins of *Petunia inflata* that is structurally similar to, but functionally distinct from, the self-incompatibility factor HT. Mol. Gen. Genom. 275: 97-104.
- 1—9 Tsubokura, Y., M. Hajika, K. Harada (2006) Molecular markers associated with β -conglycinin deficiency in soybean. Breed. Sci. 56, 113-117
- 1—10 Ferdous, S.A., S. Watanabe, C. Suzuki-Orihara, Y. Tanaka, M. Kamiya, N. Yamanaka, K. Harada (2006) QTL analysis of resistance to soybean cyst nematode race 3 in soybean cultivar Toyomusume. Breed. Sci. 56: 155-163
- 1—11 Vidya-Saraswathi, D., P. Azhaguvelu, N. Senthil, T. Koba and T. Komatsuda (2006) Molecular mapping of non-brittle rachis genes *btr1* and *btr2* using STS markers in barley. Jpn. Agr. Res. Quar. 40: 239-242
- 2—1 原田久也 (2005) ダイズの生産・品質向上と栄養生理 ダイズ遺伝子解析の現状と課題 (日本土壌肥料学会編) 博友社
- 4—1 原田久也 (2005) DNAマーカーを用いた効率的育種技術の開発と実用化 研究ジャーナル
- 6—1 荒井三千代・林 正紀・濱田亜紀子・渡辺啓史・赤尾勝一郎・原田久也 (2005) ダイズ根粒非着生変異遺伝子のマッピング, 育種学研究 7 (別 1・2) p. 151
- 6—2 福島有紀恵・林 正紀・T.A. Ahmed, 渡辺啓史・穴井豊昭・梅澤泰史・篠崎一雄・原田久也 (2006) CAS-SSCP法によるダイズ完全長cDNAのマッピング, 育種学研究 8 (別 1) p. 68
- 6—3 萩原悠太・木庭卓人・上田義弘 (2005) バラ属野生種におけるレトロトランスポゾンの検出とその物理的位置, 育研 7 (別 1・2) p. 386.
- 6—4 羽鹿牧太・渡辺啓史・高橋浩司・平賀 勸 (2005) ダイズの青立ち発生に関する遺伝的要因の解析, 育種学研究 7 (別 1・2) p. 212
- 6—5 濱田亜紀子・山田直弘・高松光生・矢ヶ崎和弘・原田久也 (2005) ダイズモザイクウイルス抵抗性遺伝子周辺の詳細マッピング, 育種学研究 7 (別 1・2) p. 155
- 6—6 原田久也 (2005) ダイズ, ミヤコグサゲノムのマクロシンテニーの解析と遺伝子単離, 育研 7 (別 1・2) pp. 20-21
- 6—7 平野久・石津有理・キクチユリア・高田真由美・佐々英徳・香川裕之・高岡素子・山中結子・桑原裕尚・談建中 (2006) ダイズレグインスリン結合タンパク質アイソフォームの特徴, 育研 8 (別 1) p. 41.
- 6—8 保谷明江・安藤敏夫・木庭卓人 (2005) ペチュニアにおけるTy1/copia様レトロトランスポゾンの検出と染色体上の分布, 育研 7 (別 1・2) p. 389.
- 6—9 市田裕之・木庭卓人・龍頭啓充・福西暢尚・阿部知子・松山知樹 (2005) 微生物における重イオンビーム突然変異誘発法の開発, 農芸化学会
- 6—10 市田裕之, 木庭卓人, 阿部知子, 松山知樹 (2005) バーチャルRLGS法による根粒菌ゲノムの解析, 第15回植物微生物研究会研究交流会
- 6—11 市田裕之, 木庭卓人, 米山勝美, 松山知樹, 阿部知子 (2006) DNA二次元電気泳動による植物関連細菌ゲノムの網羅的変異解析法の開発, 平成18年度 日本植物病理学会大会
- 6—12 泉 輝昭・西岡美樹・原田久也 (2006) ツルマメを用いたダイズ種子タンパク質含量のQTL解析, 育種学研究 8 (別 1) p. 139
- 6—13 角井宏行・宮本摩由・佐々英徳・平野 久 (2005) ニホンナシの花粉特異的F-box遺伝子, 育研 7 (別 1・2) p. 195.
- 6—14 角井宏行・佐々英徳・平野久 (2005) ニホンナシの花粉で発現する*Skp1*様遺伝子の単離, 育研 7 (別 1・2) p. 196.
- 6—15 久野 裕・笹本茂美・磯部祥子・佐藤修正・原田久也・中村保一・田畑哲之 (2005) ゲノム構造比較と育種に向けたマメ科植物共通DNAマーカーの整備, 第28回日本分子生物学会年会講演要旨集 p. 162
- 6—16 宮本摩由・鈴木雄介・佐々英徳・平野 久 (2005) リンゴのS遺伝子座領域の解析, 育研 7 (別 1・2) p. 194.
- 6—17 西岡美樹・林 正紀・大川安信・釘貫靖久・原田久也 (2006) Brassica rapaにおける抽だい性遺伝子の解析, 育研 8 (別 1) p. 18
- 6—18 佐々英徳・平野 久 (2006) ペチュニアにおける自家不和合性因子HT様の新規タンパク質, 育研 8 (別

- 1) p. 123.
- 6—19 東野 悟・原田久也・木庭卓人・高岩文雄 (2005) RPBPF遺伝子の3'非翻訳領域は組織特異的発現に関与する, 育研7 (別1・2) p. 479
- 6—20 Watanabe, S., Z. Xia, N. Yamanaka, S. Sato, M. Ishimoto, S. Tabata, K. Harada (2006) Fine mapping of FT3 locus for soybean flowering time. *Plant & Animal Genome XIV* p. 211
- 6—21 夏 正俊・渡辺啓史・原田久也 (2005) 混合したサイズのBACライブラリーからの特定クローン単離法, 育研7 (別1・2) p. 174
- ### 環境調節工学
- 1—1 Abdel-Ghany, A.M. and T. Kozai. (2006): Cooling efficiency of fogging systems for greenhouses, *Biosystems Engineering*, 94 (1), 97-109.
- 1—2 Abdel-Ghany, A.M. and T. Kozai. (2006): Dynamic modeling of the environment in a naturally ventilated, fog-cooled greenhouse, *Renewable Energy*, 31 (10), 1521-1539.
- 1—3 Abdel-Ghany, A.M. and T. Kozai. (2006): On the determination of the overall heat transmission coefficient and soil heat flux for a fog cooled, naturally ventilated greenhouse: Analysis of radiation and convection heat transfer, *Energy Conversion and Management*, 47, 2612-2628.
- 1—4 Abdel-Ghany, A.M. and T. Kozai. (2006): Radiation exchange factors between specular inner surfaces of a rectangular enclosure such as transplant production unit, *Energy Conversion and Management*, 47, 1988-1998.
- 1—5 Afreen F, Zobayed S.M.A, T. Kozai. (2005): Spectral quality and UV-B stress stimulate glycyrrhizin concentration of *Glycyrrhiza uralensis* in hydroponic and pot system, *Plant Physiology and Biochemistry*, 43, 1074-1081.
- 1—6 Couceiro, M.A., F. Afreen, S.M.A. Zobayed and T. Kozai. (2006): Variation in concentration of major bioactive compounds of St. John's wort: Effects of harvesting time, temperature and germplasm, *Plant Science*, 170, 128-134.
- 1—7 Handarto, M. Hayashi, K. Ohyama, H. Toida, E. Goto and T. Kozai. (2006): Developing Control Logic for a High-Pressure Fog Cooling System Operation for a Naturally Ventilated Greenhouse, *Environment Control in Biology*, 44 (1), 1-9.
- 1—8 Hikosaka, S., Boonkorkaew, P., Ochi, Y. and N. Sugiyama. (2006): The rate of pistillate and staminate flower differentiation and development of mono- and multi-pistillate type cucumbers, *The Journal of Horticultural Science & Biotechnology*, 81 (2), 303-309.
- 1—9 Islam, A.F.M.S and C. Kubota, M. Takagaki and T. Kozai. (2006): Effects of ages of plug transplants and planting depths on the growth and yield of sweetpotato *Scientia Horticulturae*, 108 (2), 121-126.
- 1—10 Kitaya, Y., Y. Ohmura, C. Kubota, T. Kozai. (2005): Manipulation of the culture environment on in vitro air movement and its impact on plantlets photosynthesis *Plant Cell, Tissue and Organ Culture*, 83 (3), 251-257.
- 1—11 Mosaleeyan K., S.M.A. Zobayed, F. Afreen and T. Kozai. (2006): Enhancement of Biomass and Secondary Metabolite Production of St. John's Wort (*Hypericum perforatum* L.) under a Controlled Environment, *Environment Control in Biology*, 44 (1), 21-30.
- 1—12 Ohyama, K., T. Kozai, Y. Ishigami, Y. Ochi. (2005): A CO₂ Control System for a Greenhouse with a High Ventilation Rate, Proc. of the International Conference of Sustainable Greenhouse Systems, 2004, Belgium, *Acta Horticulturae*, 691, 649-654
- 1—13 Ohyama, K., Y. Omura and T. Kozai. (2005): Effects of Air Temperature Regimes on Physiological Disorders and Floral Development of Tomato Seedlings Grown under Continuous Light, *HortScience*, 40 (5), 1304-1306.
- 1—14 Toida, H., T. Kozai, K. Ohyama and Handarto. (2006): Enhancing fog evaporation rate using an upward air stream to improve greenhouse cooling performance, *Biosystems Engineering*, 93 (2), 205-211.
- 1—15 Xiao Y. and T. Kozai. (2006): In vitro multiplication of static plantlets using sugar-free media, *Scientia Horticulturae*, 109, 71-77.
- 1—16 横井真悟・古在豊樹・長谷川智行・全視厚・久保田智恵利. (2005) : 閉鎖型苗生産システムのCO₂および水利用効率に及ぼすトマト実生個体群の葉面積指数および換気回数の影響, 植物環境工学, 17(4), 182-191.
- 1—17 Zobayed S.M.A, F. Afreen and T. Kozai. (2005): Temperature stress can alter the photosynthetic efficiency and secondary metabolite concentrations in St. John's wort, *Plant Physiology and Biochemistry*, 43, 977-984.
- 2—1 後藤英司. (2006) : LEDの植物育成, 35-49, 時代を先取りする先端技術 LEDの農林水産分野への応用, 稲田博史・内田浩二・江村 薫・川村軍蔵・河本康太郎・後藤英司・田澤信二・平間淳司・本田二郎・室谷裕志・渡邊博之, 社団法人農業電化協会, 東京, 137 pp.
- 2—2 古在豊樹・後藤英司・富士原和宏. (2006) : 最新施設園芸学, 朝倉書店, 東京, 231 pp.
- 2—3 Omasa, K., Nouchi I., E. Goto, Y. Shimizu, L.J. De Kok, D. Grill and I. Stulen (eds.). (2005): Plant Response to Air Pollution and Global Change *Phyton*, 45 (4) Special Issue, Horn, Austria, 607 pp.
- 4—1 Toida H., K. Ohyama, T. Kozai, Handarto, M. Hayashi. (2006): A method for measuring dry-bulb temperatures during the operation of fog system for greenhouse cooling, *Biosystems Engineering*, 93 (3), 347-351.
- 4—2 Couceiro, M.A., S.M.A. Zobayed, F. Afreen, E. Goto and T. Kozai. (2006): Optimizing the Duration of Acclimatization under Artificial Light for St. John's Wort Plantlets Grown Photoautotrophically and Photomixotrophically In Vitro, *Environment Control in Biology*, 44 (1), 63-70.
- 4—3 Zobayed, S.M.A., F. Afreen and T. Kozai. (2005): Necessity and Production of Medical Plants under Controlled Environments, *Environment Control in Biology*, 43 (4),

- 243-252.
- 6-1 Abdel-Ghany, A. M., and T. Kozai. (2005): Radiation exchange factors between specular inner surfaces of rectangular enclosure such as transplant production unit, *Abstracts of International Conference on Research Highlights and Vanguard Technology on Environmental Engineering in Agricultural Systems*, Sept. 12-15, 2005, Kanazawa, Japan, 211.
- 6-2 Abdel-Ghany, A. M., E. Goto and T. Kozai. (2005): Evaporation characteristics in a naturally ventilated, fog-cooled greenhouse, *Abstracts of International Conference on Research Highlights and Vanguard Technology on Environmental Engineering in Agricultural Systems*, Sept. 12-15, 2005, Kanazawa, Japan, 111.
- 6-3 Afreen, F., S.M.A. Zobayed and T. Kozai. (2005): Production of phytomass and secondary metabolite of *Glycyrrhiza uralensis* under controlled environments, *Abstracts of International Conference on Research Highlights and Vanguard Technology on Environmental Engineering in Agricultural Systems*, Sept. 12-15, 2005, Kanazawa, Japan, 47.
- 6-4 後藤英司. (2005): LEDを用いる植物栽培—植物の光質反応を応用する—, 平成17年度(第38回)照明学会全国大会講演論文集, 317-318.
- 6-5 後藤英司. (2006): 植物育成のための光質制御とその応用技術, 国立大学法人千葉大学環境健康フィールド科学センター第9回環境健康ビジネスフォーラム「園芸生産における人工光利用の現状」, 2006年4月21日, 千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センターシーズホール.
- 6-6 Handarto, M. Hayashi, K. Ohyama, H. Toida and T. Kozai. (2005): Development of control logic for fog cooling system operation in a naturally ventilated greenhouse, *Abstracts of International Conference on Research Highlights and Vanguard Technology on Environmental Engineering in Agricultural Systems*, Sept. 12-15, 2005, Kanazawa, Japan, 71.
- 6-7 石神靖弘・浜本恵里・横井真吾・後藤英司. (2006): 低圧環境におけるダイズの子実成長, 2006生態工学会年次大会発表論文集, 18-19.
- 6-8 貝田亜未・後藤英司・古在豊樹. (2005): 光質がホウレンソウの花茎におけるジベレリン酸化酵素遺伝子の発現量に及ぼす影響, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, 568.
- 6-9 木村彰文・後藤英司・古在豊樹. (2005): 光質および限界日長より長い明期がホウレンソウの花成に及ぼす影響, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, 519.
- 6-10 蔵田憲次・佐瀬勘紀・久保田智恵利・横井真悟・池口厚男・石井雅久・松田 怜・Nadia Sabetha・Gene Giacomelli. (2005): 半乾燥地温室内の光質, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, 459
- 6-11 丸山真一・後藤英司・古在豊樹. (2005): 光質および明期がホウレンソウ葉の構造およびアスコルビン酸含有量に及ぼす影響, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, 518.
- 6-12 西村徹郎・後藤英司・S.M.A. Zobayed・古在豊樹. (2005): 光質および光強度がセントジョーンズワートの薬効成分濃度および生長に及ぼす影響, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, 517.
- 6-13 Ohno, Y., Y. Ishigami, T. Ishikawa, E. Goto and T. Kozai. (2005): Increase in net photosynthetic rate of plants by supplying CO₂ for a greenhouse with a high ventilation rate, *Abstracts of International Conference on Research Highlights and Vanguard Technology on Environmental Engineering in Agricultural Systems*, Sept. 12-15, 2005, Kanazawa, Japan, 207.
- 6-14 鈴木丈詞・天野 洋・古在豊樹. (2005): 明期および暗期がナミハダニ黄緑型の休眠および発育に及ぼす影響, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, 454.
- 6-15 高木麻貴・後藤英司・古在豊樹. (2005): 光質およびDIFがトマトの第一花房分化葉位および茎長におよぼす影響, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, 569.
- 6-16 戸井田宏美・古在豊樹・大山克己・ハンダルト. (2005): 自然換気型温室における細霧冷房システムの連続運転, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, 326.
- 6-17 戸井田宏美, 大山克己, 古在豊樹, 後藤英司. (2005): 上向き送風による高細霧蒸発率の達成: 湿潤地域の温室細霧冷房のための研究例, ASES100回記念農業施設国際セミナー「災害と闘う・気候に負けない農業施設」.
- 6-18 横井真吾・古在豊樹・西村将雄・田口勝教. (2005): 閉鎖型苗生産システムにおける栽植密度および気流速度がセル成型トマト実生の生育に及ぼす影響, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, 264.

植物生産工学

- 1-1 Y. Muramatsu, A. Tagawa, T. Kasai, K. Takeya (2005): Volume Changes of Wheat and Barley Soaking in Water, *J. Food Engineering* 73 (4), 364-369
- 1-2 折笠貴寛, 田川彰男, 相馬真哉, 飯本光雄, 小川幸春 (2005): 青果物の熱風乾燥特性と硬化, 農業機械学会誌 67(6), 62-70
- 1-3 中村俊輝, 田川彰男, 折笠貴寛, 飯本光雄 (2005): 調理用トマトの真空乾燥, 農業機械学会誌 67(6), 105-112
- 1-4 長砂太蔵, 田川彰男, 小川幸春, 飯本光雄 (2005): アズキおよびダイズの吸水速度と体積変化, 日本食品科学工学会誌 52(12), 566-571
- 1-5 Y. Muramatsu, A. Tagawa, T. Kasai (2006): Thermal Conductivity of Several Liquid Foods, *Food Science and Technology Research (FSTR)*, 11 (3), 288-294
- 1-6 Y. Muramatsu, A. Tagawa, E. Sakaguchi, T. Kasai (2006): Prediction of Effective Thermal Conductivity of Rough Rice, *Transactions of the ASABE* 49 (3), 705-

- 712
- 3—1 Yukiharu Ogawa, Akio Tagawa, Delilah F. Wood (2005): Relationship Between Histological and Textural Properties of Cooked Rice Kernel, ASAE paper No. 056173, pp. 1-6
- 5—1 小川幸春, 田川彰男 (2005): 組織構造とテクスチャーから見た米飯の特性, 食品工業 11月30日号, 26-33
- 6—1 折笠貴寛, 田川彰男, 飯本光雄 (2005): 乾燥青果物の復水性, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, GS60-1, 418
- 6—2 小川幸春, 米岡孝輔, 田川彰男 (2005): 米飯の圧縮特性と組織構造変化, 農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集, OS3-7, 58
- 6—3 小川幸春, 田川彰男 (2005): 炊飯時間の経過による米粒の組織構造変化, 日本食品科学工学会第52回大会講演集, 151
- 6—4 小川幸春, 折笠貴寛, 米岡孝輔, 森 哲治, 田川彰男 (2006): 加工・調理操作に伴う食品素材の物性推移と組織変化の解析, FOOMA JAPAN 2006アカデミックプラザ研究発表要旨集, Vol. 13, 61-64
- 6—5 小川幸春, 塩見慎次郎, 山本奈美, 田川彰男 (2006): 通風による果実の乾燥特性, 日本食品保蔵科学会第55回大会講演要旨集, 40
- in inter-specific hybrids between *Dianthus x isensis* Hirahata et Kitam. and *D. japonicus* Thunb. J. Hort. Sci. Biotechnol. 81: 72-77.
- 1—9 Mishiba, K., K. Tawada and M. Mii 2006. Ploidy distribution in the explant tissue and the calluses induced during the initial stage of internode segment culture of *Asparagus officinalis* L. In Vitro Cell. Devel. Biol. -Plant 42: 83-88.
- 1—10 Khan, R.S., M. Nishihara, S. Yamamura, I. Nakamura and M. Mii 2006. Transgenic potatoes expressing wasabi defensin peptide confer partial resistance to gray mold (*Botrytis cinerea*). Plant Biotechnol. 23: 179-183.
- 1—11 Sjahril, R., D.P. Chin, R.S. Khan, S. Yamamura, I. Nakamura, Y. Amemiya and M. Mii 2006. Transgenic *Phalaenopsis* plants with resistance to *Erwinia carotovora* produced by introducing wasabi defensin gene using *Agrobacterium* method. Plant Biotechnol. 23: 191-194.
- 1—12 Sjahril, R. and M. Mii 2006. High-efficiency *Agrobacterium*-mediated transformation of *Phalaenopsis* using meropenem, a novel antibiotic to eliminate *Agrobacterium*. J. Hort. Sci. Biotechnol. 81: 458-464.
- 1—13 Wan, Y., J.A. Watanabe, S.S. Yi, T. Htaik, K. Win, S. Yamanaka, I. Nakamura and K. N. Watanabe. 2005. Assessment of genetic diversity among the major Myanmar banana landrace. Breed. Sci. 55: 365-369.
- 1—14 Imaizumi, R., S. Sato, N. Kameya, I. Nakamura, Y. Nakamura, S. Tabata, S. Ayabe and T. Aoki. 2005. Activation tagging approach in a model legume, *Lotus japonicus*. J. Plant Res. 118: 391-399.
- 1—15 Ohta, S., S. Osumi, T. Katsuki, I. Nakamura, T. Yamamoto and Y-I. Sato. 2005. Genetic characterization of flowering cherries (*Prunus subgenus Cerasus*) using *rpl16-rpl14* spacer sequences of chloroplast DNA. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 75: 72-78.
- 1—16 Ishikawa, R., S. Yamanaka, Y. Fukuta, S. Chittrakon, C. Bounphanousay, K. Kanyavong, L-H. Tang, I. Nakamura, T. Sato and Y-I. Sato. 2006. Genetic erosion from modern varieties into traditional upland rice cultivars (*Oryza sativa* L..) in northern Thailand. Genet. Resour. Crop Evol. 53: 245-252.
- 1—17 Sakamoto, S., R. Ishikawa, I. Nakamura, Y-I. Sato and Y. Shimamoto. 2006. Species identification of 6,000-year-old beans from Sannai-Maruyama site, Aomori, Japan. J. Fossil Res. 39: 1-6.
- 2—1 Kato, J. and M. Mii 2005. Production of interspecific hybrid plants in *Primula*. In: Methods in Molecular Biology. Vol. 318. Plant Cell Culture Protocols. 2nd. ed. Ed. by V. M. Loyola-Vargas and Vazquez-Flota. Humana press Inc., Totowa, New Zealand
- 2—2 三位正洋 2006. 作物の遺伝的改良. 「栽培学—環境と持続的農業」 pp. 20-25. (森田茂紀・大門弘幸・阿部淳 編著) 朝倉書店 p. 227.
- 6—1 平野智也・神戸敏成・石川恵子・三位正洋 2005. カクチョウラン (*Phaius tankervilleae*) 完熟種子のガ

植物細胞工学

- 1—1 Hirano, T., K. Ishikawa and M. Mii 2005. Cryopreservation of immature seeds of *Ponerorchis graminifolia* var. *suzukiana* by vitrification. CryoLetters 26: 139-146.
- 1—2 Shiba, T. and M. Mii 2005. *Agrobacterium tumefaciens*-mediated transformation of highly regenerable cell suspension cultures in *Dianthus acicularis*. J. Hort. Sci. Biotechnol. 80: 393-398.
- 1—3 Mishiba, K., Chin, D.P. and M. Mii 2005. *Agrobacterium*-mediated transformation of *Phalaenopsis* by targeting protocorms at an early stage after germination. Plant Cell Rep. 24: 297-303.
- 1—4 Sangthong, R., M. Mii, P. Soonthornchainaksaeng and K. Supaibulwatana 2005. Characteristics of the tetraploid plant derived as a somaclonal variation in *Lilium longiflorum*. Acta Hort. 673: 167-174.
- 1—5 Shiba, T. and M. Mii 2005. Visual selection and maintenance of the cell lines with high plant regeneration ability and low ploidy level in *Dianthus acicularis* by monitoring with flow cytometry analysis. Plant Cell Rep. 24: 572-580.
- 1—6 Shiba T. and Mii M. 2005. Plant regeneration from mesophyll- and cell suspension-derived protoplasts of *Dianthus acicularis* and characterization of regenerated plants. In Vitro Cell. Devel. Biol. -Plant 41: 794-800.
- 1—7 Okuno, H., M. Nakata, M. Mii and T. Shiuchi 2005. A note on the karyotype of *Farfugium japonicum* (Asteraceae). J. Phytogeography Taxonomy 53: 191-195.
- 1—8 Nimura, M., J. Kato, M. Mii and T. Katoh 2006. Amphidiploids produced by natural chromosome-doubling

- ラス化法による超低温保存. 育研 7 別 1・2 : 380.
- 6—2 林 麻衣・市川幸奈・加藤淳太郎・三位正洋 2005. *Primula denticulata* (Denticulata節) と *P. modesta* var. *matumurae* (レブンコザクラ; Aleuritia節) の正逆節間交配において形成された雑種の倍数性変異. 育研 7 別 1・2 : 399.
- 6—3 池田真由子・加藤淳太郎・林 麻衣・三位正洋 2005. *Primula sieboldii* (サクラソウ) と *P. jesoana* (オオサクラソウ) の種間交配における雌親品種が雑種の倍数性に及ぼす影響. 育研 7 別 1・2 : 400.
- 6—4 泉川康博・竹井 聡・中村郁郎・三位正洋 2005. リュウキュウベンケイ (*Kalanchoe spathulata*) とコチョウノマイ (*Kalanchoe laxiflora*) との節間雑種. 育研 7 別 1・2 : 403.
- 6—5 Khan, R.S., I. Nakamura and M. Mii 2005. Production of marker-free transgenic *Nierembergia caerulea* using MAT vector system. 育研 7 別 1・2 : 405.
- 6—6 本田真理・石川駿二・平田 豊・宮下千枝子・三位正洋 2006. In vitro 寄せ接ぎ法によるブルーベリー種間キメラの作成. 育研 8 別 1 : 198.
- 6—7 林 麻衣・加藤淳太郎・松原典子・中村郁郎・三位正洋 2006. 4 倍体 *Primula denticulata* (Denticulata節) と 2 倍体 *P. modesta* 及び変種 (Aleuritia節) との節間交配雑種に見いだされた倍数性変異. 育研 8 別 1 : 206.
- 6—8 加藤淳太郎・間瀬あいこ・菊池美香・池田真由子・星野洋一郎・林 麻衣・中村郁郎・三位正洋 2006. 胚珠培養による異型花柱性 *Primula jesoana* (オオサクラソウ) と単型花柱性 *Cortusa matthioli* (サクラソウモドキ) の属間雑種の作出. 育研 8 別 1 : 207.
- 6—9 秋本正博・宍戸理恵子・石井尊生・石川隆二・上埜喜八・中村郁郎・佐藤洋一郎・佐藤雅志 2005. 野生イネ遺伝資源のオンファーム保存システム構築のための実証的調査. I. ミャンマーにおける事例. 育研 7 別 1 : 296.
- 6—10 高橋弘子・森直樹・河原太八・中村郁郎 2005. コムギーエギロプス属 2 倍体種の *PolA1* 遺伝子第19イントロンのDNA多型. 育研 7 別 1 : 313.
- 6—11 高橋弘子・中村郁郎 2005. 倍数性コムギにおける PoSID 配列の構成. 育研 7 別 1 : 314.
- 6—12 Takahashi, H., I. Nakamura, T. Sato and Y-I. Sato 2005. Molecular tracing of a tiny sequence within *PolA1* gene in the genus *Oryza*. Proc. 10th Intl. Congr. SABRAO B-37., Aug. 22-23, Tsukuba, Japan.
- 6—13 Takahashi, H., I. Nakamura, T. Sato and Y-I. Sato 2005. The evolution of particular short sequence within *PolA1* gene in the genus *Oryza*. Proc. 5th Intl. Rice Genet. Symp. pp. 397, Nov. 19-23. Manila, Philippines.
- 6—14 亀谷七七子・中村郁郎 2006. タバコの *SuRa* 遺伝子座における標的遺伝子破壊. 育研 8 別 1 : 218.
- 6—15 高橋弘子・森 直樹・河原太八・佐藤洋一郎・中村郁郎 2006. 普通系コムギの A, B, D ゲノムに特異的な *PolA1* 遺伝子の起源. 育研 8 別 1 : 262.
- ## 生物資源化学講座
- ### 生物化学
- 1—1 Shinozaki, K., Nishio, Y., Yoshida, Y., Koya, D., Ayajiki, K., Masada, M., Kashiwagi, A., Okamura, T. (2005) Supplement of tetrahydrobiopterin by a gene transfer of GTP cyclohydrolase I cDNA improves vascular dysfunction in insulin-resistant rats. J. Cardiovasc. Pharmacol. 46 (4): 565-512.
- 1—2 Shimanuki, M., Shimamura, K., Hirai, S., Nishiuchi, T., Suzuki, K., Kodama, H. (2005) Polyethylene glycol-mediated enhancement of the hybridization rate on cDNA microarrays. Anal. Biochem. 344: 284-286
- 1—3 Matsubara, K., Kodama, H., Kokubun, H., Watanabe, H., Ando, T. (2005) Two novel transposable elements in a cytochrome P450 gene govern anthocyanin biosynthesis of commercial petunias. Gene 358: 121-126
- 1—4 Shinozaki, K., Kashiwagi, A., Masada, M., Okamura, T. (2006) Tetrahydrobiopterin and endothelial dysfunction in cardiovascular diseases. Pteridines 17 (1): 11-15.
- 1—5 Okumura, M., Masada, M., Yoshida, Y., Shintaku, H., Hosoi, M., Okada, N., Konishi, Y., Morikawa, T., Miura, K., Imanishi, M. (2006) Decrease in tetrahydrobiopterin as a possible cause of nephropathy in type II diabetic rats. Kidney International, AOP 6/14, pp. 1-6
- 1—6 Nagira, Y., Shimamura, K., Hirai, S., Shimanuki, M., Kodama, H., Ozeki, Y. (2006) Identification and characterization of genes induced for anthocyanin synthesis and chlorophyll degradation in regenerated torenia shoots using suppression subtractive hybridization, cDNA microarrays, and RNAi techniques. J. Plant Res. 119: 217-230.
- 2—1 Shimomura, C., Masada, M., Maeda, H. (2006) Effect of modified arabinoxylan from rice bran (BioBran/MGN-3) on NK cell activity of human peripheral blood lymphocytes. In: (Kenji Tazawa eds) BioBran/MGN-3 Basic and clinical application to integrative medicine. IYAKUSHUPPAN Co., p. 73-79.
- 2—2 Miyazaki, F., Masada, M., Maeda, H. (2006) A study of a cancer-cell growth inhibiting ingredient in modified arabinoxylan from rice bran (BioBran/MGN-3). In: (Kenji Tazawa eds.) BioBran/MGN-3 Basic and clinical application to integrative medicine. IYAKUSHUPPAN Co., p. 100-106.
- 2—3 Tazawa, K., Namikawa, H., Oida, N., Itoh, K., Yatsuzuka, M., Koike, J., Masada, M., Maeda, H. (2006) Scavenging activity of modified arabinoxylane from rice bran (BioBran/MGN-3) with natural killer cell activity on free radicals. In: (Kenji Tazawa eds) BioBran/MGN-3 Basic and clinical application to integrative medicine. IYAKUSHUPPAN Co., p. 107-110.
- 4—1 Hamada, T., Kodama, H. (2006) Phenotype of the transgene in plants: expression and silencing. In: (Teixeira da Silva J.A. eds.) Floriculture, Ornamental and Plant

- Biotechnology: Advances and Topical Issues (1st edition), Global Science Books, London, UK. p 98-107.
- 6-1 柳楽洋三・島村克好・児玉浩明・小関良宏 (2005): トレニア再生系においてアントシアニン合成誘導時に特異的に発現している遺伝子の解析, 第23回 日本植物細胞分子生物学会年会 要旨集, 48
- 6-2 岡慎一郎・緑川 薫・児玉浩明 (2005): オーソログ遺伝子間でのRNAiとコサプレッションの解析, 日本植物学会第69回大会研究発表記録, 133.
- 6-3 宮城島久海・児玉浩明 (2005): コサプレッション体におけるスプライシング異常の解析, 日本植物学会第69回大会研究発表記録, 248.
- 6-4 瀧川紗智子・富田理恵・児玉浩明 (2005): コサプレッションとRNAiのsiRNAの作用機構の相違, 日本植物学会第69回大会研究発表記録, 248.
- 6-5 松原紀嘉・中島 拓・児玉浩明・渡辺 均・國分尚・安藤敏夫 (2005): 市販ペチュニア品種のアントシアニン合成系の解析—花冠色素判別DNAマーカーの開発—, 園芸学会雑誌, 74 (別冊2), 598
- 6-6 Matsubara, K., Chen, S.M., Hirayama, Y., Kodama, H., Watanabe, H., Ando, T. (2005): Origin of mutations for the genes encoding F3'5'H of commercial petunias. VII World Petunia Days, University of Nottingham, p 14
- 6-7 島村克好・松原紀嘉・児玉浩明・安藤敏夫 (2006): ペチュニアの花部におけるEST解析, 第47回 日本植物生理学会年会 要旨集, 163
- 6-8 岡慎一郎・島村克好・霜鳥由美・児玉浩明 (2006): システミックジーンサイレンシングにおける二次的siRNAの解析, 第47回 日本植物生理学会年会 要旨集, 318
- 6-9 平井清華・足立絵理・岡慎一郎・児玉浩明 (2006): RNAiコンストラクトにおけるスパーサー配列と抑制効率の関連, 日本農芸化学会2006年度大会講演要旨集, 36
- 6-10 新澤知恵・児玉浩明・熊谷好史・森 健一・松本二郎・宮本 久・宮本浩邦 (2006): 好熱菌発酵産物における微生物相の多様性解析, 日本農芸化学会2006年度大会講演要旨集, 88
- 6-11 陳素梅・松原紀嘉・國分 尚・児玉浩明・渡辺 均・安藤敏夫 (2006): ペチュニアと近縁属の遺伝資源解析—市販品種のHf1遺伝子の起源—, 園芸学会雑誌, 75 (別冊1), 177
- 6-12 Shimamura, K., Matsubara, K., Kodama, H., Ando, T. (2006): Analysis of ESTs and gene expression profile in petunia flowers. 20th IUBMB international congress of biochemistry and molecular biology and 11th FAOBMB congress. Abstracts, p 225.
- 1-2 Daizo, A., Y. Egashira, H. Sanada (2005): Suppressive effect of corn bran hemicellulose on liver injury induced by D-galactosamine in rats. *Nutrition* 21 (10) 1044-1051.
- 1-3 Egashira, Y., S. Nagaki, H. Sanada (2006) Tryptophan-niacin metabolism in rat with puromycin aminonucleoside induced nephrosis. *Int. J. Vitam. Nutr. Res.* 76 (1) 28-33.
- 1-4 Geng, X., X. Wang, Y. Egashira, H. Sanada (2005) Study on the mechanisms of the suppressive effect of oligosaccharide fragments from dietary fiber corn bran hemicellulose on D-galactosamine-induced hepatitis in rats. *J. Jpn. Assoc. Dietary Fiber Res.* 9 (1) 47-56.
- 1-5 Geng, X., X. Wang, Y. Egashira, H. Sanada (2005) Effect of different molecular weight fragments from corn bran hemicellulose on D-galactosamine-induced hepatitis in rats in relation to intestinal degradation. *Biotechnology* 4 (3) 173-181.
- 1-6 Wang, X., X. Geng, Y. Egashira, H. Sanada (2005) Release of ferulic acid from wheat bran by an inducible feruloyl esterase from an intestinal bacterium *Lactobacillus acidophilus*. *Food Science and Technology Research* 11 (3) 241-247.
- 2-1 江頭祐嘉合 (2006) 食物繊維と健康, 医食農同源のサイエンス (安藤編) サイエンスハウス, 67-78.
- 2-2 真田宏夫 (2005): 食物関連の疾患—食物感受性—, ケンブリッジ世界の食物史百科事典, 朝倉書店, 582-593.
- 2-3 山田太斗, 台蔵彩子, ボインドグルン金花, 江頭祐嘉合, 真田宏夫, 前田浩明 (2006): IIバイオブランの基礎. バイオブラン(米ぬかアラビノキシラン誘導體)がラットの実験的肝障害に及ぼす影響, バイオブランBioBran/MGN-3 (米ぬかアラビノキシラン誘導體)基礎と代替・補完療法への応用 (田澤編) 医薬出版, 128-134.
- 2-4 Yamada, T., A. Daizo, J. Boindogurong, Y. Egashira, H. Sanada, H. Maeda (2006): The basic studies of BioBran: Effect of modified arabinoxylan from rice bran (BioBran/MGN-3) on experimental liver dysfunction in rats, BioBran/MGN-3 (Rice bran arabinoxylan derivative) Basic and clinical application to integrative medicine (ed. Kenji Tazawa) Iyakushuppan Co. 131-138.
- 3-1 江頭祐嘉合 (2006): 個別野菜の摂取と健康に関する研究の調査, H17年度農林水産省補助事業報告書, 84-133.
- 3-2 江頭祐嘉合 (2006): 多機能性を有する穀類由来食品素材の開発, H16年度年報(財)飯島記念食品科学振興財団, 112-117.
- 4-1 江頭祐嘉合, 長南治 (2005): 食物繊維とがん (総説), 日本食物繊維学会 9(1) 1-11.
- 4-2 江頭祐嘉合, 長岐新, 真田宏夫 (2006): Puromycin aminonucleoside誘発ネフローゼラットのトリプトファン代謝—腎臓ACMSDの役割—, 必須アミノ酸研究, 175, 12-17.
- 5-1 真田宏夫 (2005): 飼料中フラクトオリゴ糖はラット

食品栄養学

- 1-1 Daizo, A., Y. Egashira, H. Sanada (2006): Effect of dietary corn bran hemicellulose and neomycin on hepatic caspase-3 activity and glycoprotein concentration in rats treated with or without D-galactosamine. *J. Nutr. Sci. Vitaminol.* 52, 96-104.

- における腸の透過性を増加させる (文献紹介) 日本食物繊維学会 9(1) 70.
- 5—2 真田宏夫 (2006): バイオプランの肝障害抑制効果, Medical Academy News, 967, 4.
- 6—1 Egashira, Y., R. Toki, M. Sato, K. Saito, H. Sanada (2005): Effects of dietary fat and protein on quinolinic acid production in rats. *Annals of Nutrition & Metabolism* (18th International congress of Nutrition, in South Africa) 49, 201.
- 6—2 江頭祐嘉合, 小原理美, 原澤美智子, 真田宏夫 (2006): 自然発症糖尿病ラットの体内酸化に及ぼすポリフェノールフェルラ酸摂取の影響, 第60回日本栄養食糧学会大会講演要旨集 (静岡県立大学) 202.
- 6—3 江頭祐嘉合 (2005): 食物繊維・アミノ酸と健康, 第28回環境健康フィールド科学センター環境健康講演会 (柏)
- 6—4 Kawano, N., Y. Egashira, H. Sanada (2005): The influence of seaweed on the hepatotoxicity of D-galactosamine in the hepatopathy. *Annals of Nutrition&Metabolism* (18th International congress of Nutrition, in South Africa) 49, 284.
- 6—5 駒野飛雷, 和田織恵, 坂田侑加, 倉部 隼, 江頭祐嘉合, 鈴木良雄, 真田宏夫 (2006): グルテン加水分解ペプチドによるD-ガラクトサミン誘発肝障害の発症抑制作用, 第60回日本栄養食糧学会大会講演要旨集 (静岡県立大学) 99.
- 6—6 佐々木菜穂, 江頭祐嘉合, 真田宏夫 (2006): 多価不飽和脂肪酸の α -アミノ- β -カルボキシムコン酸- ϵ -セミアルデヒド脱炭酸酵素mRNA抑制機構, 第60回日本栄養食糧学会大会講演要旨集 (静岡県立大学) 276.
- 6—7 真田宏夫 (2005): 高機能性食品と健康, サイエンスパートナーシッププログラム教員研修 (松戸市)
- 6—8 真田宏夫 (2005): 疾病予防のための食品機能, 鹿児島県食品産業協議会講演会 (鹿児島市)
- 6—9 真田宏夫 (2006): 食生活から成人病予防, 沼田市・千葉大学地域間交流シンポジウム「自然に根ざした食と健康を考える」基調講演 1 (沼田市)
- 6—10 真田宏夫 (2006): 食生活の改善と健康等 (食育への取り組み法), サイエンスパートナーシッププログラム教員研修 (沼田市)
- 6—11 ポインドグルン金花, 江頭祐嘉合, 真田宏夫 (2006): BHA, BHTによるAcetaminophen肝障害抑制メカニズムにおけるHsp25, 70iレベルの解析, 第60回日本栄養食糧学会大会講演要旨集 (静岡県立大学) 200.
- 1—3 Planchet E., Sonoda M., Zeier J. and Kaiser M.W. (2006): Nitric oxide (NO) as an intermediate in the cryptogein induced hypersensitive response – a critical re-evaluation *Plant, Cell Environ.* 29, 59–69
- 2—1 佐藤隆英, (2005年) 食品生産現場での衛生管理・HACCP, 食品認証ビジネス講座, 松田友義 編著, 幸書房, 111–126,
- 3—1 佐藤隆英 (2006年) 高等植物におけるエチレン生合成調節の分子機構に関する研究, 基盤研究(C), 研究成果報告書
- 3—2 佐藤隆英 (2006年) 高等植物におけるエチレン生合成調節機構の生化学的解析に関する研究, 助成金贈呈者紹介, 濱口生化学振興財団, 8–12,
- 6—1 澤木淑子, 高橋あゆみ, 黄聖洙, 水野真二, 横塚真依子, 園田雅俊, 中川弘毅, 佐藤隆英 (2006): メロン果実におけるCM-EIL遺伝子について 第47回日本植物生理学会年会講演要旨集 267.
- 6—2 園田雅俊, 伊藤孝浩, Kaiser M.W., Zeier J., 佐藤隆英, 中川弘毅 (2006年): *Deinococcus radiodurans*由来NO合成酵素遺伝子過剰発現株におけるNO応答遺伝子の発現様式 第47回日本植物生理学会年会講演要旨集 252.

微生物工学

- 1—1 S. Amachi, Y. Muramatsu, Y. Akiyama, K. Miyazaki, S. Yoshiki, S. Hanada, Y. Kamagata, T. Ban-nai, H. Shinoyama and T. Fujii, Isolation of iodide-oxidizing bacteria from iodide-rich natural gas brines and seawaters, *Microbial Ecol.* 49, 547–557 (2005).
- 1—2 S. Amachi, Y. Muramatsu, H. Shinoyama and T. Fujii, Application of autoradiography and a radiotracer method for the isolation of iodine-accumulating bacteria, *J. Radioanal. Nucl. Chem.*, 266, 229–234 (2005).
- 1—3 K. Morita, S. Kimura, M. Saito, H. Shinoyama, T. Usami, Y. Amemiya and M. Shishido, Generation and characterization of reduced virulence *Fusarium oxysporum* f. sp. *lycopersici* mutants through plasmid-vector insertion, *Mycopathologia*, 160, 67–73 (2005).
- 1—4 塚越 覚, 吉本葉子, 佐藤玲子, 篠山浩文, 野田勝二, 野間 豊 (2005): 炭化したナシ剪定枝の野菜栽培用土としての有効利用, 園学研, 4(3), 287–290.
- 1—5 本間裕人, 篠山浩文, 信田幸大, 天知誠吾, 藤井貴明 (2006): スギ林にて発生する食用菌スギエダタケの栽培化に関する予備検討, 日本きのこ学会誌, 13(4), 205–210.
- 2—1 天知誠吾 (2005): ヨウ素サイクルとバクテリア, ヨウ素化合物の機能と応用, 横山正孝 編, 249–259, シーエムシー出版
- 3—1 篠山浩文 (2005): 葉面糸状菌, 好熱性細菌群を活用した木質廃棄物及び家畜排泄物の再資源化, 科学研究費補助金 (基盤研究(B)) 成果報告書
- 3—2 篠山浩文, 須田 互, 高山秋子 (2006): 各種固形肥料の機能性評価, 平成17年度流山市における産官学共同研究成果報告書

生物資源利用学

- 1—1 Matsumoto T. and Omi Y. (2006): Research on the plants described by the three major anthologies in ancient Japan *Journal of Environmental Information Science* 34, 73–80
- 1—2 Mizuno S. Hirasawa Y. Sonoda M. Nakagawa H. and Sato T. (2006): Isolation and characterization of three DREB/ERF-type transcription factors from melon (*Cucumis melo*) *Plant Science*. 170. 1156–1163.

- 3—3 篠山浩文 (2006) : 地域問題の解決を題材とした発想展開型教育プログラムの構築, 千葉大学教育改善を図る取組における教職員海外派遣支援プログラム報告書
- 3—4 穴戸雅宏, 坂本一憲, 篠山浩文 (2006) : 里山における生態系の機能再生, 平成17年度森林総合研究所受託研究報告書
- 4—1 S. Amachi, T. Fujii, H. Shinoyama and Y. Muramatsu, Microbial influences on the mobility and transformation of radioactive iodine in the environment, *J. Nucl. Radiochem. Sci.*, 6, 21-24 (2005).
- 4—2 天知誠吾, 村松康行 (2006) : ヨウ素から見えてくる地球・環境・生物, 化学経済, Vol. 53, No. 3, 43-48, 化学工業日報社
- 4—3 篠山浩文 (2006) : 山武町バイオマスタウン構想, 建設と施工企画, No676, 12-18.
- 4—4 篠山浩文, 西野文智, 塚越 覚, 坂本一憲, 百原 新, 沖津 進 (2006) : 千葉県木質バイオマス新用途プロジェクトから山武町バイオマスタウン構想の展開へ, 食と緑の科学, 60, 91-97.
- 4—5 本間裕人, 篠山浩文, 小林義弘, 天知誠吾, 藤井貴明 (2006) : スギ資源多段利用システムの構築を目的としたスギ木粉廃堆地による各種食用菌の栽培, 食と緑の科学, 60, 75-78.
- 5—1 篠山浩文, 立本英樹 (2005) : 木質バイオマス新用途プロジェクトから山武町バイオマスタウン構想の展開へ, 千葉大広報, 6-7
- 5—2 篠山浩文 (2005) : 農芸化学のこころと民藝, たあくらたあ, 第7号, 青人草, 長野, 2
- 6—1 秋山夕香子, 天知誠吾, 村松康行, 篠山浩文, 藤井貴明 : 高濃度ヨウ素海水における微生物群集の変動解析, 第8回ヨウ素利用研究国際シンポジウム
- 6—2 天知誠吾, 土屋聡志, 村松康行, 渡辺ゆう子, 篠山浩文, 藤井貴明 : 海洋からのヨウ素還元細菌の単離, 日本微生物生態学会第21回大会
- 6—3 天知誠吾, 村松康行, 藤井貴明 : 微生物によるヨウ素の揮発, 蓄積, 酸化, 還元 —ヨウ素サイクルに貢献する細菌類—, 第8回ヨウ素利用研究国際シンポジウム
- 6—4 天知誠吾, 藤井貴明, 村松康行 : ヨウ素サイクルとバクテリア, 第9回マリノバイオテクノロジー学会大会 (シンポジウム : 海洋生物と微量元素)
- 6—5 市石 卓, 神野英毅, 藤井貴明, 天知誠吾, 石見勝洋, 浅田泰男 : 乳酸発酵菌と光合成細菌の混合培養による水素生産のプロセス研究, 日本生物工学会平成17年度大会
- 6—6 木村 功, 天知誠吾, 篠山浩文, 藤井貴明 : *Arenibacter* sp. C-21株によるヨウ素蓄積機構, 日本農芸化学会平成18年度大会
- 6—7 須田 互, 篠山浩文, 天知誠吾, 藤井貴明, 大藤道衛 : 樹木葉圏に生息する微生物群集の分子生態学的解析手法の確立, 日本生物工学会平成17年度大会
- 6—8 知久和寛, 篠山浩文, 天知誠吾, 藤井貴明 : *Bacillus subtilis* KT12株が産生する高配糖化糖質分解酵素群を用いた配糖体の合成, 日本生物工学会平成17年度大会

- 6—9 吉川 潤, 天知誠吾, 篠山浩文, 藤井貴明 : *Aureobasidium pullulans* DSM2404による β -フラクトフラノシダーゼ類の生産, 日本生物工学会平成17年度大会
- 6—10 吉川 潤, 天知誠吾, 篠山浩文, 藤井貴明 : *Aureobasidium pullulans* DSM2404における β -フラクトフラノシダーゼ類 I の生産と精製, 日本農芸化学会平成18年度大会

分子生体機能学

- 1—1 Fukamizo T, Amano S, Yamaguchi K, Yoshikawa T, Katsumi T, Saito J, Suzuki M, Miki M, Nagata Y, Ando A (2005) *Bacillus circulans* MH-K1 Chitosanase: Amino Acid Residues Responsible for Substrate Binding. *J. Biochem.* 139 (5): 563-569.
- 1—2 Kawase T, Yokoyama S, Saito A, Fujii T, Nikaidou N, Miyashita K, Watanabe T (2006) Comparison of the enzymatic and antifungal properties between family 18 and 19 chitinases from *Streptomyces coelicolor* A3 (2). *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 70: 988-998.
- 1—3 Nagata Y, Yamashita M, Honda H, Akabane J, Uehara K, Saito A, Sumisa F, Nishihori K, Oodaira Y (2005) Molecular characterization of a novel jacalin-related fungal lectin obtained from *Grifola frondosa*. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 69: 2374-2380.
- 1—4 Narita T, Ando A, Mikami Y, Taniyama T (2005) Over expression of CIN85 suppresses the growth of herpes simplex virus in HeLa cells. *Experimental Cell Research* 311: 265-271.
- 1—5 Saito A, Kaku H, Minami E, Fujii T, Ando A, Nagata Y, Schrempf H, Miyashita K (2006) An enzyme-linked immunosorbent assay (ELISA) to determine the specificity of the sugar-binding protein NgcE, a component of the ABC transporter for *N*-acetylglucosamine in *Streptomyces olivaceoviridis*. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 70: 237-242.
- 1—6 野間 豊, 安藤昭一, 大澤範高, 宮田正信, 塚越 覚 (2005) 環境教育における携帯電話の利用に関する実証的研究. 人間・植物関係学会雑誌 (JSSPPR) 5 (1): 6-12.
- 6—1 片山博恵, 天野 仰, 新屋友規, 齋藤明広, 安藤昭一, 長田嘉穂 (2006) : ヒイロチャワントケ・レクチン AALの*Mucor recemosus*への結合と菌糸の破壊. 日本農芸化学会2006年度大会講演要旨集, 27.
- 6—2 片山博恵, 天野 仰, 齋藤明広, 安藤昭一, 長田嘉穂 (2006) : ヒイロチャワントケのレクチンAALの抗菌活性について. 日本菌学会50周年記念大会講演要旨集, 102.
- 6—3 久保田梓, 藤倉道明, 野村昌史, 新屋友規, 齋藤明広, 安藤昭一, 長田嘉穂 (2006) : キチン結合ドメインを1~4個もつ人工レクチンの調製とその性質について. 日本農芸化学会2006年度大会講演要旨集, 27.
- 6—4 齋藤明広, 山下真紗子, 上原浩一, 安藤昭一, 長田嘉穂 (2006) : マイタケ・レクチンとジャカリン近縁レクチンとの相同性について. 日本農芸化学会2006年

- 度大会講演要旨集, 27.
- 6—5 長田嘉穂, 山下真紗子, 齋藤明広, 上原浩一, 安藤昭一, 西堀耕三 (2006): マイタケの子実体形成過程におけるレクチンの出現とその性質. 日本菌学会50周年記念大会講演要旨集, 107.
- 6—6 西川 諒, 松本伯夫, 平野伸一, エルセイエド・ワエル, 大村直也, 安藤昭一 (2006): 還元的PCR脱塩素微生物の探索. 日本農芸化学会2006年度大会講演要旨集, 105.
- 6—7 原 徹也, 大矢高彰, 齋藤明広, 安藤昭一, 深溝 慶 (2005): *Nocardioides* sp. N106キトサナーゼの加水分解特異性について. 日本応用糖質学会2005年度大会講演要旨集.
- 6—8 藤井毅, 伊藤絵美, 齋藤明広, 宮下清貴 (2005): DNAマイクロアレイを用いた放線菌の誘導性キトビオース結合蛋白質の検出. 第28回日本分子生物学会年会講演要旨集, 613.
- 6—9 町屋和佳子, 松本伯夫, 大村直也, 長田良穂, 安藤昭一 (2006): 嫌気性キノン還元細菌の電気化学的代謝制御. 日本農芸化学会2006年度大会講演要旨集, 105.
- 6—10 松橋和生, 一条直哉, 新屋友規, 齋藤明広, 安藤昭一, 長田嘉穂 (2006): タモギタケの子実体レクチン遺伝子の発現と分布について. 日本農芸化学会2006年度大会講演要旨集, 27.
- 6—11 松本幸平, 松本伯夫, エルセイエド・ワエル, 大村直也, 長田嘉穂, 安藤昭一 (2006): 嫌気性クロロベンゼン脱塩素微生物の探索. 日本農芸化学会2006年度大会講演要旨集, 106.
- 6—12 守田圭一, 佐々木和裕, たえ見幸弘, 城 孝司, 安藤昭一, 大村直也, 長田嘉穂 (2006): 複合PCB抗体を用いたPCB混合物の定量イムノアッセイ. 農芸化学会2006年度大会講演要旨集, 195.
- 6—13 Noritaka Osawa, Kiku Asai, Tomoharu Shibuya, Katsuji Noda, Satoru Tsukagoshi, Yutaka Noma, Akikazu Ando: Three-dimensional Education System Between Indoor And Outdoor Environments. 6th Internaitonal Conference on Information Technology-based Higher Education and Training. Session F2c, pp 13-18, July 7-9, 2005, Juan Dolio, Dominican Republic. (査読制度有)
- 6—14 Noritaka Osawa, Katsuji Noda, Satoru Tsukagoshi, Yutaka Noma, Akikazu Ando, Tomoharu Shibuya, Kimio Kondo (2005): Outdoor education by location-awareness using RFID and two-dimensional symbology tags. ED-Media, World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunicaitons, pp 276-283, June 27-July 2. (査読制度有)

緑地・環境学科

環境デザイン学講座

庭園デザイン学

- 1-1 Sawako Ono (2005): Design Collaboration in the Space of Cross-Cultural Flows. *Landscape Journal*, 第24巻2号, p. 125~139
- 1-2 三谷 徹 (2006): 月光環境下における禅宗様庭園のシミュレーション分析, *日本造園学会誌ランドスケープ研究*, Vol. 69, No.5, p. 407~412
- 5-1 三谷 徹 (2005): INAX REPORT, No.164 1) 府中市美術館前庭, 2) VILLA FUJII庭園, 3) 福井県立図書館, 4) 大阪西梅田エントランスプラザ, 5) Honda和光ビルランドスケープ
- 6-1 三谷 徹 (2005): 九州建築塾講師, 日本建築家協会主催・九州支部大会
- 7-1 三谷 徹 (2005): Honda和光ビルランドスケープ, ランドスケープデザイン, No.46, 新建築第80巻15号, p. 64~75, p. 233
- 7-2 三谷 徹 (2005): 奥多摩町森林セラピー整備にともなう基礎調査・基本構想策定
- 7-3 三谷 徹 (2006): 移動通信ビル, ランドスケープデザイン, No.49, p. 56~61
- 8-1 三谷 徹 (2006): 特許第3781995号「階段状立体花壇」・共同発明, ランドスケープデザインNo.41, p. 50~55

都市環境デザイン学

- 1-1 中橋秀雄, 百瀬 博, 小栗 瞳, 田代順孝, 藤原宣夫 (2004): 地形解析による大規模丘陵地方公園の利便性の複合的評価手法の提案, *ランドスケープ研究*, 67(5), 699-672.
- 1-2 白井敦史, 鈴木弘孝, 藤崎健一郎, 田代順孝 (2004): 緩衝緑地形成におけるパターン植栽手法の効果, *環境情報科学論文集*, No.9, 107-112.
- 1-3 Dai Fei, Takeshi Kinoshita, Yoritaka Tashiro (2005): Historical study on the Process of Park and Open Space Planning in Wuhan City, China *Papers of International City Planning Symposium among Japan, Korea and Taiwan*, 37-50.
- 1-4 三坂育正, 鈴木弘孝, 村野直康, 田代順孝 (2005): 壁面緑化による建物外部の温熱環境改善効果に関する研究, *ランドスケープ研究*, 68(5), 503-508.
- 1-5 鈴木弘孝, 白井敦史, 藤崎健一郎, 田代順孝 (2005): 姫路市内における緩衝緑地内の樹林地構造の評価に関する研究, *日本緑化工学会誌*, 33(1), 9-14.
- 1-6 Hirota Suzuki, Yoichiro Hayashi, Hiroshi Akiyama, Yoritaka Tashiro (2005): Study on actual status of public open space and the characteristics of green spaces constructed by Planned Development Design and Special zoning Urban Area system in the 23 wards of Tokyo,

Journal of Landscape Architecture in Asia, Edited by JILA, CHISLA and KISLA.

- 1-7 三坂育正, 鈴木弘孝, 水谷敦司, 村野直康, 田代順孝 (2006): 壁面緑化植物の熱収支特性の評価に関する研究, *日本建築学会技術報告*, 23号, 233-236.
- 1-8 鈴木弘孝, 小島隆矢, 嶋田俊平, 野島義照, 田代順孝 (2006): 壁面緑化に関する技術開発の動向と課題, *日本緑化工学会誌*, 31(2), 247-259.
- 1-9 方正 君, 田代順孝, 木下 剛 (2006): 日本の植物園関連施設における経営方針の分類と展示施設の実態に関する研究, *食と緑の科学*, 千葉大学園芸学部, 60, 19-27.
- 1-10 鈴木弘孝, 三坂育正, 水谷敦司, 田代順孝 (2006): WBGT SETによる壁面緑化の温熱環境改善効果の評価, *ランドスケープ研究*, 69(5), 441-446.
- 1-11 Siti Nurul Rofiqo IRWAN, Takeshi KINOSHITA, Yoritaka TASHIRO (2006): Study of Thermal Comfort in Tree-shaded Areas in the Green Space of Yogyakarta, Indonesia, *ランドスケープ研究*, 69(5), 617-622.
- 1-12 Fei DAI, Junhua ZHANG, Yoritaka TASHIRO (2006): A Study on Space Characteristics of the Places for Taiji Boxing in Parks and Squares of Wuhan City, China, *ランドスケープ研究*, 69(5), 605-608.
- 1-13 三坂育正, 鈴木弘孝, 藤崎健一郎, 成田健一, 田代順孝 (2006): 壁面緑化植物の蒸散作用による温熱環境改善効果, *環境情報科学論文集*, No.19, 113-116.
- 1-14 中島敏博, 田代順孝, 古谷勝則 (2006): 住民意識と学生意識にみる緑地との関わり方の現状と緑地活動への参加意欲, *ランドスケープ研究*, 69(5), 699-704.
- 2-1 田代順孝 (2006): 市民ランドスケープの展開, 編著, *環境コミュニケーションズ*, 総頁数398
- 2-2 田代順孝 (2006): パークマネージメントの構築, 市民ランドスケープの展開, 分担執筆, *環境コミュニケーションズ*, pp. 77-86
- 2-3 田代順孝 (2006): 世界の自治体行政に見る市民ランドスケープの施策展開, 分担執筆, *市民ランドスケープの展開*, *環境コミュニケーションズ*, pp. 335-350.
- 2-4 木下 剛 (2005): タウンスケープ/景観法: 美=デザイン議論の新しい地平, 現代住居コンセプション117のキーワード, INAX出版, pp. 224-225
- 2-5 木下 剛 (2006): 風景としてのセキュリティ: 閉じる都市, *ランドスケープ批評宣言 [増補改訂版]*, INAX出版, pp. 428-429.
- 2-6 木下 剛 (2006): グリーンスペース・スコットランドによる緑環境のマネジメント, 分担執筆, *市民ランドスケープの展開*, *環境コミュニケーションズ*, pp. 360-369.
- 3-1 杉山和雄, 北原理雄, 田代順孝, 八馬 智, 永見 豊, 古谷勝則 (2005): 景観緑三法の施行に伴う千葉県の景観整備に係る方針検討, (財)千葉県建設技術センター, 総ページ数108.

- 3-2 田代順孝, 柳井重人他 (2006): 第三期松戸市緑推進委員会活動報告書, 松戸市, 総ページ数105.
- 3-3 木下 剛他 (2006): 海外の日本庭園, (社)日本造園学会「海外の日本庭園」調査・刊行委員会, 総ページ数180.
- 3-4 木下 剛 (2006): 校庭芝生化の展望検討調査 (受託研究), A県B公社, 総ページ数106.
- 4-1 田代順孝 (2006): 日本型公園管理像を指向する, 公園緑地, 67(1), 日本公園緑地協会, 36-42.
- 4-2 木下 剛 (2006): 海外の日本庭園: 意義と役割④ 公園・植物園・美術館のなかの日本庭園, ランドスケープ研究, 69(3), 211-213.
- 4-3 木下 剛他 (2006): 海外の日本庭園-現状と課題, ランドスケープ研究, 69(3), 224-227.
- 4-4 木下 剛・根本哲夫 (2006): 多摩ニュータウン自然地形案, 10+1, No42, INAX出版, 124-127.
- 4-5 木下 剛 (2006): コード, 10+1, No43, INAX出版, 136-137.
- 4-6 木下 剛 (2006): 名所, 10+1, No43, INAX出版, 148-149.
- 6-1 田代順孝 (2006): パークマネジメントプランに見る海外諸都市の公園管理運営システム, 第3回公園管運営フォーラム講演資料, (財)講演緑地管理財団, 2.
- 6-2 木下 剛 (2006): 都市批判としてのランドスケープ原論へ, 平成18年度日本造園学会全国大会分科会講演集, (社)日本造園学会, 1-2.
- 7-1 田代順孝他 (2006): 四街道市緑の基本計画, 四街道市, 総ページ数120.
- 7-2 木下 剛他 (2006): 流山市緑の基本計画, 流山市, 総ページ数91.
- 7-3 田代順孝・木下 剛・櫻井清一・小宮山政敏・他 (2006) 流山新川耕地自然活用型土地利用ゾーンにおける土地利用等の条件整理 (受託研究), (財)国土計画協会, 総ページ数.
- 7-4 木下 剛他 (2006): 韓国全羅南道新安郡D諸島観光地開発構想, 新安郡.
- 7-5 木下 剛 (審査委員会委員長)・都市環境デザイン学研究室 (協力) (2005): 第1回江戸東京園芸まつりグリーンアートフェスタ'05 in すがも・おおつか報告書, 江戸東京園芸まつり実行委員会, 総ページ数48.
- 9-1 石井真由美 (2005): 海上公園における水辺の形状とその成立要因-海に触れ合える海上公園の整備条件とは- (第11回二葉海奨励賞), ふたば40号, 14-15.
- 1-4 池田憲一・齋藤雪彦他 (2005): 練馬区農業体験農園における利用者の行動の多様性に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集E-2, 607-608
- 1-5 齋藤雪彦 (2005): イギリス農村地域における地域振興施策の展開, 日本建築学会大会学術講演梗概集E-2, 611-612
- 1-6 今坂隆宏・齋藤雪彦他 (2005): 都市近郊農村地域における集落空間の粗放化現象の空間的特質に関する基礎的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集E-2, 633-634
- 1-7 藤澤知美・齋藤雪彦他 (2005): 市街化調整区域における大規模開発行為に伴う農村集落の変容に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集E-2, 653-654
- 1-8 中村 攻 (2006): 街の安心, 人間工学06-4, 2-6
- 1-9 中村 攻 (2005): 子どもが犯罪にあわない街づくり, SEXUALITY, 21, 34-38
- 2-1 中村 攻・間宮陽介他 (2005): 現代の都市と子どもの安全 (岩波講座 都市の再生を考える第3巻) 岩波書店, 175-196
- 2-2 中村 攻 (2005): 子ども白書 (2005年版) 草土文化社, 53-56
- 3-1 中村 攻 (2006): 報告書 母親クラブによる親子でつくる地域の安全な環境づくり, 全国地域活動連絡協議会, 1-216
- 6-1 齋藤雪彦 (2005): 都市農地の保全と活用, 足立区まちづくり大学講演会
- 6-2 齋藤雪彦 (2005): 市町村合併時代の地域計画のつくり方, 農村生活学会大会, 課題別セッション「大合併時代の社会的空間的スケールのとらえ方とビジョン策定について」

風景計画学

- 1-1 赤坂 信 (2005): 1930年代の日本における「郷土風景」保存論, ランドスケープ研究, 69(1), 59-65
- 1-2 Akasaka, Makoto (2005): Advocacy of Vista-Heritage—The Important Role of Viewing to Mountain for the setting in Japan—, Proceeding of ICOMOS 15th General Assembly and Scientific Symposium Vol. 1, 4-10
- 1-3 Akasaka, Makoto (2005): Recovering the Vista of Nature from the Town—Revaluation and Restoration of the Vista-Heritage from Fujimizaka—, Journal of Landscape Architecture in Asia, Volume1, The 8th International Landscape Architecture Symposium of China, Japan, Korea 2005 Shanghai, China, 200-204
- 1-4 一場博幸, 下嶋 聖, 古谷勝則, 麻生 恵 (2006): 尾瀬ヶ原の休憩テラスから見た木道上の混雑感評価に関する研究, ランドスケープ研究, 69(5), 737-740
- 1-5 中島敏博, 古谷勝則 (2005): 学生意識に見る若者の緑地保全活動への参加意思誘発プロセス, 環境情報科学論文集, 第19号, 151-156
- 1-6 中島敏博, 田代順孝, 古谷勝則 (2006): 住民意識と学生意識にみる緑地との関わり方の現状と緑地活動への参加意欲, ランドスケープ研究, 69(5), 699-704
- 1-7 章 俊華, 赤坂 信 (2006): 中国・頤和園における

地域計画学

- 1-1 齋藤雪彦・全 銀景 (2005): 都市近郊農村地域における集落域の空間管理の粗放化と土地利用規制の課題, 日本建築学会計画系論文集, No594, 53-60
- 1-2 吉田友彦, 齋藤雪彦 (2005): 放棄住宅地の立地と土地所有構造分析, 都市計画論文集40(3), 739-744.
- 1-3 三橋伸夫, 鎌田元弘, 福与徳文, 齋藤雪彦, 八木洋憲 (2005): 英国ウエールズにおけるコミュニティファースト事業の計画手法, 農村計画論文集7, 151-156

- 煉瓦彫刻からみた庭園空間の表現と特徴, ランドスケープ研究, 69(5), 413-418
- 3-1 古谷勝則 (2005): 千葉県内の市町村が抱える地域問題に関するアンケート—健康・福祉—, 千葉大学園芸学部房総研究会, 9-21
- 3-2 古谷勝則, 中島敏博 (2005): 景観緑三法の施行に伴う千葉県の景観整備に係る方針検討—市民参加による身近な緑の保全活動—, 財団法人千葉県建設技術センター, 千葉大学景観緑三法研究会, 89-92
- 4-1 赤坂 信 (2006): ドイツにおける農村風景の保護と愛好, 農業と経済 72(6), 78-83
- 4-2 古谷勝則 (2006): 日常生活に園芸による癒しを, 農林統計調査, 56(2), 10-16
- 4-3 古谷勝則, 赤坂 信 (2006): 日光国立公園の文化と自然, 千葉大学園芸学部風景計画学研究室, 15, 111p.
- 5-1 古谷勝則 (2006): 緑地環境と環境創造のフロンティア, 環境緑化新聞2005年12月1日号,
- 6-1 赤坂 信 (2005): 姉妹都市の提携と庭園の相互寄贈—ハノーバー市と広島市, フライブルク市と松山市の場合—, 平成17年度日本造園学会北海道支部大会研究・事例発表要旨/会報, 21-22
- 6-2 赤坂 信 (2005): 世界遺産における「眺望」遺産—首里城・弁ヶ嶽・久高島/斎場御嶽を結ぶVista Heritage—の保全の提唱, 平成17年度日本造園学会関東支部大会事例・研究報告集,
- 6-3 古谷勝則 (2006): 農業は癒せるか, 茨城県立農業大学 (2006年1月25日講演), 1-2
- 6-4 園部真依子, 古谷勝則, 油井正昭 (2005): 富士箱根伊豆国立公園箱根地域における展望施設の実態と評価, レジャー・レクリエーション研究第55号, 第35回学会大会発表論文集, 95
- 具場地設計浅析—以沈陽市渾南新区“河畔新城”小区為例, 中国園林Vol. 21, No.117/2005(9), pp. 33-37
- 4-2 章 俊華・高 大偉 (2005): 中国頤和園における煉瓦彫刻の調査研究, 日本庭園学会No.14・15合併号/2006(3), pp. 75-82
- 4-3 高 潔・章 俊華・白 祖華 (2006): 区域環境対児童活動場所の影響—以日本児童遭遇犯罪の空間環境分析為例, 中国園林Vol. 22, No.121/2006(1), pp. 59-65
- 4-4 章 俊華 (2006): 河畔新城「瑤池映緑」広場, 造園作品選集2006, pp. 70-71
- 5-1 章 俊華・天野 真・鏑木 雅 (2006): 中国における国家都市湿地公園の計画について, ランドスケープ研究Vol. 69, No.4, pp. 311-312.
- 6-1 Kyungrock YE・Jun-Hua ZHANG・Takeshi KINOSHITA・Xing-yan WANG (2005): Spatial Planning System of National Territory in Japan, China and Korea, the 8th International Landscape Architecture Symposium of China, Japan, Korea. pp. 100-106
- 6-2 GAO Jie・ZHANG Jun-Hua・BAI Zu-hua (2005): Protection of Cultural Relics and Reproduction and Presentation of Historical Landscape—Examined by Study on Protection and Presentation of the Site of Zhao State Capital at Handan, Hebei, the 8th International Landscape Architecture Symposium of China, Japan, Korea. pp. 170-174
- 6-3 ZHANG An・ZHANG Jun-Hua・BAI Zu-hua (2005): The Regional Operation Green Tourism Industry of Japan, the 8th International Landscape Architecture Symposium of China, Japan, Korea. pp. 225-229
- 7-1 章 俊華・天野 真・その他6名 (2005) 山東省榮成市桑溝湾国家城市湿地公園基本計画完成
- 7-2 総合設計研究所・中国広州園林設計院・章 俊華 (2005) 中国広東省広州市沙河涌河川景観設計国際指名設計競技最優秀賞受賞
- 7-3 李 涛・白 祖華・章 俊華・その他3名 (2006) 河北省邯鄲市趙王城遺跡公園文化生態園基本設計完成
- 7-4 章 俊華・白 祖華・張 鵬・その他7名 (2006) 北京市中関村創新園景観計画と都市設計指名設計競技最優秀賞受賞
- 7-5 章 俊華・天野 真・鏑木 雅・白 祖華・その他6名 (2006) 河北省唐山市南湖国家城市湿地公園基本計画完成
- 9-1 章 俊華 (2006) 第1回中国園林県城銀川市賀蘭県ランドスケープ現地審査委員

環境文化史学

- 1-1 Juan CAO・Yiren LIANG・Jun-Hua ZHANG (2005): Scenic Investigation and Assessment of Nature Reserves in Beijing, CHINESE FORESTRY SCIENCE AND TECHNOLOGY. Vol. 4 No. 4 (2005/12) pp. 60-67
- 1-2 章 俊華・赤坂 信 (2006): 中国・頤和園における煉瓦彫刻からみた庭園空間の表現と特徴, ランドスケープ研究Vol. 69, No.5, P. 413-418.
- 1-3 Fei DAI・junhua ZHANG・Yoritaka TASHIRO (2005): A Study on Space Characteristics of the Places for Taiji Boxing in Parks and Squares of Wuhan City, China, ランドスケープ研究Vol. 69, No.5, P. 605~608.
- 1-4 章 俊華 (2006): 北京城市住宅開発建設現状における位置, 価額, 緑地率と規模要因の調査研究, 中国園林Vol. 22, No.125/2006(5). pp. 17-21.
- 3-1 章 俊華・白 祖華その他8名 (2004): 北京市中関村創新園景観計画設計及び都市設計, 中関村創新園建設管理委員会, 52pp.
- 3-2 章 俊華・白 祖華・天野 真ら (2006): 新疆烏魯木齊市頭頓河区坡地環境整備及び改造工程項目可行性研究報告書, 26pp.
- 4-1 徐 雷蕾・章 俊華 (2005): 城市居住小区中戸外遊

環境植物学講座

緑地植物学

- 1-1 白 龍・高橋輝昌・小林達明・張 興昌・邵 明安・神近牧男 (2005) FDA加水分解活性法による黄土高原北部の半乾燥地帯における土壌微生物活性の測定と活性支配要因, 日本緑化工学会誌, 31, 87-91.
- 1-2 Limin Liu, Hisashi Kon, Nobuhiro Matsuoka and Tatsuki Kobayashi (2005) Coordination between stomatal

- conductance and leaf-specific hydraulic conductance in Maize (*Zea mays* L.). J. Agric. Meteorol., 61(3), 143-152.
- 1—3 Junko Morimoto, Tomoko Kamichi, Ibuki Mizumoto, Shuzo Hasegawa, Masashi Nomura and Tatsuaki Kobayashi (2005) Natural hybridization of Japanese *Rhododendron* section *Brachycaryx* in Mount Kintoki in eastern Japan and concerns for genetic diversity in restoring their habitat. Landscape Ecol. Eng., 1, 149-156.
- 2—1 亀山 章・角張嘉孝・倉本 宣・輿水 肇・小林達明・近藤三雄・柴田昌三・中野裕司・福永健児・藤原宣夫・森本幸裕・養父志乃夫・飯塚康雄・高橋輝昌編 (2005) 環境緑化の事典, 朝倉書店, 484pp.
- 2—2 小林達明・倉本 宣編 (2006) 生物多様性緑化ハンドブック, 地人書館, 323pp.
- 3—1 小林達明 (2005) 千葉大学園芸学部緑地環境学プログラム, 森林技術, 763, 16-17.
- 3—2 小林達明 (2006) 外来生物対策小委員会・特定外来生物等分類群専門家グループ会合(植物)での検討経緯と主な論点, 日本緑化工学会誌, 31, 360-363
- 3—3 小林達明 (2006) これからの技術者教育と学会の役割, 森林技術, 770, 12-13.
- 5—1 高橋輝昌 (2005) 土壌の微生物—生態系の窒素循環を中心に—, ツリードクター, 12, 25-28.
- 5—2 高橋輝昌 (2005) 都市緑地の土壌の特性(緑化技術者のための土壌学入門(10)), グリーン・エージ, 376, 36-39.
- 6—1 KOBAYASHI, T., KURAMOTO, N. and TSUMURA, Y. (2006) Proposal of biodiversity-cared policy of revegetation technology, Proceedings of International Conference on Ecological Restoration in East Asia, 92
- 6—2 KOBAYASHI, T., MURASE, H., KAMIYAMA, Y. and TAKAHASHI, T. (2006) Functional analysis of soil-flora relationship through the stop and renewal of suburban forest management with special reference to nitrate dynamics, Proceedings of International Conference on Ecological Restoration in East Asia, 158
- 6—3 MATSUURA, M. and KOBAYASHI, T. (2006) The relation between plant species composition and vegetation management with coppicing in secondary forest of *Quercus serrata* in a Tokyo metropolitan park in Sayama Hill, Japan, Proceedings of International Conference on Ecological Restoration in East Asia, 128
- 6—4 NISHIO, N., WATANABE, A., TAKAHASHI, T. and KOBAYASHI, T. (2006) Effect of urbanization on organic matter dynamics in forest soil along Tamagawa river in Tokyo, Japan, Proceedings of International Conference on Ecological Restoration in East Asia, 181
- 6—5 SUZUKI, C., NOMURA, M. and KOBAYASHI, T. (2006) Genetic variation and structure in the endangered plant *Rhododendron dilatatum* (Ericaceae), Proceedings of International Conference on Ecological Restoration in East Asia, 133
- 6—6 TAKAHASHI, T., KANZAWA, Y., NISHIO, N. and KOBAYASHI, T. (2006) Effects of urbanization on chemical characteristics of forest soil along Tamagawa river in Tokyo, Japan, Proceedings of International Conference on Ecological Restoration in East Asia, 179

環境植栽学

- 1—1 藤原道郎・岩崎 寛 (2006)：名勝としての海岸マツ林を構成するクロマツ個体の分布, サイズ構造および被陰状況, 景観生態学, 10(2), 81-88.
- 1—2 細野哲央 (2006)：樹木が落下直撃した事故の裁判例にみる管理者の法的責任と植栽管理内容の関係, ランドスケープ研究69(5), 465-470.
- 1—3 岩崎 寛・井上紗代・山本 聡 (2006)：インテリア雑貨としての観葉植物の生育特性に関する研究, ランドスケープ研究, 69(5), 447-450.
- 1—4 朴 映建・須田歩・藤井英二郎 (2006)：対植に対する韓国人と日本人の眼球運動の特性に関する研究, ランドスケープ研究69(5), 471-474.
- 1—5 多田 充・藤井英二郎 (2006)：生理・心理的応答からみた緑陰の視覚的快適性, ランドスケープ研究69(5), 475-478.
- 1—6 辰井美保・藤井英二郎 (2006)：里山管理に伴う植生および管理活動参加者の意識・行動の変化に関する研究, ランドスケープ研究69(5), 777-780.
- 1—7 山本 聡・長谷川紀子・藤原道郎・岩崎 寛(2006)：地域景観保全の観点から捉えた牧草地の認識特性, ランドスケープ研究, 69(5), 695-698.
- 2—1 藤井英二郎 (2006) 園芸療法と緑地福祉, 森本兼囊・宮崎良文・平野秀樹編著, 森林医学, 朝倉書店, 東京, 180-188
- 3—1 藤井英二郎 (2005)：都市の生態的な機能の向上をめざす緑のあり方の検討—緑化用植物材料の選択等について—, 都市域におけるエコロジカルネットワーク構想推進に関する調査—, 国土交通省都市・地域整備局公園緑地課, 99-102.
- 3—2 藤井英二郎・藤崎健一郎・大泉紀男ほか (2006)：第二東名高速道路ライフサイクルコストを考慮した緑化整備手法に関する検討, 中日本高速道路株式会社横浜支社・(社)道路緑化保全協会, 0-152.
- 4—1 藤井英二郎・岩崎 寛・三島孔明・権 孝姫・邱 心怡・須田 歩・遠藤まどか・齋藤洋平・喜多敏明 (2006)：園芸緑地資源の医学療法への利用に関する萌芽的研究, 食と緑の科学, 60, 109-115.
- 4—2 藤井英二郎 (2006)：巻頭言, 糸賀 黎著『持続可能社会における自然保護』, 糸賀黎先生記念出版の会発行.
- 4—3 藤井英二郎 (2006)：新刊紹介『オープンスペースを魅力的にする—親しまれる公共空間のためのハンドブック—』(プロジェクト・フォー・パブリックオープンスペース著, 鈴木俊治・服部圭郎・加藤潤訳), 高速道路と自動車, 49(6), 91.
- 5—1 藤井英二郎 (2005)：現代街路樹事情, 緑の読本, 41(5), 2-7.
- 5—2 藤井英二郎 (2005)：「透かし」剪定にみる日本人と自然との共生の形, 国土緑化, 41(4), 22-23.
- 5—3 岩崎 寛(2005)：園芸療法と病院緑化, 東京新聞, 7

- 月27日.
- 5-4 岩崎 寛 (2005): 既存ビル屋上における貸し菜園システムの可能性, *Green Architect. Tribune*, 10月26日.
- 5-5 岩崎 寛 (2006): 書評「生物多様性緑化ハンドブック」, *道路と自然*, 131, 56.
- 6-1 Fujihara, M., Uehara, Y. and Iwasaki, Y. (2006): Distribution of *Senecio madagascariensis* in Awaji Island, western Japan. *East Asian Federation of Ecological Societies International Congress*, 2.
- 6-2 藤井英二郎 (2005): 庭園の比較文化, 千葉大学園芸学部サテライト講座, 東京都公園協会
- 6-3 藤井英二郎 (2005): 近年の日本の街路樹の問題点と解決策, 名古屋市講演
- 6-4 藤井英二郎 (2006): 造園とデザイン評価, 千葉大学大学院GPデザインシンポジウム講演
- 6-5 藤井英二郎 (2006): 花と緑のまちづくり, (財)全国建設研修センター講演, 小平市
- 6-6 藤井英二郎・内田均ほか (2006): 公共工事の品質確保法とランドスケープ技術, 平成18年度日本造園学会全国大会分科会, 分科会講演集, 51-61, 企画責任者
- 6-7 藤井英二郎・小林章ほか (2006): 造園の施工と管理の実習教育を語る, *ランドスケープ研究*69(3), 5-6.
- 6-8 岩崎 寛 (2006): 森林や樹木の持つ療法的効果, 千葉県森林インストラクター講習会 (千葉県), 講師.
- 6-9 岩崎 寛 (2006): 都市公園における植栽樹のストレス緩和効果, 日本造園学会分科会「造園分野における人の健康と緑の効果に関する取り組み, 企画責任者および講演.
- 6-10 Iwasaki, Y., Yoshikawa, K. and Fujihara, M. (2006): Allelopathic effects of *Senecio madagascariensis* Poiret on Germination and Initial Growth of Revegetation Plants., *International Conference on Ecological Restoration in East Asia*, 117.
- 6-11 Lee J. Y., Fujii, E. (2005): Effects of different planting techniques to the structural diversity of restored forests in urban area, *Abstracts of world conference on ecological restoration in Zaragoza, Spain*, 97
- 6-12 齋藤洋平・岩崎 寛・喜多敏明・三島孔明・藤井英二郎 (2006): 関節リウマチ患者に対する園芸療法の効果に関する研究, *人間・植物関係学会雑誌*, 6 別冊, 6-7.
- 6-13 Yamamoto, S. and Iwasaki Y. (2006): Effects on greenery landscape viewing on stress reduction in term of human physiological changes., *International Conference on Ecological Restoration in East Asia*, 153.
- 9-1 藤井英二郎 (2005): 千葉県植木伝統樹芸士・植木銘木100選認定委員会・委員長, 千葉県
- 9-2 藤井英二郎 (2005): 第32回全国造園デザインコンクール審査委員長, 日本造園建設業協会主催
- 9-3 藤井英二郎 (2006): 第1回造園技術コンクール審査委員長, 一級造園施工管理技士会主催
- 9-4 岩崎 寛 (2005): 根上がり松再生事業シンボル・県立舞子公園彫刻コンクール・審査委員, 兵庫県神戸県民局.
- 緑地環境管理学**
- 1-1 Hou, Jeffrey, Ono, Sawako, Kinoshita, Isami (2005): Design Collaboration in the Space of Cross-cultural Flows, *Landscape Journal* 24(2), Council of Educators in Landscape Architecture & University of Wisconsin Press, 125-135
- 1-2 Kinoshita, Isami (2005): Vulnerability For Overcoming Conflicts- For the Community Capacity Building, *International Community Planning Forum Papers & Abstracts, Community Taipei 2005*, 456-468
- 1-3 カミル・シャウケッティエー・中村 攻・木下 勇・鳥井幸恵 (2005): 北京市の既成市街地における子どもの遊びと遊び空間の変化に関する研究: 日本都市計画学会都市計画論文集40-2, 767-772.
- 2-1 木下 勇 (2006): 空間の質と都市計画, (『都市計画の理論～系譜と課題』高見沢実編著), 学芸出版社, 107-131
- 2-2 木下 勇 (2006): 地域のガバナンスと都市計画～町内会とまちづくり協議会をめぐって (『都市計画の理論～系譜と課題』高見沢実編著), 学芸出版社, 220-243
- 3-1 木下 勇 (2005): 環境 (千葉県内の市町村が抱える地域問題に関するアンケート調査報告書, 千葉大学園芸学部房総研究会編): 千葉大学園芸学部房総研究会, 23-35.
- 3-2 木下 勇 (2006): 子どもを育てるコミュニティ&コミュニティを再生する子どもの参画, 日本学術会議建築学研究連絡委員会報告 (案)『設計科学としての建築・都市』, 日本学術会議建築学研究連絡委員会, 72-73.
- 3-3 木下 勇 (2006): 子ども参画の街づくり: 子どもたちによる街づくりワークショップ事業報告書「子どもの参画」, 東京・こどもの城, 84-85.
- 3-4 木下 勇 (2006): まち育て～Urban Husbandry, 那覇こどものためのデザイン～まちがまるごとミュージアム推進基本計画検討報告書, 那覇こどものためのデザイン実行委員会, 5
- 3-5 木下 勇 (2006): 地域で育つこどもとの環境づくりをはじめませんか?, 那覇こどものためのデザイン～まちがまるごとミュージアム実施報告書, 那覇こどものためのデザイン実行委員会, 99-117.
- 3-6 木下 勇 (2006): 岩手県紫波町, 地域振興アドバイザー派遣バックアップ等調査報告書, 国土交通省・(財)日本地域開発センター, 14-18.
- 3-7 柳井重人 (2005): 建設・都市整備 (千葉県内の市町村が抱える地域問題に関するアンケート調査報告書, 千葉大学園芸学部房総研究会編): 千葉大学園芸学部房総研究会, 67-84.
- 4-1 木下 勇 (2005): 子どもに優しいまちづくり, 教育と文化, 国民教育文化総合研究所, Vol. 40, 58-67.
- 4-2 木下 勇 (2005): 身近な公園に人が関わる新たな仕掛けが求められている, 都市公園, 都市公園協会, 2-5.
- 4-3 木下 勇 (2005): 平和と子どもの成長管理, 都市計画256, (財)日本都市計画学会, 38-41, 分科会2「こどもが事故にあわないまちづくり」, こども環境学研

- 究Vol. 1, No. 2, こども環境学会, 11-12.
- 4-4 木下 勇 (2005): 子どものための街づくり, 保健の科学第47巻第12号, 杏林書院, 861-865.
- 4-5 木下 勇 (2006): スイスにおける景観保全 農村を中心に, 農業と経済Vol. 72, No. 6, 昭和堂, 72-77.
- 5-1 木下 勇 (2005): 子ども参画のまちづくり, 公共建築47-3#185, 公共建築協会, 32-33.
- 5-2 木下 勇 (2005): 子ども参加のまちづくり・都市計画 “子どもだって「市民権」がある”, ビオシティ2005/No.32, ビオシティ, 38-43.
- 6-1 木下 勇 (2005): 日本建築学会 市街地再開発事業における計画参加過程からみた公開的空地の形態と運用に関する研究 その3 公開的空地の管理・運営, 日本建築学会2005年度大会 (近畿) 学術講演梗概集, 381-382.
- 6-2 Kinoshita, Isami (2005): The Fourth Generation's Play-map After the Three Generations', 16th IPA World Conference "Play: Learning for Life", International Play Association, 41.
- 6-3 木下 勇 (2005): 子どもも大人も動き出すまちづくり, 千葉県主催, 栄町みんなでまちづくりフォーラム基調講演, 2005. 8. 7
- 6-4 Kinoshita, Isami (2006): Cross-Cultural Collaborative Design Studio Through Internet —From the Global Classroom by University of Washington and Chiba University, Workshop on Building Research and Educational Program for Scientists and Engineers Based on International Telecommunications and Internet, Chiba University, 10
- 6-5 木下 勇 (2006): 地域の宝物探検からはじめる市民参加の景観まちづくり, 市川市景観まちづくりシンポジウム基調講演, 2006. 3. 5
- 6-6 木下 勇 (2006): 景観とまちづくり: 公開講座「松戸のまちを考えてみよう」(松戸市), 講師.
- 6-7 佐藤拓也・柳井重人 (2005): 都市緑地の環境保全機能の解析・評価と土地利用管理への応用—千葉県松戸市をケーススタディとして—: 環境情報科学34(4), 70-71.
- 6-8 柳井重人 (2005): 都市の緑の役割—松戸の樹林地は今—: 里やまボランティア入門講座 (松戸市), 講師.
- 6-9 柳井重人 (2006): 緑のまちづくり: 公開講座「松戸のまちを考えてみよう」(松戸市), 講師.
- 7-1 福岡克也・柳井重人ほか(2006): 北区環境基本計画: 東京都北区生活環境部環境課, 1-126. 北区環境基本計画策定検討委員会委員, 同地域環境分科会会長.
- 7-2 渡辺俊一・木下 勇ほか (2006): 松戸市パートナーシップ条例案最終答申, 松戸市パートナーシップ条例策定委員会, 1-10
- 7-3 田代順孝・柳井重人ほか (2006): 松戸市緑推進委員会第3期委員会の活動報告と提言: 松戸市緑推進委員会, 1-49. 第3期松戸市緑推進委員会会長代理.
- 界部における野ネズミのミズナラ堅果運搬・貯蔵行動と実生の分布, 森林立地, 48, 25-31.
- 1-2 百原 新, 斎木健一, 奥田昌明 (2006): 下総層群清川層の大型植物化石群とそれにもとづく古気候復元, 第四紀研究, 45(3), 211-216.
- 1-3 守田益宗, 関口千穂, 那須浩郎, 百原 新 (2006): 北海道根釧地方における湿原表層の花粉スペクトル, 植生史研究, 14(2), 45-60.
- 1-4 守田益宗, 関口千穂, 那須浩郎, 百原 新 (2006): 北海道の亜寒帯・亜高山帯域における湿原表層部の花粉分析, Naturalistae, 10, 1-18.
- 1-5 沖津 進 (2005): 北海道の植生垂直分布と極東ロシアの対応植生, 植物地理・分類研究, 53, 121-129.
- 1-6 沖津 進 (2005): アフリカナミビアの半乾燥地における, 牧畜業の基盤としてのサバンナ植生景観の違いをもたらし要因, 熱帯農業, 49, 341-345.
- 1-7 奥田昌明, 百原 新, 平山 廉, 岡崎浩子, 金子尚知 (2006): 下総層群清川層堆積期 (MIS7) の古気候状態—花粉ほか代理指標からの考察—, 第四紀研究, 45(3), 217-234.
- 1-8 Setoguchi, H., Yukawa, T., Tokkuoka, T., Momohara, A., Sogo, A., Takaso, T. and Peng, C. I. (2006): Phylogeography of the genus *Cardiandra* based on genetic variation in cpDNA sequences, Journal of Plant Research, 119 (4), 401-405.
- 1-9 安田正次, 沖津 進 (2006): 上越国境山地における積雪の長期変動—平ヶ岳の植生変化に関連して—, 地理学評論, 79, 503-515.
- 1-10 Zhou, Z. and Momohara, A. (2005): Fossil history of some endemic seed plants of East Asia and its phylogeographical significance, Acta Botanica Yunnanica, 27(5), 449-470.
- 2-1 沖津 進 (2005): 5-1 ハイマツ帯の構成とハイマツ群落の分布, 5-2 風衝矮性低木群落, 5-3 雪田植物群落, 福嶋 司編, [図説] 日本の植生, 96-99, 100-101, 102-103, 朝倉書店, 東京.
- 3-1 百原 新, 周 浙昆, 李 曉賢, 瀬戸口浩彰 (2006) 高山ガシ類化石を含む中国雲南省西部の新生代植物化石群, 植生史研究, 14(2), 43-44.
- 4-1 百原 新, 小林真生子, 林 成多, 清永丈太, 岡崎浩子 (2006): 古環境解析. 千葉大学文学部考古学研究室編「千葉県館山市沖ノ島遺跡第2・3次発掘調査概報」, 31-36, 千葉大学文学部考古学研究室, 千葉市.

緑地気象学

緑地生態学

- 1-1 三浦優子, 沖津 進 (2006): ササ群落と岩塊地の境

- 1-1 Kimura, R., Y. Liu, N. Takayama, X. Zhang, M. Kamichika and N. Matsuoka (2005): Heat and water balances of the bare soil surface and the potential distribution of vegetation in the Loess Plateau, China, Journal of Arid Environments, 63(2), 439-457.
- 1-2 Kimura, R., J. Fan, X. Zhang, N. Takayama, M. Kamichika and N. Matsuoka (2006): Evapotranspiration over the Grassland Field in the Liudaogou Basin of the Loess Plateau, China, Acta Oecologica, 29(1), 45-53.

- 1—3 Liu, L., H.Kon, N. Matsuoka and T. Kobayashi (2005): Coordination between Stomatal Conductance and Leaf-specific Hydraulic Conductance in Maize (*Zea mays L.*), *Journal of Agricultural Meteorology*, 61(3), 143-152.
- 1—4 Matsuoka, N., S. Hoshikawa, K. Deguchi, M. Shirahata and H. Kon (2005): Estimation of Water Loss from Cut Timothy Swaths in the Field by Meteorological Factors, *Proceedings of the International Conference on Research Highlights and Vanguard Technology on Environmental Engineering in Agricultural Systems*, 293-297.
- 1—5 Nakano, S., N. Matsuoka, M. Kamichika, R. Kimura, H. KON and X. Zhang (2005): Estimation of Soil Water Content by Simple Meteorological Components in the Loess Plateau, China, *Proceedings of the International Conference on Research Highlights and Vanguard Technology on Environmental Engineering in Agricultural Systems*, 17-23.
- 1—6 Wang, X., N. Matsuoka, G. Yu, and Z. Zhang (2005): A Study on the Relationship between Vegetation Changes and Cut-offs in the Lower Yellow River Using Satellite and Ground Data, *Journal of Natural Disaster Science*, 27(1), 1-7.
- 6—1 Matsuoka, N., S. Hoshikawa, K. Deguchi, M. Shirahata and H. Kon (2005): Estimation of Water Loss from Cut Timothy Swaths in the Field by Meteorological Factors, *International Conference on Research Highlights and Vanguard Technology on Environmental Engineering in Agricultural Systems Book of Abstracts*, 175-176.
- 6—2 松岡延浩・中野聡史・前田悠里・神近牧男・木村玲二 (2005): 気象要素を用いた半乾燥地域の蒸発量計測法の検討, 平成17年度乾燥地研究センター共同研究発表会講演要旨集, 3-4.
- 6—3 Nakano, S., N. Matsuoka, M. Kamichika, R. Kimura, H. Kon and X. Zhang (2005): Estimation of Soil Water Content by Simple Meteorological Components in the Loess Plateau, China, *International Conference on Research Highlights and Vanguard Technology on Environmental Engineering in Agricultural Systems Book of Abstracts*, 173-174.
- 6—4 王 秀峰・松岡延浩 (2006): 衛星データと気候データを用いた黄河流域の植生変化に関する研究, 日本農業気象学会2006年春季大会講演要旨, 40.
- 緑地環境工学**
- 1—1 楊 帆, 劉 志軍, 馬 忠秋, 張 万軍, 唐 常源 (2005): 土壌水分挙動と災害防止減輕に関する解析について, *水土保持学報*, Vol. 12(6): 14-16. (中国語)
- 1—2 楊 聡, 於 静潔, 劉 昌明, 宋 献方, 胡 堃, 李 發東, 唐 常源 (2005): 華北山地斜面における地表流発生に関する試験研究, *地理学報*, Vol. 60(6), 1021-1028. (中国語)
- 1—3 Xiao JY, Shen YJ, Ge JF, Tateishi R, Tang C, Liang YQ and Huang ZY. (2006) Evaluating urban expansion and land use change in Shijiazhuang, China, by using GIS and remote sensing, *Landscape and Urban Planning*, Vol. 75, 69-80.
- 1—4 Tang C., Chen JH, Kondo K. and Lu Y. (2006): Characteristics of soil water movements and water table at the Leizhou peninsula, Guangdong province, China. *Advances in Geosciences*, Vol. 4: Hydrol. Sci., World Scientific, 219-227.
- 1—5 劉 相超, 宋 献方, 夏 軍, 於 静潔, 胡 堃, 楊 聡, 李 發東, 唐 常源 (2006): 華北山地斜面における土壌水挙動に関する実験, *水文地質工程地質*, Vol. 33(4): 76-80. (中国語)
- 1—6 Chen JY., Tang C and Yu JJ. (2006): Use of ^{18}O , ^2H and ^{15}N to identify nitrate contamination of groundwater in a wastewater irrigated field near the city of Shijiazhuang, China. *Jour. Hydrol.*, Vol. 326, 367-378.
- 1—7 Aji K., Tang C., Kondo K. Song, XF. and Sakura, Y. (2006): Environmental isotopes of precipitation, groundwater and surface water in Yanshan Mountain, China. *Advances in Geosciences*, Vol. 4: Hydrol. Sci., World Scientific, 11-16.
- 1—8 唐 常源, 陳 建耀, 宋 献方, 張 万軍 (2006): 石家庄市近郊地下水環境に与える污水灌漑の影響について *資源科学*, Vol. 28(1), 102-108. (中国語)
- 1—9 Liu XC, Xia J., Song XF., Yu JJ., Tang C. and Zhan CS (2006): A study of surface water and groundwater using isotopes in Huaishaha basin in Beijing, China. *IAHS Publ.*, No. 302, 106-114.
- 緑地環境情報学**
- 1—1 Tsuyoshi Honjo, Enmi Lim and Kiyoshi Umeki, (2005): Three Dimensional Landscape Design and Visualization by VRML, *Proceeding of the 19th International Conference, Informatics for Environmental Protection*, 739-746.
- 1—2 En-Mi Lim, Tsuyoshi Honjo and Kiyoshi Umeki, (2006): The validity of VRML images as a stimulus for landscape assessment, *Landscape and Urban Planning*, 77, 80-93.
- 1—3 林 恩美・ソフィア トーソン・フレドリック リンドバーグ・本條 毅・インリヤード エリアソン・梅木 清, (2005): 屋外空間における温熱感指標と温熱感覚との関係について, *環境情報科学論文集*19, 53-58.
- 1—4 菅原広史, 成田健一, 三上岳彦, 本條 毅, 石井康一郎 (2006): 都市内緑地におけるクールアイランド強度の季節変化と気象条件への依存性, *天気*, 53, 3-14.
- 1—5 上田絃司, 田崎みのり, 本條 毅, 梅木 清, 林 恩美 (2005): メッシュ気候値作成時のニューラルネットワークと重回帰分析の精度比較, *環境情報科学論文集*19, 49-52.
- 1—6 Kiyoshi Umeki, Tatsuyuki Seino, Eun-Mi Lim and Tsuyoshi Honjo, (2006): Patterns of shoot mortality in *Betula platyphylla* in northern Japan, *Tree Physiology* 26, 623-632.
- 3—1 林 恩美, (2005): GISデータとWeb3Dテクノロジーを利用したインターネット上での景観可視化・評価シ

- ステムの開発, 財団法人日本建設情報総合センター,
第3回研究助成事業成果報告会資料集, 163-191
- 3-2 林 恩美, (2006): 仮想現実感, Webテクノロジーを利用した景観可視化・評価システムの開発と実用化, 平成17年度~平成18年度科学研究費補助金(若手研究(B)) 実績報告書(課題番号17780019)
- 5-1 本條 毅, (2006): 植物成長モデルと景観シミュレーション, 建築雑誌, Vol. 121, No.1545, 46-47
- 6-1 Tsuyoshi Honjo, Hiroshi Ueda, Yui Nagatani, Eunmi Lim, Kiyoshi Umeki, (2005): Analysis of factors which affects surface temperature of urban green areas, The 11th CEReS International Symposium on Remote Sensing, 2005
- 6-2 Tsuyoshi HONJO, Eun-Mi LIM, Sofia THORSSON, Fredrik LINDBERG, Ingegard ELIASSON, (2006): A Study on the Relation between Thermal Index and Thermal Sensation in the Outdoor Environment, SIXTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON URBAN CLIMATE 12-16 JUNE, 2006, GOTEBOURG, SWEDEN
- 6-3 Tsuyoshi HONJO, Yui NAGATANI, Ken-ich NARITA, Hirofumi SUGAWARA, Takehiko MIKAMI, (2006): Analysis of cool air movement on the urban park, SIXTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON URBAN CLIMATE 12-16 JUNE, 2006, GOTEBOURG, SWEDEN
- 6-4 永谷 結, 林 恩美, 梅木 清, 本條 毅 (2006): 新宿御苑における冷氣移動の解析, 日本農業気象学会2006年春季大会, 72.
- 6-5 清水ひろみ, 程 希平, 梅木 清, 林 恩美, 本條 毅 (2006): 北海道カラマツ人工林の樹高成長に対する気象・地形・土壌・地質要因の影響, 日本農業気象学会2006年春季大会, 76.
- 6-6 梅木 清, 巴 特尔, 本條 毅, 林 恩美 (2006): シラカンバー次枝成長に対する前年光環境の影響, 日本生態学会大会, 53:189
- 6-7 梅木 清, 清水ひろみ, 程 希平, 林 恩美, 本條 毅 (2006): 広範囲に適応可能な北海道カラマツ人工林の地位指数予測, 第117回日本森林学会大会, 611
- 6-8 矢澤佳子, 梅木 清, 本條 毅, 林 恩美 (2006): 屋久島照葉樹林における樹木の空間獲得パターン, 日本生態学会大会, 53:243

園芸経済学科

園芸経営情報学講座

園芸経営技術学

- 1—1 張 秋柳・斎藤 修 (2006)：インテグレーションをめぐる垂直的主体間関係と経営戦略，フードシステム研究，第12巻3号，2-12
- 1—2 栗原伸一・丸山敦史・霜浦森平・西山未真・A.E. Lullhoff・廣瀬牧人・松田友義 (2006)：食の安全情報と消費者行動に関する基礎的研究 食と緑の科学 60，99-108
- 1—3 木下智英・吉田義明 (2006)：平成15年東北冷害の経営的背景—平成5年冷害との比較検討—，食と緑の科学 60，29-33
- 1—4 斎藤 修 (2006)：農産物マーケティング論の新展開，八木宏典編「農業経営の持続的成長と地域農業」，養賢堂，11-22
- 1—5 斎藤 修 (2006)：食品産業と農業の連携から食料産業クラスターへ，農業と経済，2006. 2，5-14
- 1—6 西山未真 (2005)：新しい農と食の関係構築への視点，農業白書を読む，農業と経済 別冊，31
- 1—7 斎藤 修 (2005)：青果物のシステム間競争と小売主導型流通システム，斎藤 修編「青果物フードシステムを考える」農林統計協会，1-28
- 1—8 斎藤 修・愛徳朋子 (2005)：果実の価格形成と流通システム，斎藤 修編「青果物フードシステムの革新を考える」農林統計協会，80-109
- 1—9 斎藤 修 (2005)：地域に密着した食料産業クラスターの形成と地域ブランドの確立，農文協・食料農業農村21世紀の日本を考える，第31号，4-10
- 2—1 斎藤 修・安玉発 編 (2005)：食品系統研究 (中国語)，中国農業出版社，1-235
- 2—2 斎藤 修編 (2005)：青果物フードシステムの革新を考える，農林統計協会，1-112
- 2—3 斎藤 修・西山未真 (2005)：農業と食品産業の連携，農文協・自然と人間を結ぶ，農村文化運動 178，1-67
- 2—4 川手督也・西山未真 (2005)：農家の家族関係と変容と家族経営協定，戦後日本の食料・農業・農村第11巻農村社会史，農林統計協会，419-454
- 3—1 斎藤 修 (2006)：農産物をめぐる実需者ニーズと生産者の対応，農産物・販路開拓マニュアル，都市農山漁村交流活性化機構，6-14
- 3—2 斎藤 修 (2006)：北東アジアにおける食料産業クラスターの形成条件，八木宏典 (代表) 地域貿易協定進展下における東アジア農業の競争と強調条件の解明，平成15—17年科学研究費補助金 (基盤研究(A))，94-113
- 3—3 斎藤 修 (2006)：地域ブランド管理の体系化と基本的課題，平成17年度アグリビジネスサポート事業報告書，日本アグリビジネスセンター，91-103
- 3—4 斎藤 修 (2006)：東アジアの落花生産業クラスターと国産ブランド化の課題，平成17年度アグリビジネスサポート事業報告書，日本アグリビジネスセンター，81-90
- 3—5 斎藤 修 (2006)：中山間地における健康食品産業クラスターの形成，平成17年度アグリビジネスサポート事業報告書，日本アグリビジネスセンター，31-42
- 3—6 斎藤 修 (2006)：沖縄県の薬草産業における産業クラスターの形成と企業行動，平成17年度アグリビジネスサポート事業報告書，日本アグリビジネスセンター，43-58
- 3—7 西山未真 (2006)：バンコク近郊野菜産地における個別農家の経営展開と環境意識，東南アジア大都市近郊における淡水浄化型農業システムの最適化 平成14年度～平成16年度科学研究費補助金基盤研究B(2)研究成果報告書
- 3—8 西山未真 (2005)：インターネット利用がもたらす新しい農村地域社会のあり方—日本の女性起業とアメリカのCSA農場における生産者・消費者交流を事例として—，電気通信普及財団研究助成成果報告書 No20，85-91
- 3—9 西山未真 (2005)：平成17年度女性農業者リーダー全国会議 ワークショップテキスト，農山漁村女性・生活活動支援協会，11-13
- 3—10 西山未真 (2006)：平成17年度女性農業者リーダー全国会議，分科会報告，農山漁村女性・生活活動支援協会，1-30
- 4—1 斎藤 修 (2006)：農地制度改正と食品・関連企業の農業参入，その社会的意義，WEB Journal，74号，31-34
- 4—2 斎藤 修 (2006)：JAの事業革新とアグリビジネス経営，全国農協中央会，JA，12月号，31-33
- 4—3 斎藤 修 (2005)：果実の価格形成と流通システムの新展開，果実日本，10月号，18-25
- 4—4 斎藤 修 (2005)：流通の最新事情をさぐる⁽¹⁸⁾ 地域ブランド化の課題と戦略①，果実日本，11月号，80-84
- 4—5 斎藤 修 (2005)：流通の最新事情をさぐる⁽¹⁹⁾ 地域ブランド化の課題と戦略②，果実日本，12月号，72-73
- 4—6 斎藤 修 (2006)：流通の最新事情をさぐる⁽²⁰⁾ 地域ブランド化の課題と戦略③，果実日本，1月号，101-103
- 4—7 斎藤 修 (2006)：流通の最新事情をさぐる⁽²¹⁾ 地域ブランド化の課題と戦略④，果実日本，3月号，66-67
- 4—8 斎藤 修 (2006)：流通の最新事情をさぐる⁽²²⁾ 地域ブランド化の課題と戦略⑤，果実日本，5月号，55-57
- 4—9 斎藤 修 (2006)：食品産業と農業の連携深化，日本食糧新聞，1月1日，36
- 4—10 斎藤 修 (2006)：紀州南高梅におけるクラスターの形成と地域の活性化，日本食糧新聞，5月31日，10-11
- 4—11 斎藤 修 (2006)：クラスターの形成と地域振興，日本食糧新聞，4月5日，6
- 4—12 斎藤 修 (2006)：日本の農業232小柴有理江「農産物直売所とインショップの存立構造」座談会，農政調査委員会，153-183
- 4—13 斎藤 修 (2006)：日本の農業234 野中・清野・磯

- 島「青果物に対する生協組合員のフードバック情報管理」コメント, 農政調査委員会
- 4—14 西山未真 (2006): 地域づくりに「食」生かそう, ちばぶれいく 研究室の窓から, 東京新聞, 2006. 1. 25, 22
- 6—1 斎藤 修 (2005): 食料産業クラスター形成をめぐる課題と展開方向, 近畿地域食料産業クラスター形成シンポジウム, 食品産業センター・近畿農政局, 9-44
- 6—2 斎藤 修 (2006): 地域ブランド化の戦略と課題, 知的財産の利活用と地域産品のブランド化セミナー, 関東農政局・食品産業センター, 4-26
- 6—3 斎藤 修 (2006): 食料産業クラスターの形成条件と地域ブランド構築の課題, 日本フードシステム学会関東支部報告 (食料産業クラスターとブランド化戦略—新たな地域発展の可能性を目指して)
- 6—4 斎藤 修 (2005): 農林水産業と食品産業等の連携による新しい「農と食」の創造を目指して, フードテクノinつくば, 関東農政局, 食品総合研究所, 食品産業センター
- 6—5 斎藤 修 (2006): 農業と食品産業の提携による地域ブランドの確立, 北海道農業研究センター
- 6—6 斎藤 修 (2005): 流通システムの変化とマーケティング戦略, 秋田県・農業マーケティング戦略研究会
- 6—7 斎藤 修 (2006): 高収益の農業を目指すアグリベンチャーの経営戦略, 埼玉県平成17年度アグリベンチャーセミナー
- 6—8 斎藤 修 (2006): マーケットニーズに応える部会活動—産地マーケティングの革新, 鹿児島県農協野菜部会協議会
- 6—9 斎藤 修 (2006): 地域の新たな担い手と経営システムの時代, 埼玉県高等学校農業教育研究会
- 6—10 斎藤 修 (2006): 流通システムの変化と農業経営の販売戦略, 全国野菜園芸技術研究会
- 6—11 斎藤 修 (2006): 千葉県における提携のあり方, ちば「食」産業連絡協議会設立準備会
- 6—12 斎藤 修 (2006): 激変する販売チャネルの多様化とJAがもめているもの, JA中野市 (長野県)
- 6—13 村瀬督史郎, 西山未真, 斎藤 修 (2005): 農業生産法人による地域管理と経営戦略—石川県珠洲市の中山間地域を対象として—, 日本農業経営学会個別報告, 農業経営研究 43-4, 70
- 6—14 李 梅・吉田義明 (2005): 中国園芸における種苗問題—沿岸部園芸産地を事例として—日本農業経営学会個別報告, 農業経営研究 43-4, 82
- 6—15 氏家美由紀・西山未真・吉田義明 (2005): 農業研修生の教育プログラムと主体形成—北海道新得町レディスファームスクールを事例として—, 日本農業経営学会個別報告, 農業経営研究 43-4, 71
- 6—16 西山未真 (2005): 千葉県主催農山漁村女性団体ネットワーク会議研修会「農山漁村で男女に輝く地域づくり」シンポジウム講演, 研修会テキスト1-2.
- 6—17 西山未真 (2005): 女性起業と地域振興, 平成17年度女性農業者リーダー全国会議, 研修会資料1-2.
- ### 園芸情報処理学
- 1—1 Ohe, Y. (2005): The Impact of Rural Road Building on Pick-your-own Fruit Farming in Gunma, Japan, Japanese Journal of Tourism Research, 4, 13-21.
- 1—2 Ohe, Y. (2006): On the Relationship between Multifunctionality and Hamlet Activities as a Rural Institution, The Japanese Journal of Rural Economics, 8, 41-57.
- 1—3 Ohe, Y. (2006): Multifunctionality and Farm Structure: Evaluating Jointness of Educational Function of Dairy Farming, Contributed paper for 96th EAAE Seminar "Causes and Impacts of Agricultural Structures", Taenikon, Switzerland, 1-23.
- 1—4 栗原伸一・A.E. Luloff (2005): 農業が地域社会に与える影響と持続的経営への戦略 —ペンシルバニア州サスケハナ河川域における意識調査から—, 農業経営研究, 43(2), 69-72.
- 1—5 栗原伸一 (2005): 食品に対する消費者意識と安全性評価, フードシステム研究, 12(2), 5-21.
- 1—6 栗原伸一・A.E. Luloff・J.C. Finley (2006): 地域資源がコミュニティ評価に与える影響の構造分析 —ペンシルバニア州ベッドフォード郡における調査から—, 2005年度日本農業経済学会論文集, 472-476.
- 1—7 栗原伸一・霜浦森平 (2006): コミュニティ評価の要因分析 —千葉県における都市・農村比較—, 農業情報研究, 15(1), 15-24.
- 1—8 栗原伸一 (2006): 酪農経営の因果構造分析 —全国基礎調査からの接近—, 食と緑の科学 (千葉大学園芸学部学術報告), 60, 35-41.
- 1—9 栗原伸一・丸山敦史・霜浦森平・西山未真・廣瀬牧人・A.E. Luloff・松田友義 (2006): 食の安全性情報と消費者行動に関する基礎的研究, 食と緑の科学 (千葉大学園芸学部学術報告), 60, 99-108.
- 1—10 霜浦森平・栗原伸一 (2005): 社会保障の経済効果に関する産業連関分析 —公共事業費の削減による基礎年金財源の確保に着目して—, 農村計画論文集, 7, 127-132.
- 1—11 Shimoura, S., S. Kurihara, A.E. Luloff (2006): A Case Study of the Influence of Rural Tourism on Farm Village Endogenous Development, Hort Research (The Technical Bulletin of Faculty of Horticulture Chiba University), 60, 67-73.
- 1—12 櫻井清一・横山繁樹・小野 洋・唐崎卓也・霜浦森平・松下秀介 (2006): 農村経済の多角化と地域集団: 構造的な社会関係資本への着目, 農業経営研究, 44(1), 100-104.
- 1—13 青木紀美子・霜浦森平・栗原伸一・大江靖雄 (2006): 鶏肉の購買行動と要因分析—鳥インフルエンザの影響を受けた消費者の特性分析—, 2005年度日本農業経済学会論文集, 265-267.
- 1—14 津田 治・大江靖雄 (2006): 生ごみに関する経済学的研究成果と今後の課題, 食と緑の科学 (千葉大学園芸学部学術報告), 60, 79-83.
- 2—1 大江靖雄 (2006): グリーンツーリズム (前田 勇・

- 佐々木土師二監修, 小口孝司編集『観光の社会心理学 ひと・こと・もの—3つの視点から』, 北大路書房, 106-121.
- 2—2 大江靖雄 (2006): 農業の新たな機能と農村観光の可能性—一定年婦農者による農林漁業体験民宿を事例として— (総合観光学会編『競争時代における観光からの地域づくり戦略』, 同文館出版, 73-88.
- 2—3 霜浦森平 (2006): 兵庫県多可町八千代地区のグリーン・ツーリズムによる経済効果 (宮崎猛編著『日本とアジアの農業・農村とグリーン・ツーリズム』, 昭和堂, 78-95.
- 3—1 大江靖雄 (2006): 農業の教育機能サービス提供活動の実態と結合性に関する実証分析—畜産経営と耕種経営の違いを中心に—, 平成17年度酪農経営を取り巻く周辺環境に関する調査研究事業報告書, 農政調査委員会, 2006, 73-104.
- 3—2 中澤純治・霜浦森平 (2006): 地域共同管理機能, 「舞鶴市農業・農村の公益的 (多面的) 機能評価に関する研究」報告書, 京都・まいづる立命館地域創造機構, 22-32.
- 5—1 大江靖雄 (2005): 多面的機能としての教育機能とその市場規模, 農業と経済 臨時増刊, 47-59.
- 5—2 大江靖雄 (2005): 流通の最新事情を探る(16)イタリア・アグリツーリズムの地域性と特徴, 果実日本, 60(7), 93-95.
- 5—3 大江靖雄 (2005): 流通の最新事情を探る(17)今後の農村ツーリズム活動振興へ向けての課題, 果実日本, 60(9), 82-83.
- 5—4 大江靖雄 (2006): 果樹でグリーン・ツーリズムを進める 第1回 多面的機能のビジネス化に向けて, 果実日本, 61(1), 106-107.
- 5—5 霜浦森平 (2006): 果樹でグリーンツーリズムを進める 第5回 果樹農業によるワーキングホリデーの展開: 長野県飯田市の取り組みから, 果実日本, 61(7), 86-87.
- 6—1 Ohe, Y. (2005): Activity and Dilemma of Educational Dairy Farms in Japan, Seminar on Japanese Educational Farm Activity, Rambouillet, France, 1-18.
- 6—2 Ohe, Y. (2005): Multifunctionality and Agritourism: A Japanese Perspective, Seminar at University of Perugia, Italy, 1-20.
- 6—3 Ohe, Y. (2005): The Impact of Rural Road Building on Farm Diversification: Evidence from Japanese Pick-your-own Fruit Farming. The 5th International Conference of Asian Society of Agricultural Economists, Contributed Paper Session, Zahedan, Iran, 1-22.
- 6—4 大江靖雄 (2005): スキー農家民宿からグリーンツーリズムへの展開条件, 総合観光学会第9回学術研究大会発表要旨, 23-24.
- 6—5 Ohe, Y. (2006): Multifunctionality and Farm Structure: Evaluating Jointness of Educational Function of Dairy Farming, Contributed paper for 96th EAAE Seminar "Causes and Impacts of Agricultural Structures", Taenikon, Switzerland, 1-4.
- 6—6 大江靖雄 (2006): 教育機能の制度的結合性に関する実証分析, 第1回農業の教育機能に関するワークショップ資料, 1-4.
- 6—7 大江靖雄 (2006): イタリア農業の地域性と共通農業政策, 国立国会図書館調査及び立法考査局報告資料, 1-5.
- 6—8 大江靖雄 (2006): グリーンツーリズムの考え方, 千葉県グリーン・ブルーツーリズム担い手養成塾講座資料, 1-4.
- 6—9 Ohe, Y. (2006): Evaluating Jointness of Educational Function as a Multifunctional Activity: A Case of Dairy Farming, Annual Conference of Agricultural Economics Society of Japan, Tokyo, Japan, 1-3.
- 6—10 大江靖雄 (2006): 年婦農者による農村ツーリズムの可能性と意義, 総合観光学会第10回学術研究大会発表要旨, 21-22.
- 6—11 Ohe, Y. (2006): Concepts and Approaches in the Development of Agro-tourism, Resource Paper for APO Multi-country Study Mission on Agro-tourism for Enhancing Business Opportunities in Rural Areas, Taichung, Taiwan, 1-15.
- 6—12 栗原伸一・A.E. Luloff・J.C. Finley (2005): 中山間地域における持続的地域社会の構築 —ベンシルバニア州での住民アンケート調査から—, 2005年度日本農業経済学会大会報告要旨, 75.
- 6—13 栗原伸一・霜浦森平 (2005): 社会保障と地方財政に関する住民意識 —千葉県における都市農村比較—, 平成17年度日本農業経営学会研究大会報告要旨Ⅱ, 135-138.
- 6—14 霜浦森平・栗原伸一 (2005): 社会保障の経済効果に関する産業連関分析 —公共事業費の削減による基礎年金財源の確保に着目して—, 2005年度農村計画学会秋期大会.
- 6—15 霜浦森平 (2005): 地産池消に関する産業連関分析: 2000年千葉県産業連関表を用いて, 第54回地域農村経済学会大会報告要旨, 139.
- 6—16 霜浦森平 (2006): 地産池消の実態と課題: 産業連関表を用いた検討, 日本フードシステム学会大会 (セッション報告), 東京大学, 報告要旨集, 70-71.
- 6—17 Maruyama, A., S. Kurihara, S. Shimoura, M. Nishiyama, A.E. Luloff and T. Matsuda (2006): BSE-Related Risk Perceptions and Attitudes of Japanese Consumers: An Opinion Survey of the Tokyo-Metropolitan Area, Third World Congress of Environmental and Resource Economists, Kyoto International Conference Hall.
- 6—18 青木紀美子・霜浦森平・栗原伸一・大江靖雄 (2005): 鶏肉の購買行動と要因分析 —鳥インフルエンザによる影響を中心に—, 2005年度日本農業経済学会大会報告要旨, 38.
- 6—19 室伏哲雄・荒川 智・栗原伸一 (2005): 知的障害養護学校における自閉症教育の位置づけ—教員の意識調査の結果から—, 日本特別ニーズ教育 (SNE) 学会第11回大会発表要旨集, 62-63.
- 6—20 中村和永・霜浦森平・栗原伸一・大江靖雄 (2005):

- 栽培学習の「食育」効果に関する一考察, 平成17年度日本農業経営学会研究大会報告要旨Ⅱ, 95-98.
- 9-1 大江靖雄 (2006): 園芸経済学科の近況, 戸定会会報 2006, 6.
- ### 国際地域情報学
- 2-1 松田友義 (2005. 7), 「ITシステム化の考え方と可能性」, 新山陽子編著『解説 食品トレーサビリティシステム』昭和書房
- 2-2 松田友義 (2005. 7) 松田友義編著『食品認証ビジネス講座—安全・安心のための科学と仕組み—』幸書房
- 2-3 松田友義 (2006. 2), 「地域性種苗のためのトレーサビリティ・システム」 亀山 章監修, 小林達明・倉本 宣編集『生物多様性緑化ハンドブック』地人書館
- 5-1 松田友義・内野敏剛 (2005. 9), 「トレーサビリティシステム普及の現状と課題」『農業環境工学関連7学会2005年合同大会講演要旨集』, 101.
- 5-2 松田友義 (2005. 8), 「トレーサビリティの現状と課題」『今月の農業』化学工業日報社, 13-16.
- ### 生物資源経済学講座
- ### 園芸経営経済学
- 1-1 S. Sakata, A. Maruyama and M. Kikuchi, "Air and Water Pollution in the United States: an Interstate Analysis of Selected Pollutants" *HortResearch* 60 50-61 2006
- 1-2 丸山敦史, 則兼有里, 菊池眞夫. 「ごみ処理サービスの需要分析: 千葉県を事例として」『食と緑の科学』60. 43-49. 2006.
- 4-1 栗原伸一, 丸山敦史, 霜浦森平, 西山未真, A.E. Lulloff, 松田友義 「食の安全性情報と消費者行動に関する基礎的研究」『食と緑の科学』60. 99-108. 2006.
- ### 園芸流通経済学
- 1-1 Fuwa, Nobuhiko, and James N. Anderson (2006). "Filipina Encounters with Japan: Stories beyond the stereotype from a Pangasinan Barangay." *Philippine Studies*, Vol. 54, No. 1. 111-141.
- 1-2 Fuwa, Nobuhiko (2006). "Pathways out of rural poverty: a case study in socio-economic mobility in the rural Philippines." *Cambridge Journal of Economics*. (Advance Access published on May 30, 2006)
- 1-3 櫻井清一・横山繁樹・小野 洋・唐崎卓也・霜浦森平・松下秀介 (2006): 農村経済の多角化と地域生活集団, 農業経営研究, 44(1), 100-104.
- 1-4 中村哲也, 慶野征嶺(2006): 野菜の選択基準とトレーサビリティに関する消費者評価—選択型コンジョイント分析による接近—, 農林業問題研究, 42(1), 150-155.
- 2-1 Balisacan, Arsenio and Nobuhiko Fuwa (2006). "Changes in Spatial Income Inequality in the Philippines: An Exploratory Analysis." *Spatial Disparities in Human Development: Perspectives from Asia*. (eds.) Ravi Kanbur, Tony Venables and Guanghua Wan. United Nations University Press. 207-232.
- 2-2 Seiji Keino (2006): "Globalization of Marketing System for Vegetables and Traceability", *Globalization of Chinese Agriculture*, eds. Pei Guo, Xian XIN, and Xiuqing Wang, China Agriculture Press, 106-111.
- 2-3 櫻井清一 (2005) 「地産地消の現状と将来展望」『2005年度農産物流通技術年報』, 流通システム研究センター, 33-37.
- 3-1 Fuwa, Nobuhiko and Asa J. Sajise. (2006). "Toward Environmental Services Incentive Policies for the Rice Sector: a survey and a Philippine Case Study." 国連食料農業機関 (FAO) 報告書
- 3-2 Fuwa, Nobuhiko, with Esther Marciano and Joel Reano (2005). Report on the 2003 Livelihood System of Rural Household Survey in the Philippines. 国際稲研究所 (International Rice Research Institute) 報告書
- 3-3 慶野征嶺, 櫻井清一, 汪 曉紅: 輸入青果物の流通システムとトレーサビリティシステムに関する経済的研究, 平成15年度~17年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 研究成果報告書.
- 3-4 櫻井清一 (2006) 直売をきっかけとした農業部門の事業領域拡大, 平成17年度食料産業クラスター形成支援事業報告書, 食品産業センター, 14-19.
- 3-5 櫻井清一 (2006) 高圧処理技術を利用した加工食品の開発にみる組織間連携の特徴, 平成17年度食料産業クラスター形成支援事業報告書, 食品産業センター, 53-57.
- 3-6 櫻井清一 (2006) 構造改革特区を活用した原料と製品の一貫生産の取組み, 平成17年度食料産業クラスター形成支援事業報告書, 食品産業センター, 68-72.
- 4-1 櫻井清一 (2006) 地産地消の意義と今後の課題, 長期金融, 94, 1-3.
- 5-1 櫻井清一 (2005) 地産地消とコミュニティー, 東京新聞, 2005年8月24日, 千葉版
- 5-2 櫻井清一 (2006) 環境保全型農業生産・流通の発展に向けて—宮城県の産地に学ぶ—, 野菜情報, 25, 14-22.
- 6-1 Balisacan, Arsenio and Nobuhiko Fuwa (2005). "Poverty and Vulnerability in Asia." Southeast Asian Regional Center for Graduate Study and Research in Agriculture (SEARCA) 主催シンポジウム「Agricultural and Rural Development in Asia: Ideas, paradigms and policies three decades after」報告. 2005年11月.
- 6-2 Fuwa, Nobuhiko (2005). "How inefficient are small-scale rice farmers in eastern India really?: Examining the effects of microtopography on technical efficiency estimates." アメリカ農業経済学会年次総会報告, 2005年7月.
- 6-3 Fuwa, Nobuhiko (2005). "Exploring New VLS Research Agenda." Yale University・International Crop Research Institute for Semi-Arid Tropics (ICRISAT) 共催ワークショップ「Changes, Livelihood, and Policy: Village Level Studies (VLS)」報告. 2005年7月.
- 6-4 櫻井清一・横山繁樹・小野 洋・唐崎卓也・霜浦森

- 平・松下秀介 (2005) 農村経済の多角化と地域集団活動, 平成17年度日本農業経営学会研究大会報告要旨Ⅱ, 1389-142.
- 6-5 櫻井清一・横山繁樹・霜浦森平 (2005) 農村多角化と生産者の社会的ネットワーク, 第53回日本農村生活研究大会報告要旨, 80-81.
- 6-6 櫻井清一・横山繁樹 (2005) 農村多角化と社会関係資本 —日本の農村での経験より— 第16回国際開発学会全国大会報告論文集, 100-103.
- 6-7 櫻井清一・横山繁樹・霜浦森平 (2006) 農家経営多角化活動の展開と農村の社会関係, 2006年度日本農業経済学会報告要旨, K 7.
- 9-1 櫻井清一 (2005) 書評 三島徳三著『地産地消と循環的農業』, 農林統計調査, 55(2), 62-63.
- 9-2 櫻井清一 (2006) 書評 能口るり子・佐藤和憲編『農業経営の新展開とネットワーク』, 農業経営研究, 44 (1), 193-194.

留学生・国際交流担当

- 1-1 A. F. M. Saiful Islam, Chieri Kubota, Michiko Takagaki, Toyoki Kozai (2006): Effects of ages of plug transplants and planting depths on the growth and yield of sweetpotato., *Scientia Hort.* 108: 121-126.
- 2-1 高垣美智子 (2006): 2.7栄養繁殖, 52-57, 古在豊樹ら編著, 最新施設園芸学, 朝倉書店, 235 p.
- 2-2 高垣美智子 (2006): 4.4生物的防除・物理的防除, 143-147, 古在豊樹ら編著, 最新施設園芸学, 朝倉書店, 235 p.
- 2-3 高垣美智子 (2006): 4.6施設花卉・果樹, 168-176, 古在豊樹ら編著, 最新施設園芸学, 朝倉書店, 235 p.
- 2-4 高垣美智子他47人 (2006): 中学校理科1分野上 (戸田盛和代表), 大日本図書, 155 p.
- 2-5 高垣美智子他47人 (2006): 中学校理科1分野下 (戸田盛和代表), 大日本図書, 137 p.
- 2-6 高垣美智子他47人 (2006): 中学校理科2分野上 (戸田盛和代表), 大日本図書, 149 p.
- 2-7 高垣美智子他47人 (2006): 中学校理科2分野下 (戸田盛和代表), 大日本図書, 139 p.
- 5-1 高垣美智子 (2005): タイの野菜栽培の動向について, *野菜情報*, 2005. 10, 59-64.
- 6-1 岡野武士・高垣美智子・丸尾 達・篠原 温(2005): 富栄養化淡水の浮遊性物質 (ss) を利用した野菜栽培システムの構築, 農業環境工学関連5学会2005年合同大会発表要旨: 679.
- 6-2 笠原健作・丸尾 達・高垣美智子・篠原 温(2005): 富栄養化淡水の給水量がエンサイの生育に及ぼす影響, 農業環境工学関連5学会2005年合同大会発表要旨: 680.
- 6-3 倉内伸幸・加藤弘子・高垣美智子・中島皐介(2005): 西アフリカにおける *Ipomoea aquatica* Forsk. の地理的分布, *熱帯農業*, 49 (別2): 93-94.
- 6-4 馬島伸郷・丸尾 達・高垣美智子・篠原 温(2006): 養液栽培を用いたベビーリーフの刈り取り再生栽培に関する基礎的研究, *園学雑*, 75 (別1), P 122.

園芸別科

- 1-1 T. Ando, H. Kokubun, H. Watanabe, N. Tanaka, T. Yukawa, G. Hashimoto, E. Marchesi, E. Suarez, I. L. Basulado (2005): Phylogenetic analysis of *Petunia sensu* Jussieu (Solanaceae) using chloroplast DNA RFLP. *Annals of Botany* 96: 289-297.
- 1-2 K. Matsubara, H. Kodama, H. Kokubun, H. Watanabe, T. Ando (2005): Two novel transposable elements in a cytochrome P450 gene govern anthocyanin biosynthesis of commercial petunias. *Gene* 358: 121-126.
- 1-3 T. Ando, N. Ishikawa, H. Watanabe, H. Kokubun, Y. Yanagisawa, G. Hashimoto, E. Marchesi, E. Suarez (2005): A morphological study of the *Petunia integrifolia* complex (Solanaceae). *Annals of Botany* 96: 887-900.
- 1-4 K. Nakamura, K. Matsubara, H. Watanabe, H. Kokubun, Y. Ueda, N. Oyama-Okubo, M. Nakayama, T. Ando (2006): Identification of *Petunia hybrida* cultivars that diurnally emit floral fragrances. *Scientia Horticulturae* 108: 61-65.
- 1-5 MATSUMOTO, T., OMI, Y. (2006): Research on the plants described by the three major anthologies in ancient Japan, *Journal of Environmental Information Science* Vol. 34 (5), 73-80
- 1-6 Zarza Silva, H.A., Maruo, T., Takagaki, M., Hohjo, M., Shinohara, Y. (2005): Lettuce Production Using a Commercial Scale Recirculated Capillary Hydroponic System. *Japanese J. of Tropical Agriculture* 49 (1), 45-52
- 1-7 Chanseetis, C., Shinohara, Y., Maruo, T., Takagaki, M., Hohjo, M. (2005): Growth, Yield, Nitrate and Water Use Efficiency in Tomato Bag Culture Based on Integrated Solar Radiation and Vapor Pressure Deficit Values. *Environ. Control Biol.* 43 (1), 13-20
- 1-8 Chanseetis, C., Shinohara, Y., Maruo, T., Takagaki, M., Hohjo, M. (2005): Development of Fertigation System for Tomato Bag Culture Based on Cumulative Solar Radiation and Vapor Pressure Deficit Values. *Environ. Control Biol.* 43 (2), 97-103
- 1-9 Chanseetis, C., Shinohara, Y., Maruo, T., Takagaki, M., Hohjo, M. (2005): An Estimation of Tomato Transpiration for Effective Fertigation Management System Using Integrated Solar Radiation and Vapor Pressure Deficit. *Environ. Control Biol.* 43 (2), 105-112
- 2-1 篠原 温, 北条雅章, 丸尾 達 (2006), 野菜のつくり方, 東京, 誠文堂新光社, 全144頁
- 5-1 Hohjo, M., (分担) (2005): Vegetable Growing under Protected Cultivation. *Forming Japan* Vol. 39-1, 31-31, 33-35
- 5-2 北条雅章 (2005): 苗テラスを利用したベビーリーフ栽培, *農耕と園芸*, 60-11, 182-185
- 6-1 國分 尚, 中野 信, 安藤敏夫, 渡辺 均, G. Hashimoto, E. Marchesi, E. Suarez, (2005): ペチュニアと近縁属の遺伝資源解析 アルゼンチン・ブラジル産 *Petunia axillaris* の自家 (不) 和合性 *園芸学会雑誌* 74 巻別 2 : 494.
- 6-2 両川公治, 渡辺 均, 安藤敏夫, G. Hashimoto, E. Marchesi, E. Suarez (2005): ペチュニアと近縁属の遺伝資源解析 ペチュニア野生種の繁殖様式 *園芸学会雑誌* 74巻別 2 : 495.
- 6-3 松原紀嘉, 中島 拓, 児玉浩明, 渡辺 均, 國分 尚, 安藤敏夫 (2005): 市販ペチュニア品種のアントシアニン合成系の解析 花冠色素判別DNAマーカーの開発 *園芸学会雑誌* 74巻別 2 : 598.
- 6-4 國分 尚, 渡辺 均, 安藤敏夫 (2006): オタネニンジン栽培の効率化に関する研究 オタネニンジンの光合成特性 *園芸学会雑誌* 75巻別 2 : 169.
- 6-5 渡辺 均, 安藤敏夫, 町田 誠, G. Hashimoto, E. Marchesi, E. Suarez (2006): ペチュニアと近縁属の遺伝資源解析 ペチュニア野生種の種子休眠と休眠打破法 *園芸学会雑誌* 75巻別 1 : 176.
- 6-6 陳 素梅, 松原紀嘉, 國分 尚, 児玉浩明, 渡辺 均, 安藤敏夫 (2006): 市販ペチュニア品種のアントシアニン合成系の解析 市販品種の *Hf1* 遺伝子の起源 *園芸学会雑誌* 75巻別 1 : 177.
- 6-7 金子光彦, 渡辺 均, 橘 大介, 薬師寺圭, 石田夕子, 吉岡孝治 (2006): 屋上緑化向けグランドカバープランツの評価 *園芸学会雑誌* 75巻別 1 : 214.
- 6-8 石田夕子, 渡辺 均, 橘 大介, 薬師寺圭, 中村健二, (2006): 花による屋上緑化 用土厚の違いが灌水回数・灌水水量および地温に及ぼす影響 *園芸学会雑誌* 75巻別 1 : 216.

フィールド科学センター

- 1-1 Fukushima, T., M. Kato, T. Adachi, Y. Hamada, M. Horimoto, M. Komiyama, C. Mori and I. Horii. (2005): Effects of sulfasalazine on sperm acrosome reaction and gene expression in the male reproductive organs of rats. *Toxicol. Sci.*, 85: 675-682
- 1-2 Fukushima, T., T. Yamamoto, R. Kikkawa, Y. Hamada, M. Komiyama, C. Mori and I. Horii (2005): Effects of male reproductive toxicants on gene expression in rat testes. *J. Toxicol. Sci.*, 30: 195-206
- 1-3 伏見裕利, 織田しのぶ, 伊藤 隆, 柴原直利, 喜多敏明, 小松かつ子, 寺澤捷年 (2005): 原子吸光度法を用いた漢薬「石膏」の溶出量に関する研究. *和漢医薬学雑誌*, 22: 24-28
- 1-4 Harada, M., Y. Hayashi, T. Hayashi, M. Karube and T. Ohgama (2005): Effect of moisture content of members on mechanical properties of timber joints. *J. Wood Sci.*, 51: 282-285
- 1-5 Ikegami, F. (2005): Active constituents in Chinese, Ayurvedic and Thai herbal medicines: Applicable separation procedures. *Thai J. Health Res.*, 19: 1-12
- 1-6 Kusama-Eguchi, K., F. Ikegami, T. Kusama, A. Suda, Y. Ogawa, K. Igarashi and K. Watanabe (2005): A rat model of neurolathyrism: repeated injection of L- β -ODAP induces the paraparesis of the hind legs. *Amino Acids*, 28: 139-143
- 1-7 松野義晴・門田朋子・小宮山政敏・森 千里 (2005): 千葉大学における肉眼解剖学の基盤整備の試み. *千葉医学雑誌*, 81: 11-17
- 1-8 Nakamura, T., N. Komai, I. Isogami, K. Ueno, F. Ikegami, K. Ono and S. Yano (2006): Memory and learning-enhancing effect of Daikenchuto, a traditional Japanese herbal medicine, in mice. *J. Nat. Med.*, 60: 64-67
- 1-9 野間 豊・安藤昭一・大澤範高・宮田正信・塚越 覚 (2005): 環境教育における携帯電話の利用に関する実証的研究. *人間・植物関係学会誌*, 5: 6-12
- 1-10 大釜敏正 (2005): 木材の調湿特性. *材料の科学と工学*, 42: 27-31
- 1-11 大釜敏正・今村祐嗣・則元 京・阿部恵子・立本英機 (2005): 木炭の調湿効果. *木材学会誌*, 51: 334-339
- 1-12 大道公秀・松野義晴・小宮山政敏・深田秀樹・戸高恵美子・太田昌彦・宮宗秀伸・門田朋子・森 千里 (2005): 千葉大学における肉眼解剖実習のホルムアルデヒド濃度に関する一考察. *臨床環境医学*, 81: 112-118
- 1-13 Okuda, H., K. Noda, T. Hirabayashi and J.Y. Yonemoto (2005): The relationship between bud dormancy and fruit maturing period in Satsuma Mandarin. *J. Japan. Soc. Hort. Sci.*, 74: 342-344
- 1-14 関矢信康, 地野充時, 小暮敏明, 巽 武司, 喜多敏明, 寺澤捷年 (2006): 真湯湯が奏功したアレルギー性鼻炎の2症例. *日本東洋医学雑誌*, 57: 213-216
- 1-15 Tabuchi, Y., Y. Toyama, K. Toshimori, M. Komiyama, C. Mori and T. Kondo (2005): Functional characterization of a conditionally immortalized mouse epididymis caput epithelial cell line MEPC5 using temperature-sensitive simian virus 40 large T-antigen. *Biochem. Biophys. Res. Comm.*, 329: 812-823
- 1-16 塚越 覚, 吉本葉子, 佐藤玲子, 篠山浩文, 野田勝二, 野間 豊 (2005): 炭化したナシ剪定枝の野菜栽培用土としての有効利用. *園学研*, 287-290
- 1-17 甫立将章・大釜敏正 (2005): 普通教室及び特別教室の床材のイメージ評価. *千葉大学教育学部研究紀要*, 53: 373-378
- 1-18 Yamazaki, K., H. Fukata, T. Adachi, H. Tainaka, M. Kohda, M. Yamazaki, K. Kojima, K. Chiba, C. Mori and M. Komiyama (2005): Association of increased type I collagen expression and relative stromal overgrowth in mouse epididymis neonatally exposed to diethylstilbestrol. *Mol. Reprod. Dev.*, 72: 291-298
- 2-1 Komiyama, M. and C. Mori (2005): Toxicogenomic analysis of human umbilical cords to establish a new risk assessment of human fetal exposure to multiple chemicals. In: *Handbook of Toxicogenomics*, J. Borlak (ed), Weinheim, Wiley-VCH Verlag, pp. 487-506
- 2-2 野田勝二 他 共著 (2005): 園芸療法の科学的解明と健康福祉ビジネス. 野田勝二監修, 千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センター, 千葉.
- 2-3 Tsukagoshi, S. (2005): Environmental Control of Protected Cultivation. Special Issue 'Vegetable Industry Under Protected Cultivation in Japan'. *Farming Japan*, 東京, Farming Japan, LTD. Vol. 39-1. pp. 19-23
- 2-4 塚越 覚・近江慶光・野田勝二・渡辺 均・國分 尚 他 共著 5名 (2005): 樹木と花, 緑のトラブル対策植物医講座. 塚越 覚 監修, 国際文化カレッジ, 東京
- 3-1 池上文雄 他 (2005): 脳・神経疾患及び筋疾患の病因解明と治療法開発のための分子薬理学的基盤の確立. 平成16年度学術フロンティア推進事業研究成果報告書. 日本大学薬学部薬学研究所
- 3-2 喜多敏明 他 (2006): 健康増進サービスのための未病者QOL測定サイトの開発. 平成17年度「ちば産学官連携健康づくり推進事業」報告書
- 3-3 小宮山政敏 他 (2005): 精巢上体の生後機能分化および性ホルモンによるその制御の分子機構. (16590136) 平成16年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)(2)) 研究実績報告書
- 3-4 小宮山政敏 他 (2005): 循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ/モニタリング手法の開発 (K1608). 平成16年度廃棄物処理等科学研究費補助金報告書
- 3-5 小宮山政敏 他 (2005): 植物エストロゲン混餌曝露下におけるエストロゲン様化学物質複合曝露の影響. 日本化学工業協会第5期LRI研究中間報告書
- 3-6 小宮山政敏 他 (2006): 精巢上体の生後機能分化および性ホルモンによるその制御の分子機構 (16590136). 平成17年度科学研究費補助金 (基盤研

- 究(C) 研究実績報告書 (2006)
- 3-7 小宮山政敏 他 (2006): 循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ/モニタリング手法の開発 (K1608). 平成17年度廃棄物処理等科学研究費補助金報告書
- 3-8 野田勝二 他 (2006): 園芸療法を活用したデイサービス業への進出のための調査事業. 国土交通省「平成17年度地域における中小・中堅建設業の新分野進出/経営統合等促進モデル構築支援事業」, 45-48
- 3-9 野田勝二 他 (2006): 精神障害者のより自律的な社会生活を支援するための, 園芸療法を取り入れた看護プログラムの開発. H16-医療-023. 平成17年度厚生労働科学研究費補助金. 医療技術評価総合研究事業研究報告書.
- 3-10 篠山浩文・塚越 覚 他 (2005): 微生物の生態・生理に及ぼすスギ炭化物の影響, 木質バイオマス利活用実用化促進事業中間報告書, 千葉県木質バイオマス新用途開発プロジェクト
- 4-1 池上文雄 (2005): 防已と防已黄耆湯. P & M Kampo 10 (1), 光原社, 東京
- 4-2 池上文雄 (2005): 生姜と補中益気湯. P & M Kampo 10 (2), 光原社, 東京
- 4-3 池上文雄 (2005): 半夏と小柴胡湯. P & M Kampo 10 (3), 光原社, 東京
- 4-4 喜多敏明 (2005): 頭痛・めまいと漢方. ストレスと臨床, 22: 26-29
- 4-5 喜多敏明 (2005): 漢方薬とEBM. 小児外科, 37: 261-264
- 4-6 喜多敏明 (2005): これからのEBMと漢方. 痛みと漢方, 15: 5-9
- 4-7 喜多敏明 (2005): これからのEBMと漢方. ペインクリニック, 26: 1143-1149
- 4-8 喜多敏明 (2005): 消化器心身症と漢方療法. Modern Physician, 25: 1544-1547
- 4-9 並木隆雄, 喜多敏明, 寺澤捷年 (2005): 高血圧症と漢方薬. 血圧, 13: 193-197
- 4-10 篠山浩文・西野文智・塚越 覚・坂本一憲・百原新・沖津 進 (2006): 千葉県木質バイオマス新用途開発プロジェクトから山武町バイオマスタウン構想の展開へ. 食と緑の科学, 60: 91-97
- 5-1 塚越 覚 (連載中): 国内研究紹介, 農耕と園芸, 3, 6, 9, 12月号, 誠文堂新光社.
- 5-2 塚越 覚 (連載中): 園芸技能講座「家庭菜園編」, 緑風, 1~12月号, 日本園芸技能協会.
- 6-1 深田秀樹・櫻井健一・松野義晴・小宮山政敏・戸高恵美子・武城英明・齋藤 康・森 千里 (2005): コレスチミドによる体内ダイオキシン及びPCBの低減. 第14回日本臨床環境医学会総会
- 6-2 Hamada, Y., T. Fukushima, M. Komiyama C. Mori and I. Horii (2005): Changes of gene expression in the epididymides and sperm acrosome reaction in rats treated with sulfasalazine for several days. Society of Toxicology 44th Annual Meeting
- 6-3 池上文雄 (2005): 菘庭標本に学ぶ薬用資源植物の保全. シンポジウム「薬用植物資源の多様性, 分布, 保全, 代替方法」講演要旨集, 38-41
- 6-4 石井真由子・草間国子・山本誠人・須田篤博・草間貞・池上文雄・渡辺和子 (2006): L-β-ODAPによる初代培養運動神経の [Ca²⁺]_i動態と細胞死. 日本薬学会第126年会講演要旨集, 3: 132
- 6-5 喜多敏明 (2005): ストレス疾患に対する漢方の臨床 (教育セミナー). 第46回日本心身医学会総会
- 6-6 喜多敏明 (2005): 証を性格特性によって判別する試み—加味逍遙散・抑肝散加陳皮半夏・桂枝加竜骨牡蛎湯の証に関する検討— (ワークショップ). 第56回日本東洋医学会学術総会
- 6-7 喜多敏明 (2005): 現代医療における東洋医学の意義—薬剤師に何を期待するか— (特別講演). 第18回日本医療薬学会公開シンポジウム
- 6-8 喜多敏明 (2005): 漢方医学の早期体験実習 (early exposure) —千葉大学における漢方医学教育— (ワークショップ). 第37回日本医学教育学会大会
- 6-9 喜多敏明 (2005): 抑うつ症例に対する漢方治療の適応と限界 (シンポジウム). 第22回和漢医薬学会大会
- 6-10 喜多敏明 (2005): 逍遙散加阿膠香附子が奏効した抑うつ状態の二例. 日本東洋医学会第62回関東甲信越支部学術総会
- 6-11 喜多敏明 (2006): 漢方受療者のQOL低下タイプ分類と東洋型未病対策への活用. 第12回日本未病システム学会大会
- 6-12 喜多敏明・角野めぐみ・川嶋裕子・池上文雄 (2005): 初診患者における気血水病態がQOLに及ぼす影響. 第56回日本東洋医学会学術総会. 日本東洋医学会誌, 56: 224
- 6-13 Komiyama, M., T. Adachi, Y. Matsuno, H. Fukata, T. Iguchi and C. Mori (2005): Toward a new risk assessment method of human fetal exposure to multiple chemicals: application of toxicogenomics—from benchside to bedside. International Symposium: The Environmental Risk of Endocrine Disrupter
- 6-14 小宮山政敏・深田秀樹・森 千里 (2005): マウス精巣上体の生後発達過程における遺伝子発現変化. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会
- 6-15 草間国子・曲尾佳織・中荻美紀子・西前好正・須田篤博・池上文雄・草間 貞・渡辺和子 (2006): L-β-ODAP投与連続投与ラット脊髄における変化の定量解析. 日本薬学会第126年会講演要旨集, 3: 133
- 6-16 松野義晴・小宮山政敏・門田朋子・戸高恵美子・深田秀樹・森 千里 (2005): 肉眼解剖実習中におけるホルムアルデヒド室内濃度と個人曝露の測定. 第14回日本臨床環境医学会総会
- 6-17 松野義晴・小宮山政敏・大道公秀・高梨嘉光・宮本廣・門田朋子・前川眞見子・外山芳郎・立木幸敏・河野俊彦・大道正義・森 千里 (2005): 肉眼解剖実習中のホルムアルデヒド曝露: 個人曝露は室内濃度より高い. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会
- 6-18 宮宗秀伸・門田朋子・松野義晴・小宮山政敏・太田昌彦・穴原玲子・高島杏佳・川城由紀子・森 千里

- (2006)：千葉大学における大学院医学修士学生に対する解剖学教育の試み。第111回日本解剖学会総会・全国学術集会
- 6—19 Ohmichi, K., M. Komiyama, Y. Matsuno, Y. Sawabe, H. Miyaso, E. Todaka, H. Fukata, M. Ohmichi, T. Kadota, F. Nomura and C. Mori (2006): Measurement of blood IgE in individuals exposed to formaldehyde. Society of Toxicology 45th Annual Meeting
- 6—20 大野賢二・何 菊秀・赤尾光昭・喜多敏明・寺澤捷年・谿 忠人 (2005)：高血圧随伴症状に用いる漢方製剤とnifedipineのラット小腸における相互作用の検証。第22回和漢医薬学会大会
- 6—21 Osawa, N., K. Noda, S. Tsukagoshi, Y. Noma, A. Ando, T. Shibuya and K. Kondo (2005): Outdoor education by location-awareness using RFID and two-dimensional symbology tags. ED-Media World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications, 276-283
- 6—22 Osawa, N., K. Asai, T. Shibuya, K. Noda, S. Tsukagoshi, Y. Noma and A. Ando (2005): Three-dimensional video distance education system between indoor and outdoor environments. 6th International Conference on Information Technology-based Higher Education and Training, 13-18
- 6—23 角野めぐみ・喜多敏明・川嶋裕子・池上文雄 (2005)：短期間の漢方治療がQOLに及ぼす影響—疼痛患者における活力の重要性—。第56回日本東洋医学会学術総会。日本東洋医学会誌, 56 : 224
- 6—24 高島杏佳・深田秀樹・森 千里・小宮山政敏 (2005)：植物エストロゲン含有餌と外来性エストロゲンの複合曝露の影響。環境ホルモン学会 (日本内分泌攪乱化学物質学会) 第8回研究発表会
- 6—25 Takashima-Sasaki, K., H. Fukata, C. Mori and M. Komiyama (2006): The combined effect of isoflavone and E2 on vaginal opening of female mice. Society of Toxicology 45th Annual Meeting
- 6—26 Yamazaki, K., T. Adachi, K. Sato, Y. Yanagisawa, H. Fukata, N. Seki, C. Mori and M. Komiyama (2006): Identification and characterization of novel and unknown genes and effects of neonatal diethylstilbestrol treatment on these genes expression levels in mouse epididymis. Society of Toxicology 45th Annual Meeting
- 6—27 Yamazaki, K., H. Fukata, T. Adachi, K. Chiba, C. Mori and M. Komiyama (2005): Neonatal diethylstilbestrol treatment causes increased type I collagen expression and relative stromal overgrowth in mouse epididymis. International Symposium: The Environmental Risk of Endocrine Disrupter
- 6—28 山崎康司・深田秀樹・足達哲也・千葉 寛・森 千里・小宮山政敏 (2005)：新生仔期diethylstilbestrol曝露によるマウス精巢上体におけるType I コラーゲンの発現上昇と間質の相対的増加。第110回日本解剖学会総会・全国学術集会
- 6—29 山崎康司・柳澤佑太・足達哲也・深田秀樹・森 千里・関 直彦・小宮山政敏 (2005)：マウス精巢上体アレイの開発と新規精巢上体遺伝子の同定及びその機能解析。日本アンドロロジー学会総会第24回学術大会および第10回精子形成・精巢毒性研究会
- 6—30 山崎康司・柳澤佑太・足達哲也・深田秀樹・関 直彦・森 千里・小宮山政敏 (2005)：新規精巢上体遺伝子5種の機能解析と内分泌攪乱物質曝露がそれらの遺伝子発現に及ぼす影響。環境ホルモン学会 (日本内分泌攪乱化学物質学会) 第8回研究発表会
- 6—31 柳澤佑太・山崎康司・森 千里・小宮山政敏 (2005)：新生仔期DES曝露が及ぼすマウス精巢上体におけるアクアポリンへの影響。日本アンドロロジー学会総会第24回学術大会および第10回精子形成・精巢毒性研究会
- 6—32 柳澤佑太・山崎康司・森 千里・小宮山政敏 (2005)：新生仔期diethylstilbestrol曝露がマウス精巢上体のアクアポリンの発現に及ぼす影響。環境ホルモン学会 (日本内分泌攪乱化学物質学会) 第8回研究発表会
- 6—33 Yanagisawa, Y., K. Yamazaki, C. Mori and M. Komiyama (2006): Effects of neonatal exposure to diethylstilbestrol on aquaporin gene expression levels in mouse epididymis. Society of Toxicology 45th Annual Meeting
- 8—1 寺内文雄・久保光憲・大釜敏正・青木弘行・石橋秀昭・久永剛士 (2005)：花壇及びこれを複数組み合わせさせた花壇セット：園芸療法のレイズドベッド (作業面となる土面を高くした花壇) の形状及びそれらを組み合わせさせたセット。特願2006-130518号
- 9—1 大釜敏正 他 (2005)：文部科学省認定教科書「技術・家庭 技術分野」。開隆堂出版, 東京
- 9—2 野田勝二 他 (2005)：園芸と人の健康～園芸療法の最前線～。平成17年度革新的農業技術習得研修「高度先進技術研修」テキスト